

# 菅久・児玉成弘の作品調査・資料調査

大神 健二

## 1. 本調査の目的

大分市美術館では、特に、戦中から画家としての活動を開始し、戦後本格的に展開した地元在住作家の活動を、平成 19 年度から「郷土在住作家展」として、毎年前期・後期の二回（二人）に分け、その全貌を紹介し、大分における戦後美術の動向の一端を明らかにしてきた。第一回は、光風会会員で第五代県美協会長の仲町謙吉（1920～2010）、自由美術協会会員で第六代県美協会長の脇正人（1926～）。第二回は、独立美術協会会員で県立芸短大名誉教授の廣瀬通秀（1920～）、国画会会員で別府大学名誉教授の岩尾秀樹（1924～）。第三回は、二紀会会員の飯尾寿夫（1928～）、東光会会員で第七代県美協会長の脇坂秀樹（1930～）。平成 22 年度は第四回として、二紀会評議員の菅久（1926～）、行動美術協会会員の児玉成弘（1932～）を取り上げた。

我が国の「戦後美術」（「戦後美術」の語は、ここでは 1949 年の日本アンデパンダン展から 1969 年の日展改組までを意識して用いる）は、海外の新たな美術の流入（1950 年以降の抽象＜アンフォルメル＞、ネオ・ダダ、ポップアートなどの流入）に呼応して、いわゆる前衛美術が次々と展開される一方で、1946 年再発足した「日本美術展覧会」を発表の場とする官展系の画家の活動もあり、まさに多様な主義・主張、多様な様相の中に展開された。また、そうした中、新たに 1945 年の「行動美術協会」、1947 年の「二紀会」、1950 年の「モダンアート協会」など、中央公募美術団体が設立されたが、こうした中央の動きは地方都市にも波及し、県下でも、1948 年の「スバル会」、1951 年の「新世紀群」、1960 年の「大分前衛美術会」等、新たな美術グループが次々と誕生するなど、「戦後美術」の時代は、中央と地方とが密接に連動しながら、美術が展開される時代でもあった。

本調査は、美術史的視点からいえば、いわば、こうした「戦後美術」の時代を生きた美術家、主には「戦後美術」期の実像を改めて明確に把握する目的をもって行なったものである。

## 2. 菅久作品調査

詳細は表 1 に整理した。調査した内容は、油彩画 107 点、水彩・素描 4 点、版画 1 点であった。

## 3. 菅久資料調査

主に出品歴を明確にすることを旨とし、二紀展目録、潮流展目録、個展目録等を主体に調査を行い、これを表 2 に作家略歴として整理した。また、地元新聞記事等は、

別に表 3 に整理した。

#### 4. 児玉成弘作品調査

詳細は表 4 に整理した。調査した内容は、油彩画 105 点であった。

#### 5. 児玉成弘資料調査

菅久と同様に、主に出品歴を明確にすることを旨とし、行動展目録、潮流展目録、個展目録等を主体に調査を行い、これを表 5 に作家略歴として整理した。また、地元新聞記事等は、別に表 6 に整理した。

#### 6. 終わりに—主に菅久、児玉成弘の作風の変遷に関して

今回調査した、菅久と児玉成弘は、共に地元在住ながら中央公募美術団体展に出品を続け、同展の中心的画家として活躍するとともに、県美術界を牽引し続けた画家である。

本調査では、まだ、作品の全体像を把握できたわけではないが、二人の「戦後美術」期の状況には、大雑把に概略すれば、以下のような事柄が確認された。

##### 【菅久】

1950 年代前期：キュビズム的作風に取り組む。

主な作品に《No. 5》（1950 年）、《風景 A（海浜）》（1952 年）他がある。

1950 年代中期から 1960 年代中期：

ジャクソン・ポロックを連想させる作品やアンフォルメル的作風に取り組む。

主な作品に《作品（No. 5）》（1954 年）、《点在する同心円》（1967 年）他がある。

1960 年後半：文字を配した構成主義的作風の作品に取り組む。

主な作品に《十文飾》（1968 年）、《秋の空》（1973 年）他がある。

1970 年代中期：ポール・デルボー風な人体表現に取り組む。

主な作品に《赤いトランク》（1975 年）、《四つの帽子のドラマ》（1977 年）他がある。

##### 【児玉成弘】

1950 年代後期：構成主義的傾向の作品に取り組む。

主な作品に《構築 B》（1958 年）、《落城》（1959 年）がある。

（1960 年代の作品は、すでに処分されており、確認することができなかった。）

1970 年代中期：フォートリエを強く意識させる作品に取り組む。

主な作品に《曇り日の患者》（1977 年）、《患者との別れ》（1978 年）他がある。

表1 菅久作品調査

## 【作品リスト】

番号	作品名	制作年	サイズ(cm)	素材、技法	出品歴等
1	青島風景1	1942年	各17.7 × 10.8	鉛筆、水彩、紙	
2	青島風景2	1942年	各10.8 × 17.7	鉛筆、水彩、紙	
3	朝顔	1944年	30.0 × 37.5	水彩、紙	
4	静物(野菜)	1944年	31.0 × 50.0	油彩、板	
5	自画像	1947年	40.0 × 27.0	クレパス、紙	
6	No.6(河口)	1950年	90.9 × 116.7	油彩、キャンバス	第2回ネギ展／第4回第二紀展
7	No.3(瓶のある静物)	1950年	53.0 × 65.2	油彩、キャンバス	第3回スバル展
8	No.5	1950年	24.5 × 31.5	油彩、キャンバス	第3回スバル展
9	窓辺の静物	1950年	51.0 × 63.0	油彩、キャンバス	
10	森の中	1951年	44.5 × 52.0	油彩、キャンバス	
11	森の径	1951年	51.8 × 63.5	油彩、キャンバス	サロン・ド・プランタン展
12	椅子の静物	1951年	91.0 × 73.0	油彩、キャンバス	第5回第二紀展
13	机の静物	1951年	91.0 × 73.0	油彩、キャンバス	第5回第二紀展
14	風景A(海浜)	1952年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第5回スバル展／第6回第二紀展
15	作品A(黒い花)	1953年	60.6 × 45.5	油彩、塗料、キャンバス	第6回スバル展(スバル賞) 大分市美術館蔵
16	コンストラクション	1953年	90.0 × 116.7	油彩、キャンバス	第7回第二紀展
17	とんぼ返り	1954年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第8回二紀展
18	作品(No.5)	1954年	130.3 × 162.1	油彩、塗料、キャンバス	第7回スバル展
19	作品1	1954年	130.3 × 162.1	油彩、塗料、キャンバス	第7回スバル展
20	黒い花	1955年	60.6 × 45.5	油彩、塗料、キャンバス	第8回スバル展
21	もつれあう	1955年	90.0 × 116.7	油彩、キャンバス	第17回大分県美術展 大分県立芸術会館蔵
22	きそう	1956年	90.9 × 116.7	油彩、キャンバス	第10回記念二紀展
23	ひとすじ	1957年	116.7 × 90.9	油彩、キャンバス	二紀会新人選抜展
24	わ(祝祭)	1957年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第10回記念スバル展 第11回二紀展
25	黒い花の断面	1958年	145.5 × 112.1	油彩、キャンバス	第11回スバル展／第12回二紀展
26	移動する空間	1958年	97.0 × 145.5	油彩、キャンバス	第11回スバル展／第12回二紀展
27	花の記号	1959年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第13回二紀展
28	無限	1960年	193.9 × 90.0	油彩、キャンバス	第14回二紀展
29	題はいらない	1961年	90.9 × 116.7	油彩、キャンバス	第15回二紀展
30	白く沈む形	1962年	116.7 × 90.9	油彩、キャンバス	第16回二紀展
31	No.3	1963年	130.3 × 162.1	油彩、キャンバス	第17回二紀展
32	作品力	1964年	162.1 × 112.1	油彩、キャンバス	第18回二紀展
33	作品A	1965年	145.5 × 112.1	油彩、週刊誌カラー ージュ、板	二紀選抜100人展
34	1965の1	1965年	162.1 × 130.3	油彩、新聞紙・週刊 誌カラーージュ、板	第19回二紀展
35	1965の2	1965年	162.1 × 130.3	油彩、新聞紙・週刊 誌カラーージュ、板	第19回二紀展
36	1965の3	1965年	162.1 × 130.3	油彩、新聞紙・週刊 誌カラーージュ、板	第19回二紀展

37	伝説	1966年	145.5 × 112.1	木、油彩、板	二紀選抜100人展
38	絵画Y	1966年	145.5 × 112.1	油彩、エナメル、板	第20回記念二紀展
39	点在する同心円1	1967年	162.1 × 130.3	エナメル、板	第21回二紀展
40	点在する同心円2	1967年	162.1 × 130.3	エナメル、板	第21回二紀展
41	点在する同心円3	1967年	112.0 × 52.8	油彩、エナメル、板	
42	十文飾	1968年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第22回二紀展
43	作品E	1969年	162.1 × 112.1	油彩、キャンバス	第23回二紀展
44	作品A	1970年	116.7 × 90.9	油彩、キャンバス	二紀選抜展'70
45	作品B	1970年	116.7 × 90.9	油彩、キャンバス	二紀選抜展'70
46	文字を配したコンポジション赤	1970年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第24回二紀展
47	文字を配したコンポジション青	1970年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第24回二紀展
48	文字を配したコンポジション	1971年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第25回記念二紀展
49	文字を配したコンポジション青	1971年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第25回記念二紀展
50	文字によるコンストラクション鳥	1972年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第26回二紀展
51	文字によるコンストラクション花	1972年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第26回二紀展
52	秋の空	1973年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第27回二紀展
53	午後	1973年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第27回二紀展
54	月と風	1974年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	'74二紀選抜展
55	黒の対話	1974年	112.1 × 145.5	油彩、キャンバス	第28回二紀展
56	ある日の出会い	1974年	130.3 × 162.1	油彩、キャンバス	第28回二紀展
57	赤いトランク	1975年	162.1 × 227.3	油彩、キャンバス	第29回二紀展
58	遮断機の前	1976年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第30回記念二紀展
59	四つの帽子のドラマ	1977年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第31回二紀展
60	3番ホーム	1977年	227.3 × 162.1	油彩、キャンバス	第31回二紀展 学校法人 平松学園蔵
61	三美神3	1978年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第32回二紀展 '80大分県美術総合選抜展
62	三美神(2)	1979年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第33回二紀展/ 81大分県美術総合選抜展
63	仮面の美神X	1980年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第34回二紀展
64	箱の中のアダムとエバ	1980年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第34回二紀展 '82大分県美術総合選抜展
65	美神の変貌A	1981年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第35回記念二紀展
66	美神の変貌H	1982年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第36回二紀展
67	美神の変貌/装	1982年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第36回二紀展
68	美神の変貌A	1983年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第37回二紀展
69	美神の変貌・パゴダの見える	1984年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第38回二紀展
70	美神の変貌/求	1984年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第38回二紀展
71	美神の変貌(操)	1985年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第39回二紀展
72	美神の変貌/哲	1986年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第40回記念二紀展/会員推挙
73	美神の変貌/悠	1986年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第40回記念二紀展
74	美神の変貌/照	1986年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第40回記念二紀展
75	旗の花	1987年	145.5 × 112.1	油彩、キャンバス	第41回二紀展
76	記憶の中の風景/翔	1987年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第41回二紀展

77	記憶の中の風景／連	1987年	97.0 × 162.0	油彩、キャンバス	第41回二紀展 大分の作家たち I 現代の美術「描く」
78	記憶の中の風景／対	1987年	112.1 × 145.5	油彩、キャンバス	1987年二紀会員展 大分の作家たち I 現代の美術「描く」
79	記憶の中の風景／峙	1987年	130.3 × 162.1	油彩、キャンバス	第41回二紀展
80	記憶の中の風景／巡	1988年	112.1 × 145.5	油彩、キャンバス	1988年二紀会員展
81	記憶の中の風景／遥	1988年	130.5 × 162.0	油彩、キャンバス	大分の作家たち I 現代の美術「描く」
82	記憶の中の風景／瓢	1988年	162.1 × 260.6	油彩、キャンバス	第42回二紀展／会員賞
83	記憶の中の風景／霹	1989年	162.1 × 224.2	油彩、キャンバス	第43回二紀展
84	花束飛天	1990年	130.5 × 162.0	油彩、キャンバス	第44回二紀展
85	春風雷鳴	1990年	162.1 × 224.2	油彩、キャンバス	第44回二紀展
86	火の戦い	1991年	162.1 × 224.2	油彩、キャンバス	第45回記念二紀展
87	炎の戦い	1992年	162.1 × 224.2	油彩、キャンバス	第46回二紀展
88	空からのメッセージ	1993年	162.1 × 224.2	油彩、キャンバス	第47回二紀展
89	空からのメッセージ	1994年	162.1 × 224.2	油彩、キャンバス	第48回二紀展
90	払暁	1995年	162.1 × 224.2	油彩、キャンバス	第49回二紀展
91	万朶	1996年	162.1 × 224.2	油彩、キャンバス	第50回記念二紀展
92	花嵐	1997年	162.1 × 224.2	油彩、キャンバス	第51回二紀展
93	旋風	1998年	162.1 × 224.2	油彩、キャンバス	第52回二紀展
94	春雷	1999年	162.1 × 224.2	油彩、キャンバス	第53回二紀展
95	花筏	2000年	162.1 × 227.3	油彩、キャンバス	第54回二紀展
96	夕紅	2001年	162.1 × 227.3	油彩、キャンバス	第55回記念二紀展(第55回記念賞)／大分市美術館蔵
97	花霞	2002年	162.1 × 227.3	油彩、キャンバス	第56回二紀展
98	紅嵐	2003年	162.1 × 227.3	油彩、キャンバス	第57回二紀展 学校法人 平松学園蔵
99	霹靂	2004年	162.1 × 227.3	油彩、キャンバス	第58回二紀展
100	さくら風神之図	2005年	162.1 × 227.3	油彩、キャンバス	第59回二紀展
101	もみじ雷神之図	2006年	162.1 × 227.3	油彩、キャンバス	第60回記念二紀展
102	別府湾暮色	2007年	162.1 × 227.3	油彩、キャンバス	第61回二紀展(成井賞) 大分市美術館蔵
103	別府湾暮色・扇山火まつり	2008年	162.1 × 227.3	油彩、キャンバス	第62回二紀展
104	臥牛城と月	2009年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス	第63回二紀展
105	チカマウガ米軍キャンプ営門	2010年	72.7 × 90.9	油彩、キャンバス	第10回記念春季二紀展
106	人形A	2005年	52.0 × 44.0	油彩、キャンバス	2005年個展
107	人形B	2005年	52.0 × 44.0	油彩、板、キャンバス	2005年個展
108	青島風景	1987年頃	41.0 × 52.0	リトグラフ	
109	凧と秋果	2004年	71.7 × 59.5	油彩、キャンバス	2004大分二紀展
110	ヴィーナスの誕生	2005年	57.7 × 46.8	油彩、キャンバス	
111	BLUEの自画像	2006年	26.0 × 22.8	油彩、キャンバス	
112	臥龍よ時には空を飛べ	2010年	162.1 × 227.3	油彩、キャンバス	第64回二紀展

※愛用のパレット。

【作品図版】



青島風景1  
1942年  
各17.7×10.8  
鉛筆、水彩、紙  
2枚組



朝顔  
1944年  
30.0×37.5  
水彩、紙

青島風景2  
1942年  
各10.8×17.7  
鉛筆、水彩、紙  
3枚組



静物(野菜)  
1944年  
31.0×50.0  
油彩、板



自画像  
1947年  
40.0×27.0  
クレパス、紙

No.6(河口) 旧題: No.5  
1950年  
90.9×116.7  
油彩、キャンバス  
第2回ネギ展／第4回第二紀展





No.3(瓶のある静物) 油彩、キャンバス  
1950年 第3回スバル展  
53.0×65.2



No.5 油彩、キャンバス  
1950年 第3回スバル展  
24.5×31.5



窓辺の静物  
1950年  
51.0×63.0  
油彩、キャンバス



森の中  
1951年  
44.5×52.0  
油彩、キャンバス



森の径  
1951年  
51.8×63.5  
油彩、キャンバス  
サロン・ド・プランタン展



椅子の静物  
1951年  
91.0×73.0

油彩、キャンバス  
第5回第二紀展



机の静物  
1951年  
91.0×73.0

油彩、キャンバス  
第5回第二紀展



風景A(海浜)  
1952年  
162.1×130.3

油彩、キャンバス  
第5回スバル展  
第6回第二紀展  
《小鳥小屋》の上に制作している。

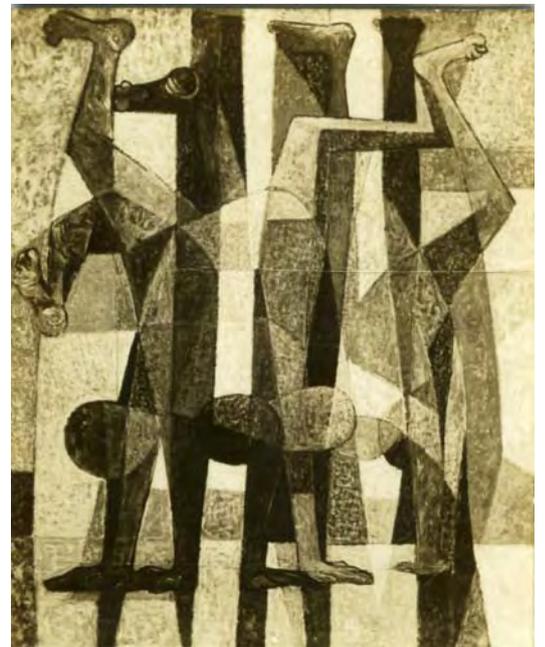


作品A(黒い花)  
1953年  
60.6×45.5

油彩、塗料、キャンバス  
第6回スバル展／スバル賞  
大分市美術館蔵



コンストラクション  
1953年  
90.0×116.7  
油彩、キャンバス  
第7回第二紀展  
次年度から展覧会の名称が二紀展となる。



とんぼ返り  
1954年  
162.1×130.3  
油彩、キャンバス  
第8回二紀展



作品 (No.5)  
1954年  
130.3×162.1  
油彩、塗料、キャンバス  
第7回スバル展



作品1  
1954年  
130.3×162.1  
油彩、塗料、キャンバス  
第7回スバル展



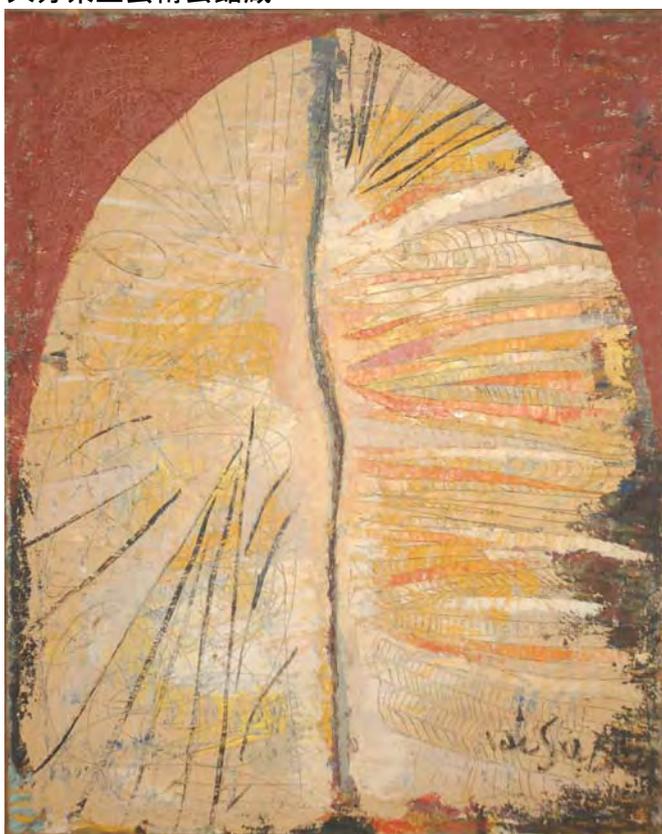
黒い花  
1955年  
60.6×45.5  
油彩、塗料、キャンバス  
第8回スバル展



もつれあう  
1955年  
90.0×116.7  
油彩、キャンバス  
第17回大分県美術展  
大分県立芸術会館蔵



きそう  
1956年  
90.9×116.7  
油彩、キャンバス  
第10回記念二紀展



ひとすじ  
1957年  
116.7×90.9  
油彩、キャンバス  
二紀会新人選抜展



わ(祝祭)  
1957年  
162.1×130.3  
油彩、キャンバス  
第10回記念スバル展  
第11回二紀展



移動する空間  
1958年  
97.0×145.5  
油彩、キャンバス  
第11回スバル展  
第12回二紀展

黒い花の断面  
1958年  
145.5×112.1  
油彩、キャンバス  
第11回スバル展  
第12回二紀展



花の記号  
1959年  
162.1×130.3  
油彩、キャンバス  
第13回二紀展



無限  
1960年  
193.9×90.0  
油彩、キャンバス  
第14回二紀展



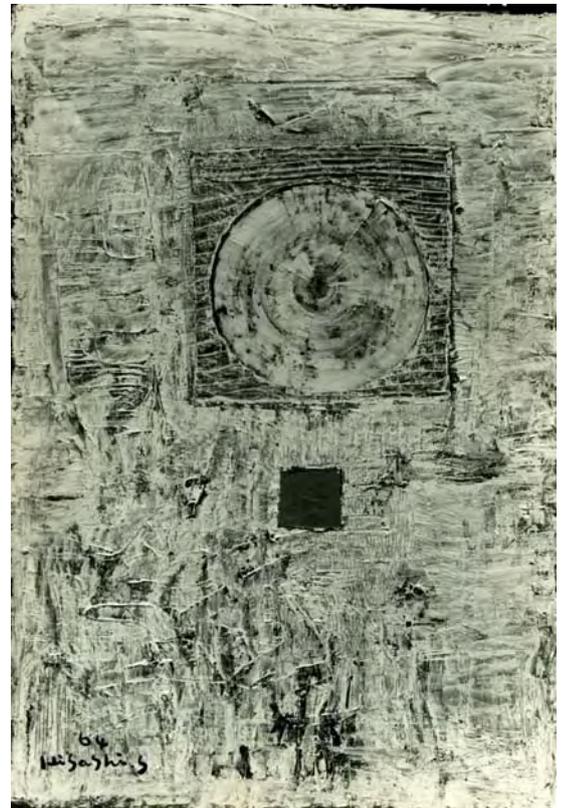
題はいらない  
1961年  
90.9×116.7  
油彩、キャンバス  
第15回二紀展



白く沈む形  
1962年  
116.7×90.9  
油彩、キャンバス  
第16回二紀展



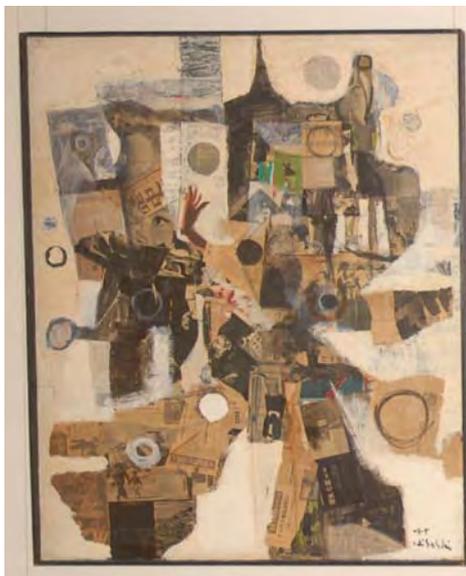
No.3  
1963年  
130.3×162.1  
油彩、キャンバス  
第17回二紀展



作品力  
1964年  
162.1×130.3  
油彩、キャンバス  
第18回二紀展  
東京オリンピックをテーマに制作した作品。



作品A  
1965年  
145.5×112.1  
油彩、週刊誌コラージュ、板  
二紀選抜100人展



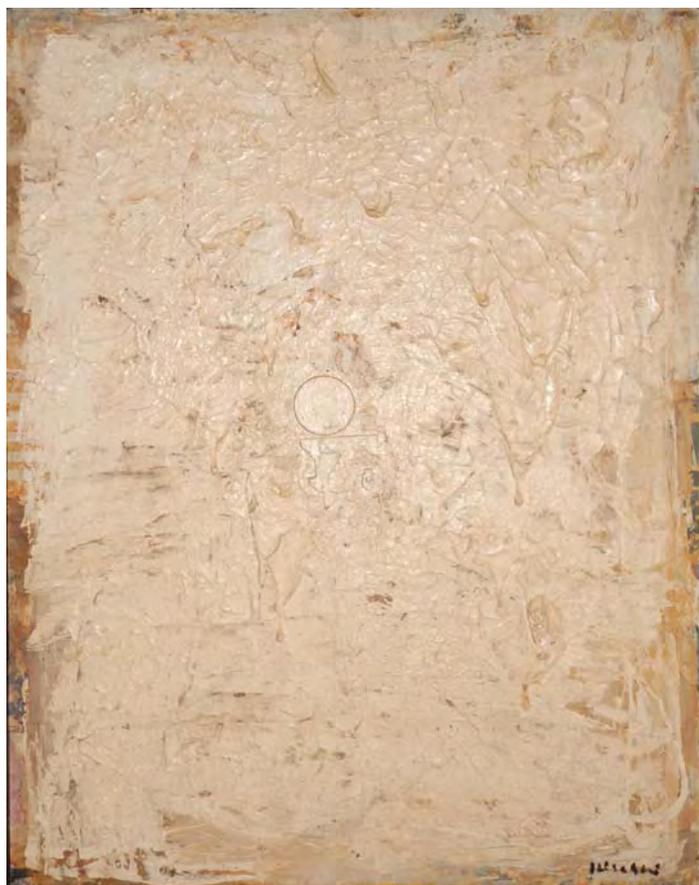
1965の3  
1965年  
162.1 × 130.3  
油彩、新聞紙・週刊誌コラージュ、板  
第19回二紀展



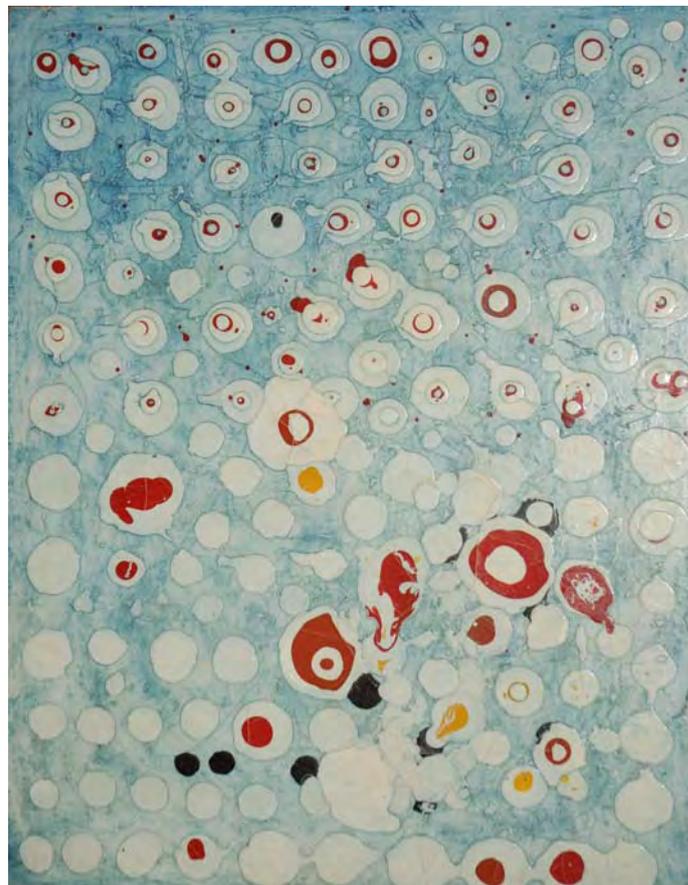
1965の2  
1965年  
162.1 × 130.3  
油彩、新聞紙・週刊誌コラージュ、板  
第19回二紀展



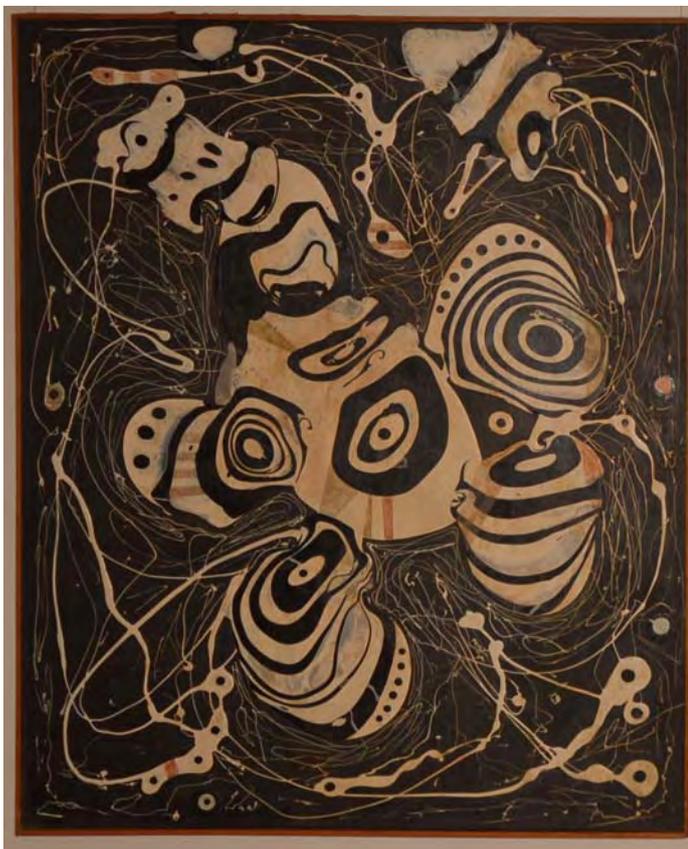
1965の1  
1965年  
162.1 × 130.3  
油彩、新聞紙・週刊誌コラージュ、板  
第19回二紀展



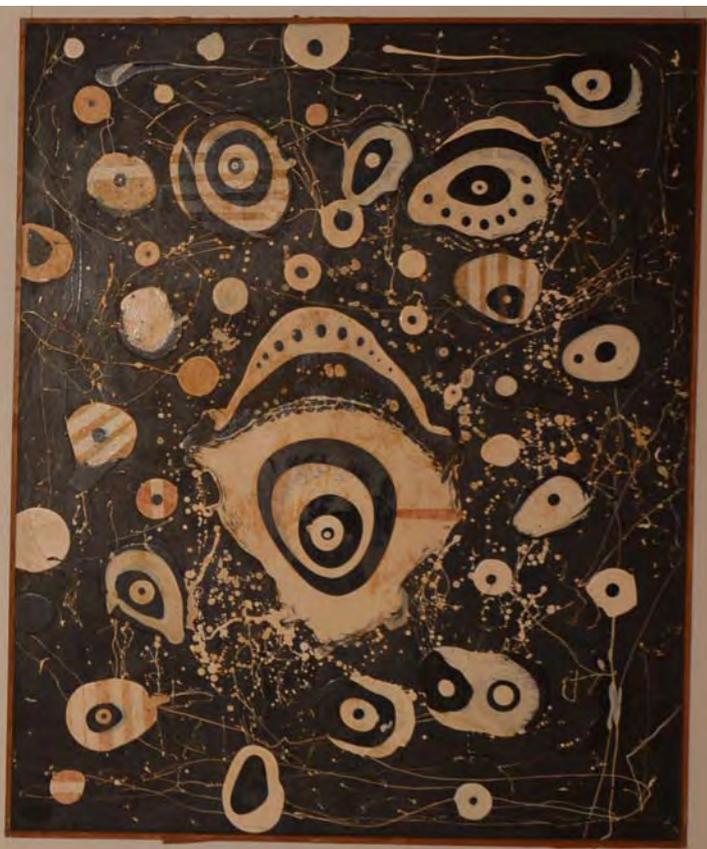
伝説  
1966年  
145.5 × 112.1  
木、油彩、板  
二紀選抜100人展



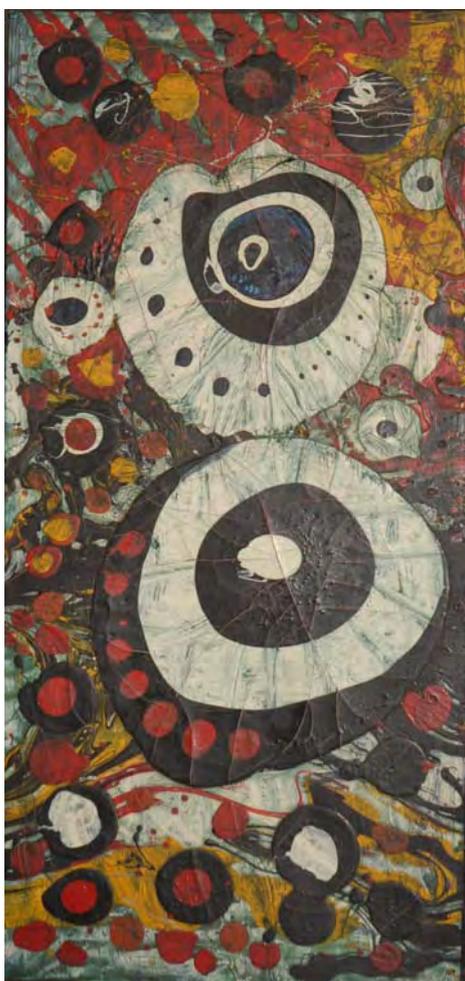
絵画Y  
1966年  
145.5 × 112.1  
油彩、エナメル、板  
第20回記念二紀展



点在する同心円2 エナメル、板  
1967年 第21回二紀展  
162.1 × 130.3



点在する同心円1 エナメル、板  
1967年 第21回二紀展  
162.1 × 130.3



点在する同心円3 油彩、エナメル、板  
1967年  
112.0 × 52.8



十文飾 油彩、キャンバス  
1968年 第22回二紀展  
162.1 × 130.3



作品E  
1969年  
162.1×112.1  
油彩、キャンバス  
第23回二紀展



作品A  
1970年  
116.7×90.9  
油彩、キャンバス  
二紀選抜展'70



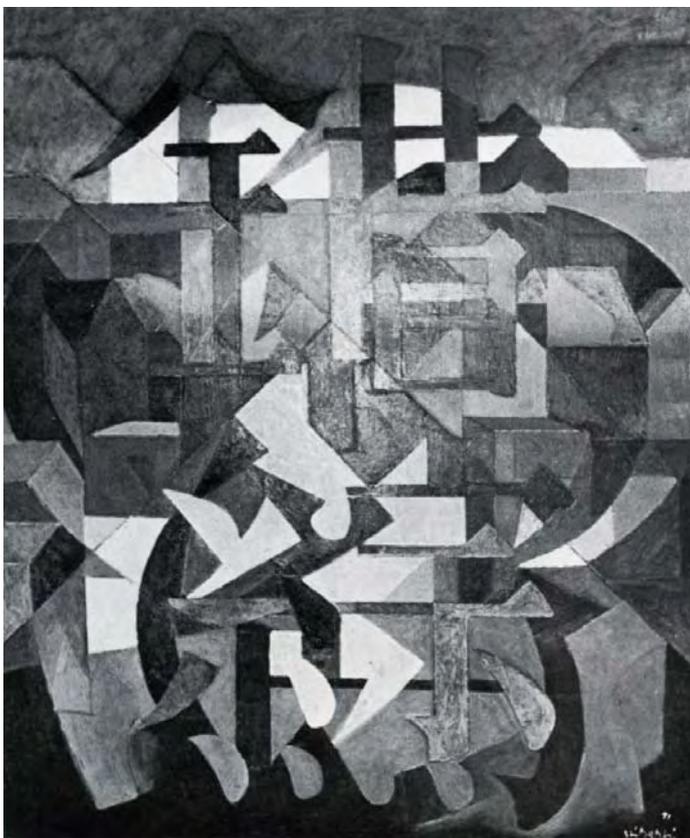
作品B  
1970年  
116.7×90.9  
油彩、キャンバス  
二紀選抜展'70



文字を配したコンポジション赤  
1970年  
162.1×130.3  
油彩、キャンバス  
第24回二紀展



文字を配したコンポジション青  
1970年  
162.1×130.3  
油彩、キャンバス  
第24回二紀展



文字を配したコンポジション  
1971年  
162.1×130.3  
油彩、キャンバス  
第25回記念二紀展



文字を配したコンポジション青  
1971年  
162.1×130.3  
油彩、キャンバス  
第25回記念二紀展



文字によるコンストラクション鳥  
1972年  
162.1×130.3  
油彩、キャンバス  
第26回二紀展



文字によるコンストラクション花  
1972年  
162.1×130.3  
油彩、キャンバス  
第26回二紀展



秋の空  
1973年  
162.1×130.3  
油彩、キャンバス  
第27回二紀展



午後  
1973年  
162.1×130.3  
油彩、キャンバス  
第27回二紀展



月と風  
1974年  
162.1×130.3  
油彩、キャンバス  
'74二紀選抜展



黒の対話  
1974年  
112.1×145.5  
油彩、キャンバス  
第28回二紀展



ある日の出会い  
1974年  
130.3×162.1  
油彩、キャンバス  
第28回二紀展



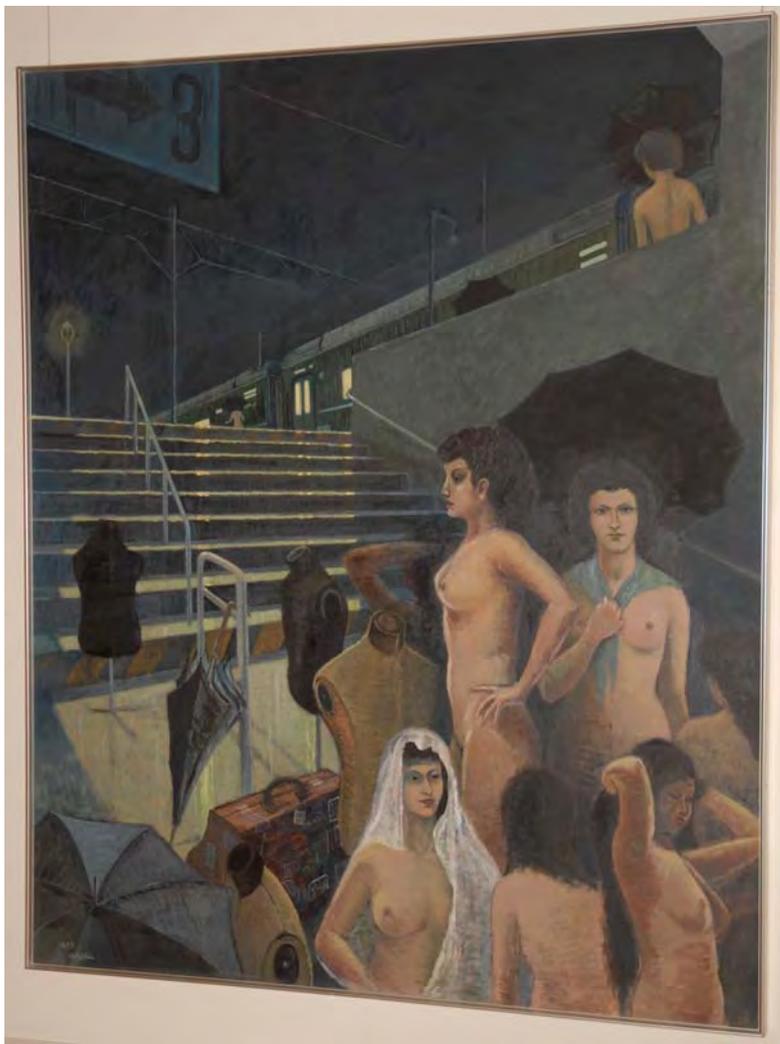
赤いトランク  
1975年  
162.1×227.3  
油彩、キャンバス  
第29回二紀展



遮断機の前  
1976年  
162.1×130.3  
油彩、キャンバス  
第30回記念二紀展



四つの帽子のドラマ  
1977年  
162.1×130.3  
油彩、キャンバス  
第31回二紀展



3番ホーム  
1977年  
227.3 × 162.1  
油彩、キャンバス  
第31回二紀展



三美神3  
1978年  
162.1 × 130.3

油彩、キャンバス  
第32回二紀展  
'80大分県美術総合選抜展



三美神(2)  
1979年  
162.1 × 130.3

油彩、キャンバス  
第33回二紀展  
'81大分県美術総合選抜展



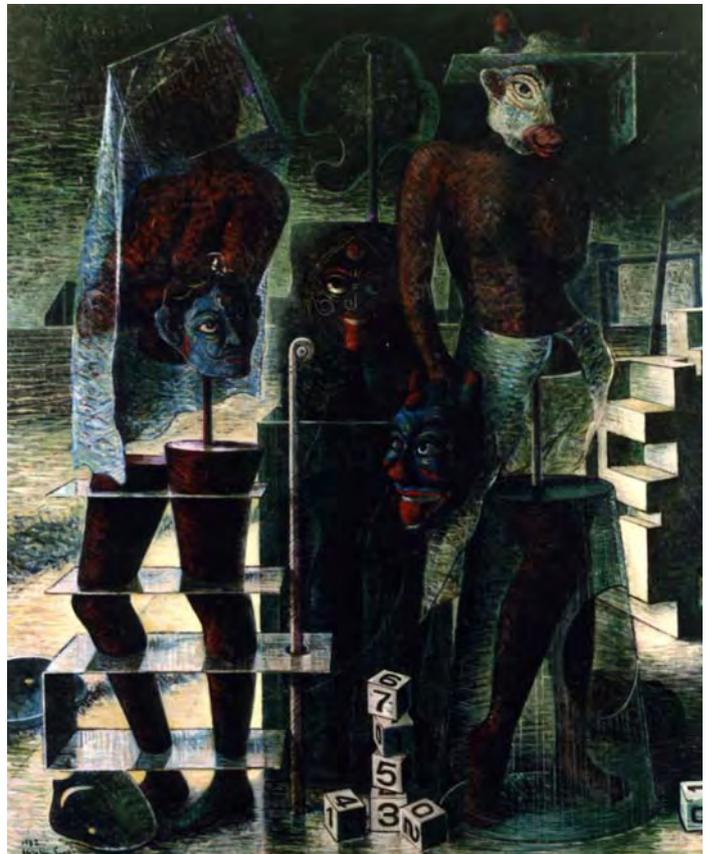
仮面の美神X 第34回二紀展  
1980年  
162.1×130.3  
油彩、キャンバス



箱の中のアダムとエバ 第34回二紀展  
1980年 '82大分県美術総合選抜展  
162.1×130.3  
油彩、キャンバス



美神の変貌A 油彩、キャンバス  
1981年 第35回記念二紀展  
162.1×130.3



美神の変貌H 油彩、キャンバス  
1982年 第36回二紀展  
162.1×130.3 同人賞



美神の変貌/装  
1982年  
162.1 × 130.3  
油彩、キャンバス  
第36回二紀展



美神の変貌A  
1983年  
162.1 × 130.3  
油彩、キャンバス  
第37回二紀展



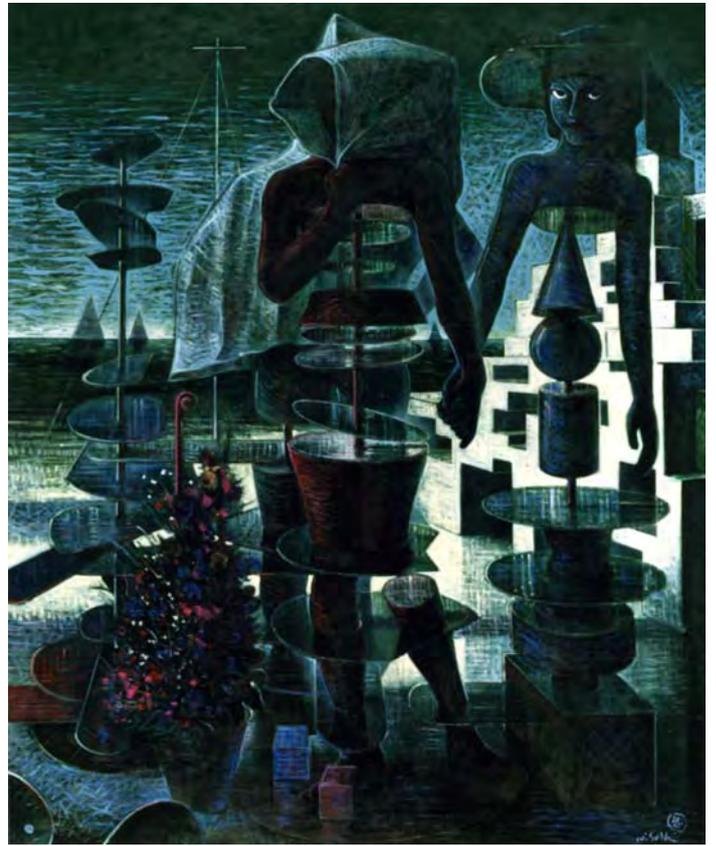
美神の変貌・パゴダの見える  
1984年  
162.1 × 130.3  
油彩、キャンバス  
第38回二紀展



美神の変貌/求  
1984年  
162.1 × 130.3  
油彩、キャンバス  
第38回二紀展



美神の変貌(操) 油彩、キャンバス  
1985年 第39回二紀展  
162.1 × 130.3



美神の変貌/哲 油彩、キャンバス  
1986年 第40回記念二紀展  
162.1 × 130.3 本作により、同会会員に推挙される。



美神の変貌/悠 油彩、キャンバス  
1986年 第40回記念二紀展  
162.1 × 130.3



美神の変貌/照 油彩、キャンバス  
1986年 第40回記念二紀展  
22 162.1 × 130.3



旗の花  
1987年  
145.5×112.1  
油彩、キャンバス  
第41回二紀展



記憶の中の風景／翔  
1987年  
162.1×130.3  
油彩、キャンバス  
第41回二紀展



記憶の中の風景／連  
1987年  
97.0×162.0  
油彩、キャンバス  
第41回二紀展  
大分の作家たち I 現代の美術「描く」



記憶の中の風景／対  
1987年  
112.1 × 145.5  
油彩、キャンバス  
'87二紀会員展  
大分の作家たち I 現代の美術「描く」



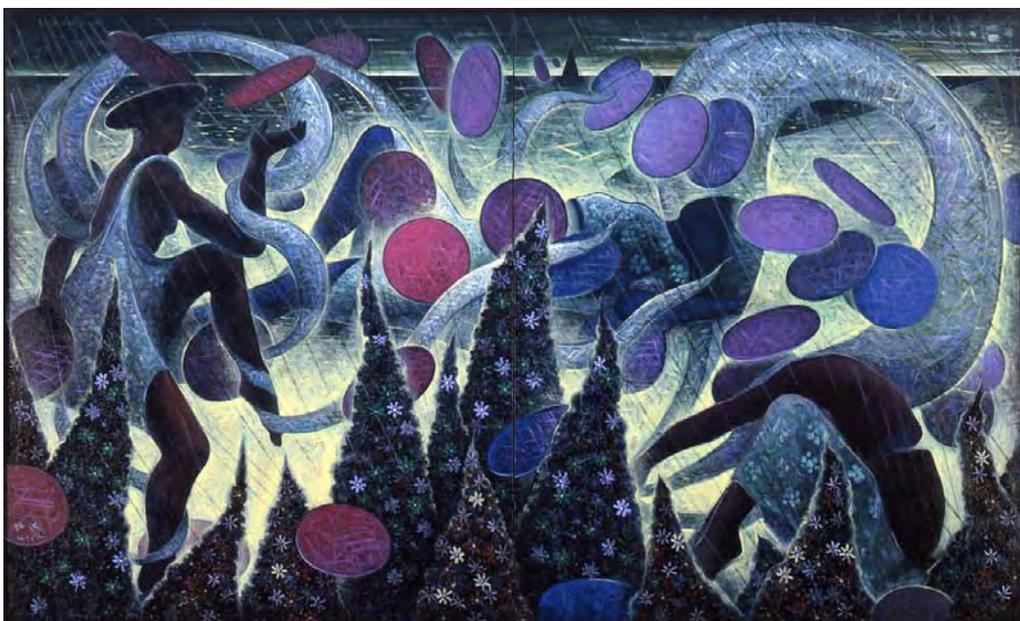
記憶の中の風景／峙  
1987年  
130.3 × 162.1  
油彩、キャンバス  
第41回二紀展



記憶の中の風景／巡  
1988年  
112.1 × 145.5  
油彩、キャンバス  
'88年二紀会員展



記憶の中の風景／遥  
1988年  
130.5 × 162.0  
油彩、キャンバス  
大分の作家たち I 現代の美術「描く」



記憶の中の風景／瓢  
1988年  
162.1 × 260.6  
油彩、キャンバス  
第42回二紀展  
会員賞



記憶の中の風景／霹  
1989年  
162.1×224.2  
油彩、キャンバス  
第43回二紀展



花束飛天  
1990年  
130.5×162.0  
油彩、キャンバス  
第44回二紀展



春風雷鳴  
1990年  
162.1×224.2  
油彩、キャンバス  
第44回二紀展



火の戦い  
1991年  
162.1×224.2  
油彩、キャンバス  
第45回記念二紀展



炎の戦い  
1992年  
162.1×224.2  
油彩、キャンバス  
第46回二紀展



空からのメッセージ  
1993年  
162.1×224.2  
油彩、キャンバス  
第47回二紀展



空からのメッセージ  
1994年  
162.1×224.2  
油彩、キャンバス  
第48回二紀展



弘暁  
1995年  
162.1×224.2  
油彩、キャンバス  
第49回二紀展



万朶(ばんた)  
1996年  
162.1×224.2  
油彩、キャンバス  
第50回記念二紀展



花嵐  
1997年  
162.1×224.2  
油彩、キャンバス  
第51回二紀展



旋風  
1998年  
162.1×224.2  
油彩、キャンバス  
第52回二紀展



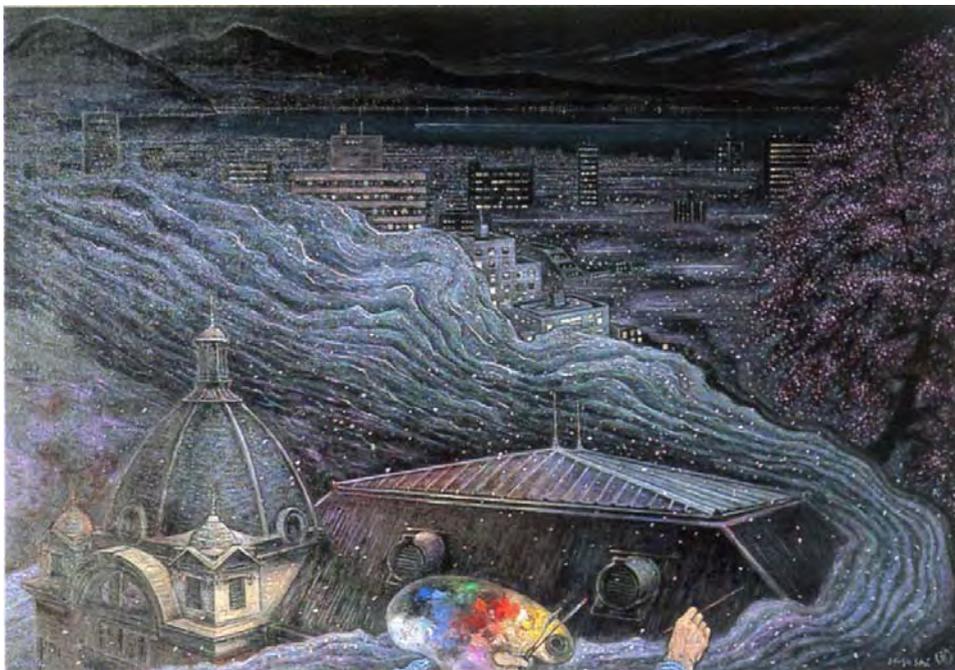
春雷  
1999年  
162.1×224.2  
油彩、キャンバス  
第53回二紀展



花筏(はないかだ)  
2000年  
162.1×227.3  
油彩、キャンバス  
第54回二紀展



夕紅  
2001年  
162.1×227.3  
油彩、キャンバス  
第55回記念二紀展  
／第55回記念賞  
大分市美術館蔵



花霞  
2002年  
162.1×227.3  
油彩、キャンバス  
第56回二紀展



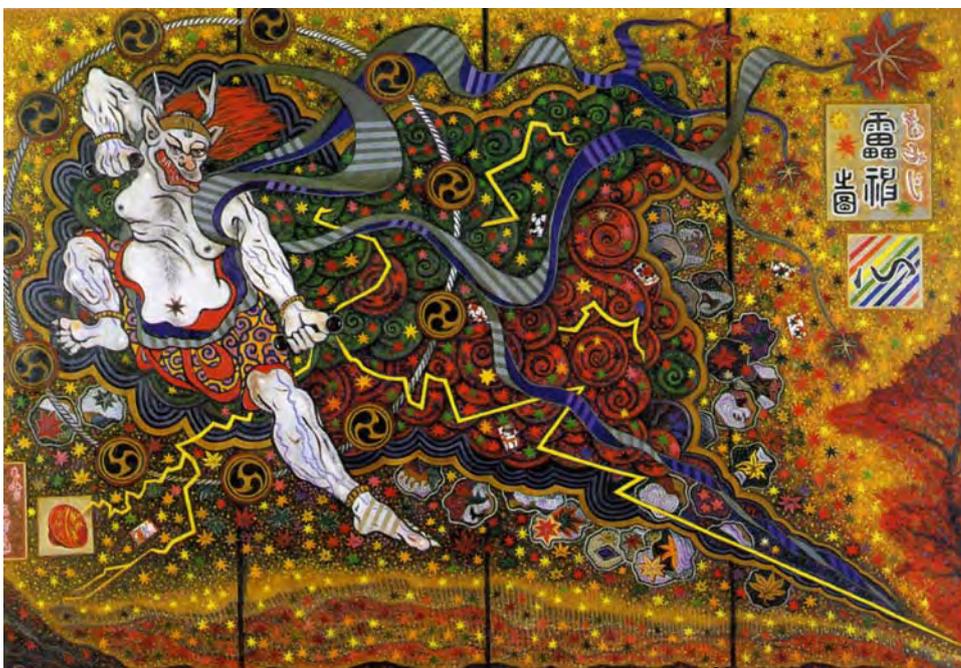
紅嵐  
2003年  
162.1×227.3  
油彩、キャンバス  
第57回二紀展  
学校法人 平松学園蔵



霹靂  
2004年  
162.1×227.3  
油彩、キャンバス  
第58回二紀展



さくら風神之図  
2005年  
162.1×227.3  
油彩、キャンバス  
第59回二紀展



もみじ雷神之図  
2006年  
162.1×227.3  
油彩、キャンバス  
第60回記念二紀展



別府湾暮色  
2007年  
162.1×227.3  
油彩、キャンバス  
第61回二紀展／成井賞  
大分市美術館蔵



別府湾暮色・扇山火まつり  
2008年  
162.1×227.3  
油彩、キャンバス  
第62回二紀展



臥牛城と月  
 2009年  
 162.1×130.3  
 油彩、キャンバス  
 第63回二紀展



チカマウガ米軍キャンプ営門  
 2010年  
 72.7×90.9  
 油彩、キャンバス  
 第10回記念春季二紀展



人形B  
2005年  
52.0×44.0  
油彩、板、キャンバス  
2005年個展  
個人蔵



人形A  
2005年  
52.0×44.0  
油彩、キャンバス  
2005年個展  
個人蔵



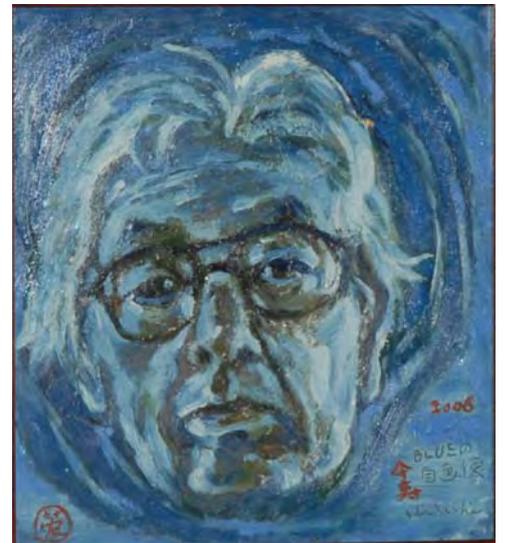
青島風景  
1987年頃  
41.0×52.0  
リトグラフ



凧と秋果  
2004年  
71.7×59.5  
油彩、キャンバス



ヴィーナスの誕生  
2005年  
57.7×46.8  
油彩、キャンバス



BLUEの自画像  
2006年  
26.0×22.8  
油彩、キャンバス  
傘寿を記念して描いた自画像



愛用のパレット  
菅は、自ら手作りしたパレットを愛用している。



臥龍よ時には空を飛べ  
2010年  
162.1×227.3  
油彩、キャンバス  
第64回二紀展





表紙

楽譜

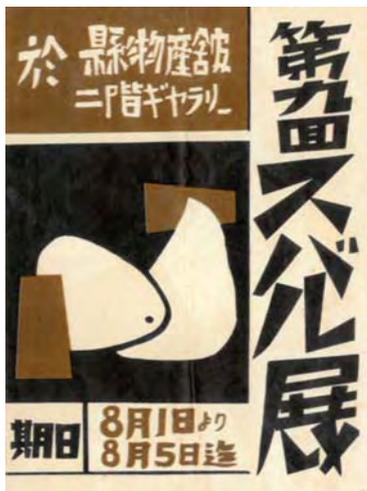
スバルの歌  
 作詞、荒木剛、土屋北彦、作曲、菅たかし。  
 荒木剛は、キムラヤ(アトリエ)で、スバル絵画研究所を  
 開設。1年間、活動した。



第7回スバル展会場にて  
 1954年トキハ5階にて撮影  
 後列右が、菅久。前列右から5人目が、菅玲子。



第8回スバル展出品目録より  
 1954年11月キムラヤにて撮影



第9回スバル展ポスター  
 1956年  
 会員らが、持ちまわりで製作している。



第10回記念スバル展会場風景  
 1957年トキハギャラリーにて撮影



家族  
 1955年自宅にて撮影  
 右から久、長女久二子、長男章、妻玲子。



第10回記念スバル展会場にて  
1957年トキハギャラリーにて撮影  
この頃には、創立会員5名は、既に脱会。  
菅久を中心に、同会は運営されることとなった。



第11回スバル展会場にて  
1958年トキハ5階にて撮影  
戦後、大分の前衛美術運動を牽引し続けたスバル会であるが、第12回スバル展後、解散した。



第26回大分県美術展会場  
(トキハデパート文化ホール)にて  
1960年11月撮影  
右から、古川栄、児玉成弘、菅久。  
菅は、戦後まもなくから、県美協に深く携わってきた。



江藤哲先生を囲む会  
1964(昭和39)年8月24日  
グリルまきにて撮影  
日展審査員に就任した江藤哲先生の祝賀会。



大分二紀グループ展会場にて  
1968年OBSサービスホールにて撮影  
右から、山崎哲一郎、菅久、安藤真、飯尾寿夫。



市内の居酒屋にて  
1986年頃撮影  
左から、児玉成弘、日名子金一郎、  
脇坂秀樹、菅久、仲町謙吉、神田千里。

## 表2 菅久略歴

### 1926（大正15）年

3月13日 菅由布<sup>すが ゆふと</sup>人の三男として、中国東北地方の安東市（現・丹東市）で生まれる。

- ・中国山東省の青島で育つ。海岸線からすぐ小高い丘陵が続くこの街は、ドイツが建てたゴシック建築の教会や、ビザンティン風の時計台があり、整備された石畳の道や公園、古風な別荘が建ち並ぶ美しい街であった。

### 1945（昭和20）年

3月 旧制青島日本中学校を卒業する。

4月 在留邦人に徴兵制が導入されたため、現地召集兵として入隊。

- ・砂漠地帯で、中国共産党軍と交戦。その後、北鮮に転戦を続け、現地の独立守備隊に転属される。泰安から約15里ほど奥地の寒村で、この地での戦闘が、最も激しい戦いであったという。

8月16日 終戦を知る。その後も、八路軍の猛襲撃を受け、応戦、泰安まで撤退する。

10月 召集解除となる。その後、敗残兵が歩く長蛇の列に加わり、青島に向けて歩く。

### 1946（昭和21）年

1月 帰国し、本籍地の大分県日出町に転居する。

- ・東京美術学校師範科教授を務めた後、日出町に帰県していた三浦直政に師事する。

### 1947（昭和22）年

4月 別府第一中学校（現・山の手中学校）に美術教員として赴任する。同校の校章をデザインする。

11月19日～26日 第3回大分県美術協会展（トキハ百貨店4、5階）に《銀杏の木》を出品し、初入選する。

### 1948（昭和23）年

8月12日～16日 西部美術院（トキハ百貨店）に《街角》、《赤い服》を出品する。

### 1949（昭和24）年

11月10日～17日 第7回大分県美術協会展（トキハ百貨店3、4、5階）に《瓶のある静物》を出品する。

12月 井上玲子と結婚する。

## 1950（昭和25）年

・最年長の岩尾秀樹を中心に菅久、矢岡勲、荒金透、松山直、三浦直彦の6人でグループ「ネギ」を結成する。荒金透以外は、別府市の美術教師であった。

1月20日～22日 第1回ネギ展（別府市・西尾百貨店）に《花A》、《花B》、《花C》、《花D》、《花E》を出品する。

4月30日～5月7日 第8回大分県美術協会展（トキハ百貨店3・5階）に《静物》を出品する。

6月1日～8日 第3回スバル展（トキハ百貨店3階）に《No.1》F 15号、《No.2》F 15号、《No.3》F 15号、《No.4》F 6号、《No.5》F 4号を出品する。《No.3》はその後、タイトルを《No.3（瓶のある静物）》と変更する。

8月10日～13日 第2回ネギ展（中村デパート）に《No.5》F 50号、《No.6》F 50号、《No.7》を出品する。同会には、新たに、江藤明、菅玲子、岩澤重夫が参加する。

10月 第4回第二紀展（東京都美術館）に《No.5》F 50号を出品し、初入選する。本作のタイトルは、その後《No.6（河口）》と変更し、2003年に開催された「戦後大分の美術 I スバル〈一断面〉展」（大分市美術館）に出品している。なお、この年の二紀展初入選者は11人であった。

10月26日～11月3日 第9回大分県美術展（トキハ百貨店4、5階）に《テーブル》を出品し、特選を受賞する。

## 1951（昭和26）年

3月20日～25日 第3回ネギ展（トキハデパート5階）に《エチュードNo.1》、《エチュードNo.2》、《エチュードNo.3》、《エチュードNo.4》を出品する。同会には、新たに、市原康孝が参加する。

4月24日～29日 大分県美術協会春季会員展（トキハデパート4階）に《木》を出品する。

5月16日～20日 第4回スバル展（トキハデパート5階）に《No.5》F 50号、《No.7》F 50号、《No.8》F 50号を出品する。

10月9日～26日 第5回第二紀展（東京都美術館）に《椅子の静物》30号、《机の静物》30号を出品する。

11月10日～18日 第10回大分県美術展（トキハデパート）に《小鳥小屋》を出品し、大分県美術協会賞を受賞する。

・サロン・ド・プランタン展に《森の径》を招待出品する。本展は、在日記者団が推薦するかたちで開催される新人画家展。

## 1952（昭和27）年

4月 大分市立王子中学校に赴任する。

5月14日～18日 春季大分県美術展（トキハデパート4、5階）に《花》を出品する。

8月20日～24日 第5回スバル展（トキハデパート5階）に《風景A（海浜）》F100号、《風景B》F100号を出品する。

10月 第6回第二紀展（東京都美術館）に《風景A（海浜）》F100号を出品する。

11月9日 大分合同新聞社が企画した「縣洋画壇の激流を語る座談会」（キムラヤ茶房）に出席する。その他の出席者は、浜田九一郎、田中昇、岩尾秀樹、松岡定、渡辺賢二、是永取材部長。

11月5日～9日 第11回大分県美術展（トキハデパート）に《鏡》を無鑑査出品する。

#### 1953（昭和28）年

4月 大分市立上野ヶ丘中学校に赴任する。

6月23日～28日 第6回スバル展（トキハデパート5階）に《作品A（黒い花）》、《作品B》を出品する。《黒い花》でスバル賞を受賞する。

10月 第7回第二紀展（東京都美術館）に《コンストラクション》50号を出品する。この年、第二紀会は、名称を二紀会と変更した。これにより、展覧会の名称も、次年度より、第二紀展から二紀展と改められた。

11月3日～8日 第13回大分県美術展（大分商工会館／ホール）で無鑑査となる。

11月3日 スバル例会（マル弘）に参加する。その他の出席者は、廣瀬通秀、江藤明、荒金透、松岡定、神田千里、中条正一、小野一郎、岩男順、木村昌斗志、幸米二、荒木剛、木村純一郎。例会の詳細は、6日付けの大分合同新聞で「第十三回縣美展をみて スバル例会で批評會」と題し、紹介されている。

#### 1954（昭和29）年

1月15日 大分合同新聞社が企画した「糸園和三郎を囲む座談會」（キムラヤ喫茶部）に出席する。その他の出席者は、荒木剛、廣瀬通秀、荒金透、江藤明、岩尾秀樹、中条正一、幸米二、木村成敏、矢野平次郎。

3月23日～29日 九州連合美術展覧会（熊本県・鶴屋産業館）に出品する。

5月1日～9日 第14回大分県美術展（トキハデパート）に《黒い花》を出品する。

5月25日～30日 第7回スバル展（トキハデパート5階）に《作品1》、《作品2》、《作品3》を出品する。

10月 第8回二紀展（東京都美術館）に《とんぼ返り》F100号を出品する。

10月12日 大分合同新聞社が企画した「福田平八郎素描展を観る一郷土の若手画家座談會」（キムラヤ）に出席する。その他の出席者は、岩尾秀樹、小野一郎、木村成敏、廣瀬通秀、楠本記者。

10月26日～31日 第15回大分県美術展（トキハデパート）で無鑑査となる。

1955（昭和30）年

5月17日 大分合同新聞社が企画した「春の縣美展を語る スバル・新世紀群合同批評會」（キムラヤアトリエ）に出席する。その他の出席者は、スバル／岩尾秀樹、岩男順、江藤明、廣瀬通秀、松岡定。新世紀群／木村成敏、熊谷博、吉村益信。

6月7日～12日 第8回スバル展（トキハデパート5階）に《人》30号、《黒い花》P12号を出品する。

9月13日～18日 菅久・菅玲子油絵二人展（トキハデパート5階）を開催し、《河畔》、《No.5》、《No.6》100号、《花の建物》80号、《捕われた花》20号、《顔の花》、《花のささやき》他を出品する。

11月16日～20日 第17回大分県美術展（トキハデパート4、5階）に《もつれあう》を無鑑査出品し、大分合同新聞社賞を受賞する。

1956（昭和31）年

4月 前衛美術グループのスバル会、カンナ会、新世紀群などの作家30名で大分美術懇談会を結成する。

5月8日～18日 第18回大分県美術展（大分県教育会館ホール）に《花》、彫刻《首》を出品する。

7月4日 大分美術懇談会第3回例会（大分市町村会館）が開催され、「キュービズムと現代」と題し、研究発表を行う。

8月1日～5日 第9回スバル展（別府県物産館）に《作品（一）》F50号、《作品（二）》50号を出品する。

10月 第10回記念二紀展（東京都美術館）に《もつれあう》F50号を出品し、同会同人に推挙される。

1957（昭和32）年

5月 二紀会新人選抜展に《ひとすじ》50号を出品する。

8月20日～25日 第10回記念スバル展（トキハギャラリー）に《作品わ》F100号、《作品こ》F50号を出品する。

10月 第11回二紀展（東京都美術館）に《わ（祝祭）》F100号を出品する。

1958（昭和33）年

5月27日～6月1日 第21回大分県美術展（トキハデパート文化ホール）に《五月の断面》を出品する。

6月6日 大分県美術協会委員会（トキハデパート文化教室）が行われ、事務局員に選任される。この時、委員長に宮崎豊、事務局長に浜田九一郎が選任された。

・新豊州新聞社が企画した、土屋北彦著の連載コント「谷間の旗」の挿絵を担当する。

8月25日～31日 第11回スバル展（トキハデパート5階）に《移動する空間》P 80号、《黒い花の断面》F 80号、《圧縮された風景》F 100号、《丸い首》彫塑を出品する。

10月 第12回二紀展（東京都美術館）に《移動する空間》P 80号、《黒い花の断面》F 80号を出品する。

10月18日～26日 第22回大分県美術展（トキハデパート文化ホール）で無鑑査となる。

10月22日 新豊州新聞社が企画した「谷間の旗合評会」（キムラヤ）に出席する。その他の出席者は、土屋北彦、大西俊章、長谷目源太。

#### 1959（昭和34）年

・新豊州新聞社が企画した、土屋北彦著「夢買い先生」の挿絵を担当する。

4月 大分合同新聞社が企画した「海老原喜之助を囲んで／座談会」に出席する。その他の出席者は、岩田正、浜田九一郎、廣瀬通秀、政光文化部長。

5月26日～31日 第23回大分県美術展（トキハデパート文化ホール）に《花》20号を出品する。

5月 大分合同新聞社が企画した「県美展をかえりみて／座談会」に出席する。その他の出席者は、宮崎豊、小野一郎、脇正人、宮崎記者。

8月25日～30日 第12回スバル展（トキハギャラリー）に《作品A》、《作品B》、《作品C》を出品する。

10月11日～30日 第13回二紀展（東京都美術館）に《花の記号》F 100号を出品する。

11月3日～8日 第24回大分県美術展（トキハデパート文化ホール）に《花》を無鑑査出品する。

11月 菅久フォト・デッサン展（大分市・荷揚町画廊酒場）を開催する。

#### 1960（昭和35）年

2月 大分市立南大分中学校に赴任する。

5月3日～8日 第25回記念大分県美術展（トキハデパート文化ホール）に《花》20号を出品する。

5月 大分合同新聞社が企画した「県美展をみて／座談会」に出席する。その他の出席者は、宮崎豊、小野一郎、安藤真、田中文化部長。

6月18日 神田千里、脇正人、江藤明、安藤真、井上佐之助、児玉成弘、十時良らとともに、大分市の荷揚町画廊酒場で、「われわれは平和を根幹とした、きびしい現実認識のうえに立って創作し、批評の場を組織する」という宣言

文を掲げ、大分前衛美術会を設立する。しかし、その後、菅久は同会を脱退し、展覧会には出品していない。

・朝日新聞社の企画で、土屋北彦著「新豊州夜話」の挿絵を担当する。

8月30日～9月4日 菅久・玲子油絵二人展（トキハギャラリー）を開催し、《もつれあう》、《祝祭わ》、《断層》、《花》、《白昼》他を出品する。

10月 第14回二紀展（東京都美術館）に《無限（符）》変形120号を出品する。

11月8日～13日 第26回大分県美術展（トキハデパート文化ホール）で無鑑査となる。

・菅久がデザインした大分市立上野ヶ丘中学校新屋内体育館のモニュメント（白セメント造り）が完成する。

#### 1961（昭和36）年

4月16日 大分県美術協会総会（トキハデパート第1特別室）が行われ、事務局員に再任される。この時、委員長に宮崎豊、事務局長に浜田九一郎が再任された。

8月23日～27日 大分二紀展（トキハギャラリー）に出品する。

10月 第15回二紀展（東京都美術館）に《題はいらない》F 50号を出品する。

11月7日～12日 第28回創立15周年記念大分県美術展（トキハデパート文化ホール）で無鑑査となる。

#### 1962（昭和37）年

4月17日～22日 第29回大分県美術展無鑑査展（トキハデパート文化ホール）に《白い画面の花》を出品し、会員投票の結果、推奨となる。

4月18日～30日 廣瀬通秀・菅久二人展（サイトウ画廊）が開催される。

10月 第16回二紀展（東京都美術館）に《白く沈む形》F 50号を出品する。

11月6日～11日 第30回記念大分県美術展（トキハデパート文化ホール）で無鑑査となる。

#### 1963（昭和38）年

10月 第17回二紀展（東京都美術館）に《No.3》F 100号を出品する。

10月 大分合同新聞社が企画した「文化活動に望む 県下・関係者の共同討議」に出席する。その他の出席者は、山野愛一郎、佐藤至良、仙川竹生、木村成敏、佐藤和子、宮瀬特信部次長。

11月5日～10日 第32回大分県美術展（トキハデパート文化ホール）で無鑑査となる。

12月17日～24日 菅久・菅玲子小品展（キムラヤ画廊）が開催され、二人合わせて22点を出品する。

12月17日～30日 菅久・菅玲子小品展（サイトウ画廊）が開催され、二人合わせて16点を出品する。

#### 1964（昭和39）年

4月 大分合同新聞社が企画した、土屋北彦著「べにゆり物語り」の挿絵を担当する。

5月 大分合同新聞社が企画した「春季県美展／座談会」に出席する。その他の出席者は、宮崎豊、仲町謙吉、神田千里、田川奨、宮瀬特信部次長。

7月 みずえ6人展（トキハギャラリー）に《花》を出品する。

7月7日～12日 被爆者救援平和美術展（トキハギャラリー）に《花》を出品する。

10月12日～30日 第18回二紀展（東京都美術館）に《作品（力）》P100号を出品する。

#### 1965（昭和40）年

1月～3月 大分合同新聞社が企画した、平松鷹史著「小説トキハ」の挿絵を担当する。

3月23日～28日 第1回グループえのくま展（トキハギャラリー）に《トンネルの見える風景》F4号を出品する。同会は、南大分在住・出身者で、学校の教師から、学生、会社員ら約20名で結成された美術グループである。

5月4日～9日 第35回大分県美術展（トキハデパート文化ホール）に《白の中の二つの関係》を出品する。

6月22日～27日 大分県美術協会大分支部展（トキハギャラリー）に《レリーフした花》を出品する。

8月24日～29日 菅久・菅玲子二人展（トキハギャラリー）を開催し、《1965》の連作、《二つの角と一つの円》、《風化する花》、《作品A》、《沼地の近く》を含む30点を出品する。

8月31日 大分県美術協会、大分県写真作家協会、大分県書道協会の統合のための話し合い（グリルまき）に出席する。その他の出席者は、美協側／溝辺有巢（会長）、仲町謙吉（事務局長）。写協側／糸井英雄（理事長）、三重野元（理事）。書協側／平田寿（委員長）、山口（事務局長）、首藤（委員）、安部（委員）。この場で、大分県美術三団体統合準備会が発足される。

9月26日 大分県美術協会と大分県書道協会、大分県写真作家協会の三者が統合し、大分県美術協会が改組され、事務局次長に就任する。以後、5期10年務める。

10月 大分県美術協会二十年展（トキハデパート文化ホール）に出品する。

10月 大分合同新聞社が企画した「県美協20年展を語る／座談会」に出席する。  
その他の出席者は、溝辺有巢、宮川泰孝、江藤明、後藤白草、大崎聡明、田川奨、熊井淳、特信部長宮瀬香多士。

・二紀選抜100人展に《作品A》F100号が選抜される。

10月12日～30日 第19回二紀展（東京都美術館）に《1965の2》F100号を出品する。

#### 1966（昭和41）年

1月 大分合同新聞社が企画した「あすの由布院町／座談会」に出席する。その他の出席者は、生野祥雲齋、岩田正、後藤勲、川並晋治、大崎聡明、波多野義孝、三重野元、長谷目源太、園田英雄、岩男穎一、大分合同新聞社地方部長石丸一雄。

1月25日～30日 第19回二紀展（福岡県文化会館）が開催され、《1965の2》F100号が巡回展示される。

・二紀選抜100人展に《伝説》F100号が選抜される。

4月 大分合同新聞社が企画した「宇佐神宮「秘宝展」の見どころ／座談会」に出席する。その他の出席者は、中野幡能（芸短大教授）、岩田正（岩田学園理事長）、橋本操六（県社教主事）、菅久、宮瀬香多士（合同特信部長）。

5月10日～15日 春季大分県美術展（トキハデパート文化ホール）に《偽りのプレゼント》を出品する。

6月 大分日赤絵画サークルの指導を行う。同会は、月に一度開かれ、その成果を中央町の喫茶アポロなどで発表した。

6月7日～12日 大分県美術協会大分支部展（トキハギャラリー）に《作品》を出品する。

6月21日～26日 みずえ6人展（トキハギャラリー）に《作品》を出品する。

10月 第10回大分県勤労者創作美術展（トキハデパート文化ホール）の絵画部審査員を努める。その他の審査員は、仲町謙吉、神田千里、小野一郎、木村成敏。

10月12日～30日 第20回記念二紀展（東京都美術館）に《絵画Y》F100号を出品する。

11月8日～13日 第2回大分県美術展（トキハデパート文化ホール）に《黒いマッス》を出品し、会員努力賞を受賞する。

11月9日～14日 平和作品展（トキハギャラリー）に出品する。同展は、平和をテーマに画家、文芸家、写真家、地名士が、色紙に制作した作品を展示した展覧会。110点が展示された。

## 1967（昭和42）年

4月 大分県立聾学校に赴任する。

5月9日～14日 春季大分県美術展（トキハデパート文化ホール）に《二つの輪》を出品する。

5月14日 大分県美術協会総会（大分県町村会館）が行われ、事務局次長に再任される。この時、会長に宮崎豊、副会長に進来哲、事務局長に仲町謙吉がそれぞれ選任された。

- ・モーリス・ユトリロ展（福岡県文化会館 会期6月18日～7月2日）鑑賞用運行バス（福岡一大分）内の解説者の一人に選任される。その他の解説者は、宮崎豊、浜田九一郎、仲町謙吉、岩尾秀樹、脇正人、宮川泰孝、江口清博。なお、運行バスは、会期中の日曜日ごとに大分、別府、日田から運行された。

6月 みずえ10人展（トキハギャラリー）に《絵画1》、《絵画2》を出品する。

7月10日～16日 大分県美術協会大分支部展（OBSサービスホール）に《花》を出品する。本展では、作品販売で得た収益を県立美術館建設資金のための募金とした。

7月25日～8月6日 岩尾秀樹・仲町謙吉・廣瀬通秀・菅久四人展（純喫茶アポロン）が開催され、《小鳥の剥製がある静物》他を出品する。

10月12日～30日 第21回二紀展（東京都美術館）に《点在する同心円》F100号を出品する。

10月15日 ルノワール展（福岡県文化会館）鑑賞用運行バス（福岡一大分）内で解説を行う。その他の解説者は、早川正。

11月28日～12月3日 大分県美術協会秀作展（トキハギャラリー）に《花》を出品する。本展では、作品販売で得た収益を県立美術館建設期成会へ寄付した。

## 1968（昭和43）年

3月 第11回大分県勤労者創作美術展（トキハデパート文化ホール、ギャラリー）の絵画部審査員を努める。その他の審査員は、神田千里、小野一郎。

5月 大分合同新聞社が企画した「春の県美展／座談会」に出席する。その他の出席者は、宮崎豊、田川奨、十時良、特信部長宮瀬香多士。

- ・大分県美術百年展の運営委員となる。

8月25日～31日 大分二紀グループ展（OBSサービスホール）に《作品》100号2点、《作品》80号1点を出品する。

10月9日～23日 「第4回大分県芸術祭 大分県美術百年展」（大分文化会館）が開催され、《No.5》F50号を出品する。

10月12日～30日 第22回二紀展（東京都美術館）に《十文飾》F100号を出品する。

11月24日 第3回青空スケッチ教室（大分市城跡公園）に指導者として出席する。  
その他の指導者は、浜田九一郎、佐藤至良、十時良。

#### 1969（昭和44）年

1月15日～21日 大分県美術協会大分支部展（OBSサービスホール）に《花》  
2点を出品する。

5月1日～5日 春季大分県美術展（トキハデパート文化ホール）に《作品》を出  
品する。

5月5日 大分県美術協会総会（大分県町村会館）が行われ、事務局次長に再任  
される。この時、会長に宮崎豊、副会長に進来哲、事務局長に仲町謙吉がそ  
れぞれ再任された。

5月 大分県自治体職員総合文化祭（大分市文化会館小ホール）の審査員を務め  
る。その他の審査員は、大崎聡明。

6月 大分合同新聞社が企画した「望まれる美術博物館のあり方を語る／座談  
会」に出席する。その他の出席者は、進来哲、山口九碩、大崎聡明、田川奨、  
神田千里、特信部長宮瀬香多士。

6月30日～7月12日 大分銀行行員絵画展（大分銀行本店ロビー）に《花》を賛  
助出品する。

8月25日～31日 大分二紀グループ展（OBSサービスホール）に《作品・A—  
F》を出品する。

9月14日 パウル・クレー展（石橋美術館）に「大分・別府クレー展鑑賞団」の  
一員として参加する。

10月12日～30日 第23回二紀展（東京都美術館）に《作品E》100号を出品する。

#### 1970（昭和45）年

1月 大分県美術協会大分支部展（OBSサービスホール）に《花》、《花（紫）》  
を出品する。

1月26日～2月1日 第1回Rの会美術展（OBSサービスホール）に《小さな花》  
を出品する。Rの会は、大分県立豊学校の生徒、教諭、事務職員による美術  
グループ。会名のRは、豊学校の頭文字からとったもので、フランス風にエ  
ールと発音する。さらに、エールを送るという意味も含んでいる。

3月 第13回大分県勤労者創作美術展（大分市文化会館）の絵画部審査員を努め  
る。その他の審査員は、小野一郎、神田千里、木村成敏、仲町謙吉。

5月 大分合同新聞社が企画した「県美術界の動向を探る／座談会」に出席する。  
その他の出席者は、仲町謙吉、十時良、山崎芳直、江藤明、安藤真、文化部  
長宮瀬香多士。

5月19日～24日 春季大分県美術展（トキハデパート文化ホール）の一般賞選考委員に推薦される。

5月 二紀選抜展'70に《作品A》50号、《作品B》50号を出品する。

6月 大分県自治体職員総合文化祭（大分市文化会館小ホール）の審査員を務める。その他の審査員は、糸井英雄、重石ヨシエ、矢野祥華。

6月 第10回大分市版画展（OBSサービスホール）に《花》リトグラフを出品する。

・大分県芸術文化振興会議の事務局次長となる。

7月8日～9日 第2回九州地区芸術文化振興会議（佐賀市）に出席する。大分県からは、10人が出席した。

8月24日～30日 大分二紀グループ展（OBSサービスホール）に《文字を配したコンポジション》を出品する。

10月12日～30日 第24回二紀展（東京都美術館）に《文字を配したコンポジション赤》F100号を出品する。

12月9日～12日 平和作品展（大分市文化会館小ホール）に《花》を出品する。

12月21日～27日 菅久・玲子絵画二人展（トキハギャラリー）を開催し、《伝説》、《黒いマッス》、《点在する同心円》、《十文飾》、《絵画Y》、《文字を配したコンポジション》他を出品する。

## 1971（昭和46）年

1月18日～24日 大分県美術協会大分支部展（OBSサービスホール）に《花》を出品する。

1月25日～31日 第2回Rの会美術展（OBSサービスホール）に《小さな花》を出品する。

1月25日～3月30日 大分銀行行員新春絵画展（大分銀行本店ロビー）に《花》を出品する。

3月 第14回大分県勤労者創作美術展（トキハデパート文化ホール、ギャラリー）の絵画部審査員を務める。その他の審査員は、神田千里、佐藤至良、小野一郎、仲町謙吉、木村成敏。

3月23日～28日 菅久・菅玲子“花とこども”による小品展（キムラヤ画廊）が開催され、《青》、《黄》、《朱》他を出品する。

6月8日～13日 春季大分県美術展（トキハデパート文化ホール）に《山越阿弥陀図》を出品する。更に、一般賞選考委員に推薦される。

6月13日 大分県美術協会総会（大分県町村会館）が行われ、事務局次長に再任される。この時、会長に宮崎豊、副会長に進来哲、事務局長に仲町謙吉がそれぞれ再任された。

8月30日～9月5日 大分二紀グループ展（OBSサービスホール）に《文字を配したコンポジション赤》F100号、《文字を配したコンポジション青》F100号を出品する。

10月12日～30日 第25回記念二紀展（東京都美術館）に《文字を配したコンポジション青》F100号を出品する。

#### 1972（昭和47）年

1月31日～2月12日 大分銀行新春絵画展（大分銀行本店ロビー）に特別出品する。

2月8日～13日 第3回Rの会美術展（OBSサービスホール）に《ランプのある静物》を出品する。

3月 第15回大分県勤労者創作美術展（トキハデパート文化ホール）の絵画部審査員を務める。その他の審査員は、小野一郎、神田千里、木村成敏、仲町謙吉、佐藤至良。

5月16日～21日 春季大分県美術展（トキハデパート文化ホール）に《“愛”による試作》を出品する。

6月 大分県自治体職員総合文化祭（大分市文化会館小ホール）の審査員を務める。その他の審査員は、大分県美術協会委員が務めた。

10月12日～30日 第26回二紀展（東京都美術館）に《文字によるコンストラクション花》F100号を出品する。

#### 1973（昭和48）年

1月10日～19日 大分市在住画家色紙展（キムラヤ画廊）に出品する。大分市在住画家20数人が約30点を出品した。

1月30日～2月4日 第4回Rの会美術展（晃星堂二階ホール）に出品する。

1月30日～2月4日 第26回二紀展（福岡県文化会館）が開催され、《文字によるコンストラクション鳥》F100号が巡回展示される。

3月 第16回大分県勤労者創作美術展（トキハデパート文化ホール）の絵画部審査員を務める。その他の審査員は、小野一郎、神田千里、仲町謙吉、佐藤至良。

3月29日～4月7日 菅久・菅玲子小品展（大分銀行本店ロビー）が開催され、《黒いバックの花》、《赤いバックの花》、《逆光の高崎山》他を出品する。

5月8日～13日 春季大分県美術展（トキハデパート文化ホール）に《風》を出品し、一般賞選考委員に推薦される。

5月13日 大分県美術協会総会（大分市府内会館）が行われ、事務局次長に再任される。この時、会長に宮崎豊、副会長に進来哲、事務局長に仲町謙吉がそれぞれ再任された。

6月 大分県自治体職員総合文化祭（大分市文化会館小ホール）の審査員を務める。その他の審査員は、大分県美術協会委員が務めた。

8月27日～9月2日 大分二紀グループ展（晃星堂ギャラリー）に《秋の空》F 100号を出品する。

10月12日～30日 第27回二紀展（東京都美術館）に《秋の空》F 100号を出品する。

11月22日～25日 第9回大分県美術展（大分文化会館）に《プラットホーム》を出品し、大分県美術協会賞を受賞する。

12月 大分合同新聞社が企画した「県芸術祭10周年を迎えて／座談会」に出席する。その他の出席者は、鶴見英之、中沢とおる、小長久子、平瀬克美、矢野朔雄、文化部長宮瀬香多士。

#### 1974（昭和49）年

2月5日～10日 第5回Rの会美術展（晃星堂二階ギャラリー）に出品する。

・ ’74二紀選抜展に《月と風》F 100号が選抜される。

5月14日～19日 春季大分県美術展（大分市文化会館）に《コバルト・バイオレット》を出品し、一般賞選考委員に推薦される。

8月26日～9月1日 大分二紀グループ展（晃星堂ギャラリー）に《作品No.1》、《作品No.2》、《作品No.3》を出品する。

10月12日～30日 第28回二紀展（東京都美術館）に《黒の対話》80号を出品する。

#### 1975（昭和50）年

1月 大分県美術協会大分支部創立10周年記念素描展（晃星堂ギャラリー）に出品する。

2月7日～12日 大分県美術協会大分支部創立10周年記念展（西友大分店七階）に《青い花》を出品する。

2月25日～3月2日 第6回Rの会美術展（晃星堂ギャラリー）に出品する。

6月10日～15日 春季大分県美術展（大分文化会館）の一般賞選考委員に推薦される。

9月1日～7日 大分二紀グループ展（晃星堂ギャラリー）に《かぶとがに》P 150号、《赤いトランク》P 150号を出品する。

10月12日～30日 第29回二紀展（東京都美術館）に《赤いトランク》P 150号を出品する。

#### 1976（昭和51）年

2月24日～29日 第7回Rの会美術展（晃星堂ギャラリー）に出品する。

8月30日～9月5日 大分二紀グループ展（晃星堂ギャラリー）に《9番ホーム》  
F 100号、《遮断機の前》F 100号を出品する。

10月10日～27日 第30回記念二紀展（東京都美術館）に《遮断機の前》F 100号  
を出品する。

#### 1977（昭和52）年

2月 第20回大分県勤労者創作美術展（トキハデパート8階催し場）の絵画部審  
査員を務める。その他の審査員は、小野一郎、神田千里、木村成敏、仲町謙  
吉、佐藤至良。

2月 第8回Rの会美術展（晃星堂ギャラリー）に出品する。

8月22日～28日 大分二紀グループ展（晃星堂ギャラリー）に《雨の停車場に向  
う階段》F 150号を出品する。

10月10日～27日 第31回二紀展（東京都美術館）に《四つの帽子のドラマ》F  
100号を出品する。

11月25日～30日 第13回大分県美術展（大分県立芸術会館）に《三美神》を出  
品し、大分県美術協会賞を受賞する。

#### 1978（昭和53）年

1月 大分精鋭作家展（日田市・画廊喫茶ムンク）に出品する。同会の事務局は、  
江藤明が務めた。

2月 第9回Rの会美術展（晃星堂ギャラリー）に出品する。

5月23日～28日 春季大分県美術展（大分県立芸術会館）に《アスラ王》を出  
品する。

6月 心臓障害者を支援する展覧会（別府市・大分銀行亀川支店ロビー）に出品  
する。その他の出品者は、廣瀬通秀、菅玲子、寺司勝次郎。大分県心臓障害  
者協会別府支部の活動に協力するため、出品作の一部を即売した。

8月27日～9月3日 大分二紀グループ展（ニチイ7階）に《三美神B》F 100号、  
《三美神C》F 100号、《三美神D》F 100号を出品する。

10月14日～29日 第32回二紀展（東京都美術館）に《三美神3》F 100号を出  
品する。

#### 1979（昭和54）年

2月20日～25日 第10回Rの会美術展（晃星堂ギャラリー）に出品する。

・大分銀行本店ロビー展の運営委員となる。

2月 洋画三人展（大分銀行本店2階ロビー）が開催され、《三美神の変貌》他  
を出品する。本展は、廣瀬通秀、神田千里、菅久による三人展である。

7月21日 大分県立芸術会館が企画した成人大学公開講座／美術（大分県立芸術  
会館講堂）の講師を務める。その他の講師は、田中昇。同講座は、その後も

毎週土曜日の午後から、計10回、延べ30時間開催された。

8月28日～9月2日 ’79大分二紀グループ展（大分県立芸術会館第2展示室）に《三美神》F100号を出品する。

10月14日～30日 第33回二紀展（東京都美術館）に《三美神（2）》F100号を出品する。

1980（昭和55）年

1月5日～2月3日 ’80大分県美術総合選抜展（大分県立芸術会館）に《三美神》F100号を出品する。

2月6日 大分県教育実践者表彰（芸術文化）を受ける。

2月17日～22日 第11回Rの会美術展（晃星堂ギャラリー）に出品する。

3月25日～30日 大分県美術協会15周年記念特別展（大分県立芸術会館第1～第3展示室）に《三美神》を出品する。

8月19日～24日 ’80大分二紀グループ展（大分県立芸術会館第3展示室）に《仮面のカリテス》F100号を出品する。

10月12日～30日 第34回二紀展（東京都美術館）に《箱の中のアダムとエバ》F100号を出品する。

11月10日～16日 潮流小品展（大分市・府内画廊）に《花》F6号を出品する。

11月11日～16日 潮流展’80（大分県立芸術会館第1～第3展示室）に《箱の中のアダムとエバ》F100号、《仮面の美神X》F100号、《仮面の美神O》F100号を出品する。

1981（昭和56）年

1月6日～2月1日 ’81大分県美術総合選抜展（大分県立芸術会館）に《三美神》F100号を出品する。

3月 教職を辞する。

4月 大分大学教育学部非常勤講師となる。以後、4年間勤務する。

・大分市立住吉小学校PTA美術部の指導を始める。

7月30日～8月2日 大分県美術協会夏期講習会（大分県立芸術短期大学附属緑丘高等学校）の講師を務める。その他の講師は、脇正人、田中昇、江藤明。内容は、高校生以上を対象とした初心者向けの講習会で、油彩を使った静物画の制作や、人物クロッキー、デッサンの指導を行った。

8月18日～23日 ’81大分二紀グループ展（大分県立芸術会館第1展示室）に《美神の変貌》F100号、《神話》を出品する。

9月 日中友好の船で、中国山東半島南岸青島を訪れる。一行407人。

9月27日 平松学園文化サークルが企画したスケッチバス（杵築城）の講師を務める。

10月4日 平松学園文化サークルが企画したスケッチバス（城島高原）の講師を務める。

10月8日～24日 第35回記念二紀展（東京都美術館）に《美神の変貌A》F100号を出品する。

11月29日 平松学園文化サークルが企画したスケッチバス（日出海岸）の講師を務める。

12月1日～6日 潮流展'81（大分県立芸術会館第1～第3展示室）に《神話—1》F100号、《神話—2》F100号を出品する。

12月6日 平松学園文化サークルが企画したスケッチバス（別府湾）の講師を務める。

#### 1982（昭和57）年

1月5日～31日 '82大分県美術総合選抜展（大分県立芸術会館）に《箱の中のアダムとエバ》F100号を出品する。

2月 第25回記念大分県勤労者創作美術展（大分県立芸術会館）の絵画部審査員を務める。その他の審査員は、小野一郎、神田千里、木村成敏、脇正人、佐藤至良。

4月18日 平松学園文化サークルが企画したスケッチバス（湯布院・小田の池）の講師を務める。

4月 大分合同新聞社が企画した「二紀展に寄せて／座談会」に出席する。その他の出席者は、広田肇一、日名子金一郎、文化部長狭間久。

5月4日～16日 第35回記念二紀展（大分県立芸術会館）に《美神の変貌A》F100号が巡回展示される。

5月12日～19日 大分二紀グループ大作展（丸正画廊）に出品する。

5月30日 平松学園文化サークルが企画したスケッチバス（佐賀関・黒ヶ浜／白ヶ浜）の講師を務める。

6月 平松学園文化サークルが企画したスケッチバス（杵築市・武家屋敷跡）の講師を務める。

7月20日～25日 第3回西部二紀展（福岡市美術館市民ギャラリー）に《美神の変貌》を出品する。

8月 平松学園文化サークルが企画したスケッチバス（国東町）の講師を務める。

8月10日～15日 '82大分二紀グループ展（大分県立芸術会館第3展示室）に《美神の変貌（緑）》F100号、《美神の変貌（赤）》F100号、《美神の変貌（青）》F100号を出品する。

10月8日～24日 第36回二紀展（東京都美術館）に《美神の変貌H》F100号を出品し、同人賞を受賞する。

## 1983（昭和58）年

2月3日～8日 第36回二紀展受賞作家新作展（銀座・松屋別館画廊）に《美神の変貌》F30号を出品する。

2月7日 第26回大分県勤労者創作美術展（大分県立芸術会館）の絵画部審査員を務める。その他の審査員は、小野一郎、神田千里、木村成敏、脇正人、佐藤至良。

2月 大分県芸術祭20周年記念行事準備委員会の副委員長となる。

4月29日 平松学園文化サークルが企画したスケッチバス（別府市・十文字原高原）の講師を務める。

6月27日～7月3日 大分二紀チャリティー小品展（大分市・丸正画廊）に《白い背景の花》F4号、《緑の背景の花》F6号を出品する。

7月12日～17日 第4回西部二紀展（福岡市美術館市民ギャラリー）に《美神の変貌》を出品する。

8月23日～28日 '83大分二紀展（大分県立芸術会館第3展示室）に《美神の変貌A》F100号、《美神の変貌B》F100号、《美神の変貌C》F100号を出品する。

10月8日～22日 県内作家による「ギャラリー開設協賛展」（大分市・ぶんどぎギャラリー）に《花》を出品する。

10月8日～24日 第37回二紀展（東京都美術館）に《美神の変貌A》F100号を出品する。

## 1984（昭和59）年

2月 第27回大分県勤労者創作美術展（大分県立芸術会館）の絵画部審査員を務める。その他の審査員は、小野一郎、神田千里、木村成敏、佐藤至良、脇正人。

8月21日～26日 '84大分二紀展（大分県立芸術会館第3展示室）に《美神の変貌（パゴダの見える）》F100号、《美神の変貌（光背のある）》F100号、《美神の変貌（散華）》変形200号を出品する。

10月16日～21日 第20回大分県美術展（大分県立芸術会館）に《美神の変貌》を出品し、大分県美術協会賞を受賞する。

10月16日～31日 第38回二紀展（東京都美術館）に《美神の変貌・パゴダの見える》F100号を出品する。

## 1985（昭和60）年

2月 第28回大分県勤労者創作美術展（大分県立芸術会館）の絵画部審査員を務める。その他の審査員は、小野一郎、神田千里、木村成敏、脇正人、佐藤至良。

2月18日～24日 大分県美術協会日・洋・彫・工部大分支部展（大分市・レインボービル7階）に出品する。

3月25日～31日 第4回住吉小学校PTA美術部展（晃星堂2階ギャラリー）に賛助出品する。

・大分県芸術文化振興会議の常任理事となる。

7月30日～8月29日 四県合同美術協会展（宮崎県立総合博物館）に《美神の変貌》が選抜され、出品する。

8月20日～25日 '85大分二紀展（大分県立芸術会館第3展示室）に《美神の変貌（Ⅰ）》F100号、《美神の変貌（Ⅱ）》F100号、《神秘的な風景》変形150号を出品する。

10月15日～31日 第39回二紀展（東京都美術館）に《美神の変貌（操）》F100号を出品する。

#### 1986（昭和61）年

2月 第29回大分県勤労者創作美術展（大分県立芸術会館）の絵画部審査員を務める。その他の審査員は、小野一郎、神田千里、脇正人、佐藤至良。

8月5日～10日 西部二紀展1986（福岡県立美術館）に《美神の変貌》を出品する。

8月19日～24日 '86大分二紀展（大分県立芸術会館第3展示室）に《美神の変貌1》F100号、《美神の変貌2》F100号、《美神の変貌3》F100号を出品する。

10月16日～31日 第40回記念二紀展（東京都美術館）に《美神の変貌／哲》F100号を出品し、同会会員に推挙される。

#### 1987（昭和62）年

2月 第30回大分県勤労者創作美術展（大分県立芸術会館）の絵画部審査員を務める。その他の審査員は、小野一郎、神田千里、木村成敏、脇正人、佐藤至良。

7月3日～12日 第40回記念二紀展（大分県立芸術会館）に《美神の変貌／哲》F100号が巡回展示される。

8月18日～23日 '87大分二紀展（大分県立芸術会館第1展示室）に《記憶の中の風景／峙》F100号を出品する。

10月16日～31日 第41回二紀展（東京都美術館）に《記憶の中の風景／連》M100号を出品する。

12月1日～1月30日 菅久展（大分銀行本店2階ロビー）が開催され、《三美神の変貌》、《記憶の中の風景》を含む12点を出品する。

## 1988（昭和63）年

2月 第31回大分県勤労者創作美術展（大分県立芸術会館）の絵画部審査員を務める。その他の審査員は、小野一郎、神田千里、木村成敏、脇正人、佐藤至良。

4月26日～5月1日 第9回二紀会員展（東京セントラルアネックス）に《記憶の中の風景／巡》80号を出品する。

8月16日～21日 ’88大分二紀展（大分県立芸術会館第3展示室）に出品する。

10月16日～31日 第42回二紀展（東京都美術館）に《記憶の中の風景／瓢》を出品し、会員賞を受賞する。

## 1989（平成元）年

1月6日～29日 「大分の作家たち I 現代の美術—「描く」」（大分県立芸術会館）が開催され、《記憶の中の風景／対》F 80号、《記憶の中の風景／連》M100号、《記憶の中の風景／燦<sup>さん</sup>》F 100号、《記憶の中の風景／遥》F 100号、《記憶の中の風景／邂<sup>かい</sup>》F 80号を出品する。

1月14日 午後2時から4時まで、「大分の作家たち I 現代の美術—「描く」」の関連イベントとして開催されたフォーラム（大分県立芸術会館第3展示室）に参加する。

2月 第32回大分県勤労者創作美術展（大分県立芸術会館）の絵画部審査員を務める。その他の審査員は、小野一郎、神田千里、木村成敏、脇正人、佐藤至良。

8月22日～27日 ’89大分二紀展（大分県立芸術会館第1展示室）に《記憶の中の風景／霹》P 150号を出品する。

10月16日～31日 第43回二紀展（東京都美術館）に《記憶の中の風景／霹》P 150号を出品する。

## 1990（平成2）年

1月5日～28日 大分の作家たち「戦後美術の胎動」展（大分県立芸術会館）が開催され、《No.5》F 50号、《作品A（黒い花）》P 12号、《もつれあう》F 50号を出品する。

4月24日～29日 二紀・会員展（東京セントラルアネックス）に《記憶の中の風景／昴》を出品する。

5月 “大分市の桜” 菅久スケッチ展（小田急センチュリーホテル1階ロビー）が開催され、高尾山自然公園や一心寺など、市内の桜を描いた油彩画14点を出品する。

8月14日～19日 ’90大分二紀展（大分県立芸術会館第3展示室）に《春風雷鳴》P 150号を出品する。

10月17日～31日 第44回二紀展（東京都美術館）に《春風雷鳴》P150号を出品する。

10月29日～11月17日 菅久展－コンテパスによる美しい大分風景素描（ギャラリー・ラ・セゾン）が開催され、《久住連山》、《裏由布山》、《表由布山》を含む21点を出品する。

・大分県立芸術会館に《もつれあう》F50号が購入される。

#### 1991（平成3）年

5月 菅久展－円盤が飛ぶ（大分銀行本店2階ロビー）が開催され、《記憶の中の風景（瓢）》、《春風雷鳴》P150号、《霹靂》P150号を含む油彩8点を出品する。

8月20日～25日 '91大分二紀展（大分県立芸術会館第3展示室）に《火の戦い》P150号を出品する。

10月16日～31日 第45回記念二紀展（東京都美術館）に《火の戦い》P150号を出品する。

#### 1992（平成4）年

4月21日～26日 春季二紀展（銀座・画廊）に《炎の旗》を出品する。

8月11日～16日 '92大分二紀展（大分県立芸術会館第3展示室）に出品する。

10月16日～31日 第46回二紀展（東京都美術館）に《炎の戦い》P150号を出品する。

#### 1993（平成5）年

・大分銀行百周年記念「洋画五人展」岩尾秀樹／神田千里／菅久／廣瀬通秀／脇正人（大分銀行本店2階ロビー）が開催され、《炎の戦い》P150号、《炎と旗》P150号を出品する。

8月24日～29日 '93大分二紀展（大分県立芸術会館第3展示室）に《空からのメッセージ》P150号を出品する。

10月16日～31日 第47回二紀展（東京都美術館）に《空からのメッセージ》P150号を出品する。

#### 1994（平成6）年

1月29日～2月5日 菅久・小品展（ぎやるりーら・ぱれっと）が開催され、《芒（ススキ）》、《種まく人》、《ピエロ》他を出品する。

8月23日～28日 '94大分二紀展（大分県立芸術会館第3展示室）に《空からのメッセージ》P150号を出品する。

10月16日～31日 第48回二紀展（東京都美術館）に《空からのメッセージ》P150号を出品し、同会委員に推挙される。

・大分芸術祭30周年記念功労者表彰を受ける。

## 1995（平成7）年

8月22日～27日 '95大分二紀展（大分県立芸術会館第3展示室）に出品する。

10月17日～31日 第49回二紀展（東京都美術館）に《払暁》P 150号を出品する。

## 1996（平成8）年

7月4日～9日 菅久・脇坂秀樹洋画2人展（トキハ別府店7階特設会場）が開催され、《春禽》20号を含む1号から20号までの小品30点を出品する。

8月13日～18日 '96大分二紀展（大分県立芸術会館第3展示室）に《万朶》P 150号を出品する。

10月16日～31日 第50回記念二紀展（東京都美術館）に《万朶》P 150号を出品する。

## 1997（平成9）年

2月1日～8日 菅久小品展一花のイメージ（ぎゃるりーら・ぱれっと）が開催され、《花の中の小鳥たち》F 20号他を出品する。

8月5日～10日 '97大分二紀展（大分県立芸術会館第1展示室）に出品する。

10月16日～31日 第51回二紀展（東京都美術館）に《花嵐》P 150号を出品する。

## 1998（平成10）年

9月9日～13日 '98大分二紀展（大分県立芸術会館第1展示室）に《旋風》P 150号を出品する。

10月16日～31日 第52回二紀展（東京都美術館）に《旋風》P 150号を出品する。

11月 菅久小品展（大分市・近代画廊）が開催され、油彩20点とパステル画5点を出品する。

・大分県美術協会30周年記念功労者表彰を受ける。

## 1999（平成11）年

8月24日～29日 '99大分二紀展（大分県立芸術会館第3展示室）に《春雷》P 150号を出品する。

10月16日～31日 第53回二紀展（東京都美術館）に《春雷》P 150号を出品する。

12月6日～2月4日 菅久展（大分銀行本店2階ロビー）が開催され、《空へのメッセージ》P 150号、《払暁》P 150号、《万朶》P 150号、《花嵐》P 150号、《旋風》P 150号を出品する。

## 2000（平成12）年

・大分合同新聞社が企画した、渡辺克己著「豊後の武将と合戦」の挿絵を担当する。

3月 菅久挿絵原画展（大分市・コンパルホール2F）を開催し、大分合同新聞に連載した小説「豊後の武将と合戦」の挿絵原画20数点を出品する。

6月21日～7月23日 大分の洋画20世紀（大分県立芸術会館）が開催され、《もつれあう》F 50号が展示される。

8月15日～20日 2000大分二紀展（大分県立芸術会館第3展示室）に《花筏》P 150号を出品する。

10月17日～31日 第54回二紀展（東京都美術館）に《花筏》P 150号を出品する。

#### 2001（平成13）年

8月28日～9月2日 2001大分二紀展（大分県立芸術会館第3展示室）に《夕紅》P 150号を出品する。

10月17日～31日 第55回記念二紀展（東京都美術館）に《夕紅》P 150号を出品し、第55回記念賞を受賞する。

#### 2002（平成14）年

2月 菅久個展（ぎゃるりーら・ぱれっと）が開催され、《暮秋》20号を含む、約30点を出品する。

5月2日～12日 第55回記念二紀展（大分県立芸術会館）に《夕紅》P 150号が巡回展示される。

・二紀会理事会において評議員に選出される。

9月1日～8日 2002大分二紀展（大分県立芸術会館第3展示室）に《花霞》P 150号を出品する。

10月16日～31日 第56回二紀展（東京都美術館）に《花霞》P 150号を出品する。

#### 2003（平成15）年

2月8日～3月23日 「戦後大分の美術 I スバル〈一断面〉展」（大分市美術館）が開催され、《No.6（河口）》F 50号、《夕紅》P 150号を含む、13点を出品する。

1月27日～5月30日 菅久・山崎芳直二人展（大分銀行本店2階ロビー）が開催され、《三美神》、《美神の変貌》、《記憶の風景》、《春雷》を出品する。

8月19日～24日 2003大分二紀展（大分県立芸術会館第3展示室）に《紅嵐》P 150号を出品する。

10月16日～31日 第57回二紀展（東京都美術館）に《紅嵐》P 150号を出品する。

・大分市美術館に《夕紅》P 150号1点が買上げられ、《作品A（黒い花）》P 12号1点を寄贈する。

#### 2004（平成16）年

8月31日～9月5日 2004大分二紀展（大分県立芸術会館第3展示室）に《霹靂》P 150号を出品する。

10月16日～31日 第58回二紀展（東京都美術館）に《霹靂》P 150号を出品する。

11月 第34回大分県日本画展（大分県立芸術会館）の審査員を務める。

## 2005（平成17）年

2月26日～3月5日 画廊17周年記念企画展「菅久小品展」（ぎやるりーら・ぱれっと）が開催され、《薔薇》F12号を含む、23点を出品する。

8月23日～28日 2005大分二紀展（大分県立芸術会館第1展示室）に《さくら風神之図》P150号を出品する。

10月16日～31日 第59回二紀展（東京都美術館）に《さくら風神之図》P150号を出品する。

## 2006（平成18）年

8月29日～9月3日 2006大分二紀展（大分県立芸術会館第3展示室）に《もみじ雷神之図》P150号を出品する。

10月17日～31日 第60回記念二紀展（東京都美術館）に《もみじ雷神之図》P150号を出品する。

## 2007（平成19）年

3月10日～20日 大分二紀小品展（ぎやるりーら・ぱれっと）に《黒い花びら》P12号を出品する。

3月13日～18日 第60回記念二紀展（大分県立芸術会館）に《もみじ雷神之図》P150号が巡回展示される。

3月17日 第60回記念二紀展（大分県立芸術会館）の関連イベントとして、作品解説を行う。

9月9日～15日 2007大分二紀展（大分県立芸術会館第1展示室）に《別府湾暮色》P150号を出品する。

10月17日～29日 第61回二紀展（国立新美術館）に《別府湾暮色》P150号を出品し、成井賞を受賞する。

## 2008（平成20）年

9月10日～15日 2008大分二紀展（大分県立芸術会館第3展示室）に《別府湾暮色・扇山火まつり》P150号を出品する。

10月15日～27日 第62回二紀展（国立新美術館）に《別府湾暮色・扇山火まつり》P150号を出品する。

・大分市美術館に《別府湾暮色》P150号を寄贈する。

## 2009（平成21）年

9月8日～13日 2009大分二紀展（大分県立芸術会館第3展示室）に《臥牛城と月》F100号を出品する。

10月14日～26日 第63回二紀展（国立新美術館）に《臥牛城と月》F100号を出品する。

2010（平成22）年

5月21日～6月11日 「郷土在住作家展Ⅳ 菅久展」（大分市美術館）が開催され、初期の《もつれあう》F50号や、近作の《別府湾暮色・扇山火まつり》P150号などの代表作及び関連資料を出品する。

5月29日 「郷土在住作家展Ⅳ 菅久展」の関連イベントとして、大分市美術館のハイビジョンホールにおいて、作家トークを行う。108人が聴講した。

5月29日 菅久先生個展開催祝賀会（大分第一ホテル8Fル・ファール）が開催される。

6月7日～6月19日 菅久小品展（ぎゃるりーら・ぱれっと）が開催され、《老梅に鶯》F12号他を出品する。

9月14日～20日 2010大分二紀展（大分県立芸術会館第1展示室）に《臥龍よ 時には空を飛べ》P150号を出品する。

10月13日～25日 第64回二紀展（国立新美術館）に《臥龍よ 時には空を飛べ》P150号を出品する。

現在：二紀会評議員

大分二紀会顧問

大分県美術協会名誉会員

大分市在住

### 表3 菅久関連文献

#### 1. 自筆文献

##### [逐次刊行物]

- 菅久「早川正の「貝のある静物」」大分合同新聞 1950年5月
- 菅久「所感」大分合同新聞 1950年
- 菅久「作者の言葉」第2回ネギ展パンフレット 1950年8月
- 菅久「私のデザイン① 菅久（スバル同人）」大分合同新聞 1953年4月4日
- 菅久「絵筆と共に 高麗焼のツボ」大分合同新聞 1955年5月26日
- 菅久「浮袋と女 二豊文化」毎日新聞 1955年8月21日
- 菅久「新婚旅行の思い出 好きな絵を一緒に描いた」大分合同新聞 1957年
- 菅久「文化 二科展に期待する 変化に富む展覧会」大分合同新聞 1958年1月4日
- 菅久「宗肇の油絵小品展」大分合同新聞 1958年1月19日
- 菅久「A君へ 感動を絵に描こう」旬刊中学時代 1958年7月5日
- 菅久「県美術十年の傑作展」毎日新聞 1958年8月10日
- 菅久「古川栄展をみて」大分合同新聞 1958年8月14日
- 菅久「愛酒流記 元祖正一合」大分県図工科研究会中学部新聞 1959年2月25日
- 菅久「二豊文化 第五回日本国際美術展の作品と作者」毎日新聞 1959年7月19日
- 菅久「学芸「県画壇」上半期の回顧」大分合同新聞 1959年7月20日
- 菅久「別府市美展を見て 若さがみなぎる」大分合同新聞 1959年9月22日
- 菅久「緑丘高美術科展をみて 熱意と努力のあと」大分合同新聞 1959年12月16日
- 菅久「第四回アイ展評 もっと柔軟性がほしい」大分合同新聞 1960年6月25日
- 菅久「西日本スケッチ・書き方入選作品展から②」西日本新聞 1961年6月14日
- 菅久「西日本スケッチ・書き方入選作品展から③」西日本新聞 1961年6月15日
- 菅久「鬘展を見て 来年の飛躍に期待」大分合同新聞 1961年12月16日
- 菅久「秋の構想② 白く消えた花 菅久」大分合同新聞 1962年9月6日
- 菅久「文化 分大学芸学部 美術科制作展をみて」大分合同新聞 1962年12月14日
- 菅久「分大学芸学部 美術展をみて」大分合同新聞 1963年12月16日
- 菅久「二つの美術展を見て 見塩英枝個展と大分東高美術部作品展」  
大分合同新聞 1964年8月5日
- 菅久「「集団ガン展」をみて 問題投げる“反芸術”」大分合同新聞 1964年9月25日
- 菅久「二つの美術展をみて 緑丘高校美術展と渡辺恭英小品展」  
大分合同新聞 1964年10月31日
- 菅久「分大学芸学部の美術部制作展をみて 充実感がもっとほしい」  
大分合同新聞 1964年12月25日
- 菅久「文化 三浦勉個展によせて」大分合同新聞 1965年3月30日

菅久「文化「新世紀群展」をみて」大分合同新聞 1965年10月9日  
菅久「文化 秋の中央展出品作から「一九六五の二」」  
大分合同新聞 1965年12月5日  
菅久「文化 分大美術部制作展をみて」大分合同新聞 1965年12月12日  
菅久「県美協大分支部展をみて」大分合同新聞 1966年6月10日  
菅久「後藤健二郎個展をみて」大分合同新聞 1966年7月3日  
菅久「文化 荒金透氏の個展」大分合同新聞 1966年7月24日  
菅久「文化「戦争下の青春」②悪夢のような日々」大分合同新聞 1966年8月13日  
菅久「松方展⑦ドラム ロンドンの橋」大分合同新聞 1966年11月22日  
菅久「二つの学生美術展 緑丘高作品展と分大教育学部美術部制作展」  
大分合同新聞 1966年12月11日  
菅久「三つの展覧会をみて 県立芸術短大、緑丘高卒業制作展、木葉会展」  
大分合同新聞 1966年2月12日  
菅久「ユトリロ展への期待② “白の時代” の作品に大きな期待」  
毎日新聞 1967年6月7日  
菅久「ルノワールと私②」毎日新聞 1967年9月22日  
菅久「楽しいふんい気ー県版画協会展を見てー」大分合同新聞 1967年8月20日  
菅久「“生活” に根ざした絵 おおいた職場美術サークル連絡会第一回展」  
大分合同新聞 1967年12月16日  
菅久「三つの学生美術展 分大教育学部、大分女子高、芸大付属緑丘高」  
大分合同新聞 1968年2月17日  
菅久「ろう教育と図工・美術科」造形大分 1968年2月24日  
菅久「文化 やや活気に欠ける「蒼潮展」整然とした“発言”だが」  
大分合同新聞 1968年3月15日  
菅久「「渡辺恭英個展」を見て」大分合同新聞 1968年5月3日  
菅久「文化 そう快な美しさー馬木一成個展をみてー」  
大分合同新聞 1968年7月14日  
菅久「現代の“ことば”で語ろうー平川啓三、中村義明習作展を見てー」  
大分合同新聞 1968年8月21日  
菅久「県下の作家を一堂に集めた大分県美術百年展」教育大分11月号 1968年11月  
菅久「文化 いぜん沈滞ぎみ 分大教育学部美術部の制作展」  
大分合同新聞 1968年12月1日  
菅久「拍手をおくる」山崎哲一郎個展パンフレット 1968年12月  
菅久「奔放さと緊迫感ー「複製ピカソ」展を見てー」大分合同新聞 1969年1月17日  
菅久「気軽さはあるが緊張感欠く 鶴崎工・大分東高OBの絵画グループ展」

大分合同新聞 1969年4月19日  
菅久「本来の“道”へ帰ろうー神田武人個展を見てー」

大分合同新聞 1969年7月6日  
菅久「ナマで知る20世紀の巨匠 パウル・クレー展を見て」

西日本新聞 1969年9月17日  
菅久「今後を楽しみにー「蒼土展」を見てー」大分合同新聞 1969年10月6日  
菅久「二つの学生美術展を見て 迫力がほしい分大 別大付属デッサン訓練を」

大分合同新聞 1969年11月28日  
菅久「4年間の力を結集 分大美術科卒業制作展」大分合同新聞 1970年3月13日  
菅久「日本グラフィックデザイン展大分展 デザイン界に新風を」

大分合同新聞 1970年4月13日  
菅久「実践記録 Rの会第一回美術展」九州造形技術 1970年4月30日  
菅久「第八回創象展をみて 熱意あるグループ展」大分合同新聞 1970年6月13日  
菅久「美術展評 にじみでる純粹さ 新世紀群展 20周年・躍進を祈る」

大分合同新聞 1970年6月27日  
菅久「美術展評 目立つ佐藤の意欲作ー分大教育学部美術科制作展ー」

大分合同新聞 1970年9月4日  
菅久「《ふるさと紀行》高崎山」読売新聞 1970年9月28日  
菅久「美術展評 盛り上がった意欲 グループ4洋画彫塑展」

大分合同新聞 1970年11月6日  
菅久「美術展評 大分県宣伝美術会秋季展 二彩展（姫野陸郎個展）」

大分合同新聞（夕刊）1970年11月21日  
菅久「美術展評 その意気を買う 蒞黄会」大分合同新聞（夕刊）1971年2月11日  
菅久「美術展評 宮崎豊油絵小品展」大分合同新聞（夕刊）1971年4月22日  
菅久「美術展評 平均50号の異色作 大分自由美術展を見て」

大分合同新聞 1971年8月26日  
菅久「美術展評 頼もしい“若いエネルギー”蒼土展」

大分合同新聞（夕刊）1971年11月4日  
菅久・C「美術展評 大分現代美術の動向展」

大分合同新聞（夕刊）1971年11月25日  
菅久「現代洋画秀作展をみて<上>清潔で気品のある点描」

大分合同新聞 1971年12月6日  
菅久「浮世絵名作展を見て②」大分合同新聞 1972年4月1日  
菅久「新風景 明野団地」読売新聞 1972年8月28日  
菅久「美術展評 達者なデッサン 樹の会選抜展」大分合同新聞 1972年7月22日

菅久「美術展評 “中国的なにおい” 吉村益信個展」大分合同新聞 1972年10月5日  
菅久「美術展評 デザイン、彫刻に進歩 緑丘高制作美術展」  
大分合同新聞 1972年11月24日  
菅久「一服の清涼剤 上田忠敏個展」大分合同新聞 1973年1月23日  
菅久「美術展評 大分大学教育学部美術科卒業制作展」  
大分合同新聞 1973年3月9日  
菅久「展覧会評 第八回“蒼潮”展 宮崎豊個展によせて」  
大分合同新聞 1973年4月25日  
菅久「美術展評 甲斐哲義・常木新二 二人展」大分合同新聞 1973年6月20日  
菅久「清潔な水彩の味 二つの水彩画展から」大分合同新聞 1973年8月27日  
菅久「企画、実行力に敬服 第一回おおいた野外彫刻展」  
大分合同新聞 1973年10月18日  
菅久「華やか・・・大作16点「りぶの会」第4回展」  
大分合同新聞 1973年7月26日  
菅久「美術展評 新芽のやわらかさ「6拍子の会」展」  
大分合同新聞 1974年6月15日  
菅久「“不安の中の調和” 美術展評 村上肥出夫油絵展」  
大分合同新聞 1974年11月18日  
菅久「美術展評 厳しいふん囲気 脇正人個展」大分合同新聞 1974年12月28日  
菅久「独特な色彩と光 末光捨一個展」大分合同新聞 1975年3月8日  
菅久「美術展評 10周年を迎えた蒼潮展 さらに精進を期待」  
大分合同新聞 1975年4月25日  
菅久「美術展評 意欲的な会場 りぶの会5回展」大分合同新聞 1975年8月8日  
菅久「美術展評 木村健作個展 甲斐哲義個展」大分合同新聞 1975年10月30日  
菅久「美術展評 意欲的な作品群 県立芸短大 美術科卒業制作展」  
大分合同新聞 1976年2月2日  
菅久「作品に苦悩のあと・・・蒼潮展」大分合同新聞 1976年3月11日  
菅久「健康的な写実 第1回大分大潮展」大分合同新聞（夕刊）1976年5月22日  
菅久「読者の声 頭下がる「福田平八郎展」」大分合同新聞 1976年5月27日  
菅久「「水彩連盟大分支部展」をみて 42点の大作、力作がずらり」  
大分合同新聞 1976年8月13日  
菅久「まじめな制作態度 県中学美術展」大分合同新聞 1977年2月5日  
菅久「美術展評 落ち着いた作風 原一佳個展」大分合同新聞 1977年3月19日  
菅久「スケッチ帳から」大分合同新聞（夕刊）1977年6月3日  
菅久「優しくそして鋭く ピカソ版画展」大分合同新聞（夕刊）1977年6月18日

菅久「県下の女流画家 8 人が出品 りぶの会展評」大分合同新聞 1977 年 8 月 6 日  
菅久「美術展評 格調高いロマン「三浦勉油絵展」を見て」  
大分合同新聞 1977 年 9 月 26 日  
菅久「鮮やかな足跡、いつの日には 藤雅三のデッサン」  
大分合同新聞（夕刊）1977 年 11 月 5 日  
菅久「視点をかえて脱皮を グループ 29 会への期待」  
大分合同新聞 1977 年 12 月 24 日  
菅久「美術展評 新鮮な迫力 大分大学美術科卒業制作展をみて」  
大分合同新聞 1978 年 3 月 13 日  
菅久「異色のグループ 行動大分作家展」大分合同新聞（夕刊）1978 年 6 月 3 日  
菅久「一五周年を迎えた芸振会議」広報おおいた 1978 年 10 月号  
菅久「期待される大きな展開 蒼土会展を見て」大分合同新聞 1978 年 12 月 2 日  
菅久「新たな目標を 岐路に立つ「蒼潮展」」大分合同新聞 1979 年 4 月 28 日  
菅久「佐藤敬遺作展を前に」大分合同新聞 1979 年 8 月 11 日  
菅久「パリのシルエット 佐藤亜土新作版画展を見て」大分合同新聞 1979 年  
菅久「現代的な歯切れのよいタッチ「岡田忠臣展」をみて」  
大分合同新聞 1979 年 11 月 7 日  
菅久「版画の力量感に驚く 感動のシャガール展」読売新聞 1980 年 6 月  
菅久「R の会美術展に寄せて」大分合同新聞 1981 年 2 月 19 日  
菅久「県芸術祭 文芸、美術にもスポットを」大分合同新聞 1981 年 3 月 30 日  
菅久「“古里” 青島を訪ねて 絵になる風景ばかり」大分合同新聞 1981 年 9 月 24 日  
菅久「ふるさとシリーズ西村駿一油絵展 いろいろ試作 多彩な作品群」  
大分合同新聞 1981 年 11 月 5 日  
菅久「「県立芸短大 20 周年美術展」を見て」大分合同新聞 1981 年 11 月 26 日  
菅久「小米良洋子・牧ひろ子二人展をみて」大分合同新聞 1982 年 1 月 7 日  
菅久「相次ぐ 50、60 年代回顧展」大分合同新聞（夕刊）1982 年 3 月 18 日  
菅久「日名子金一郎展 清潔感あふれ独特の境地醸し出す」  
大分合同新聞 1982 年 6 月 29 日  
菅久「「県内在住作家個展シリーズ’ 82」をみて」大分合同新聞 1982 年 7 月 27 日  
菅久「大分自由美術展・大分県平和展をみて 見ごたえ十分な会場」  
大分合同新聞 1982 年 8 月 19 日  
菅久「TAMABI 展をみて」大分合同新聞 1982 年 9 月 16 日  
菅久「武藤完一先生のエッチング」大分合同新聞 1982 年 11 月 14 日  
菅久「2 つの展覧会」大分合同新聞 1982 年 12 月 2 日  
菅久「それぞれの個性確立 蒼潮展を見て」大分合同新聞 1983 年 4 月 21 日

菅久「今永清玄アーティストックメディア' 83を見て」  
大分合同新聞 1983年8月14日

菅久「山崎哲一郎展 不思議な迫力と熱気」大分合同新聞 1983年9月11日

菅久「スバルと人(その1)」芸振芸振 No.60 1983年11月

菅久「楽しい雰囲気 別府大学美学美術史科の「' 83卒展」」  
大分合同新聞 1983年12月15日

菅久「藤雅三(臼杵市出身)の発掘を 日本近代洋画を生み出す原動力」  
大分合同新聞(夕刊) 1983年1月19日

菅久「仲町謙吉展をみて 会場圧する新作14点の大作」  
大分合同新聞 1984年3月1日

菅久「スバルと人(その2)」芸振 No.61 1984年3月

菅久「ほとぼしる気炎 平松和子、山本裕子油絵2人展」  
大分合同新聞 1984年4月1日

菅久「水彩連盟展を見て 油絵展と変わらぬ強さ」大分合同新聞 1984年5月24日

菅久「日曜文化 行動大分作家展を見て ふと新野獣派の到来を見た」  
大分合同新聞 1984年6月3日

菅久「スバルと人(その3)」芸振 No.62 1984年7月

菅久「佐々木良枝展をみて カラフルでさわやかそして明快」  
大分合同新聞 1984年8月7日

菅久「' 84大分自由美術展をみて ひとりひとり問題意識を持ち意欲的」  
大分合同新聞 1984年8月30日

菅久「私の提言 市町村相互間の文化交流育成を」大分合同新聞 1984年10月1日

菅久「平凡の中の非凡さ 広瀬通秀ふるさとスケッチ展」  
大分合同新聞 1984年10月28日

菅久「スバルと人(その4)」芸振 No.63 1984年11月

菅久「緑丘高美術制作展を見て 一人一人の出身校示し指導の過程を追って」  
大分合同新聞(夕刊) 1984年11月29日

菅久「東京時代の藤雅三《上》」大分合同新聞(夕刊) 1984年12月13日

菅久「東京時代の藤雅三《下》」大分合同新聞(夕刊) 1984年12月20日

菅久「詩情・ロマンあふれ マキヨウイチ油彩展」大分合同新聞 1985年1月13日

菅久「2つの美術展をみて 水彩連盟大分支部展 大分県中学校美術展」  
大分合同新聞 1985年2月21日

菅久「スバルと人(その5)」芸振 No.64 1985年3月

菅久「満6年迎えて定着「洋画三人展」を祝福」大分合同新聞 1985年3月12日

菅久「スバルと人(その6)」芸振 No.65 1985年7月

菅久「迫力・新鮮・重厚さ 江藤哲個展をみて」大分合同新聞 1985年7月4日  
菅久「スバルと人(その7)」芸振 No. 66 1985年9月  
菅久「35周年記念新世紀群展と30回蒼土会展をみて」大分合同新聞 1985年9月5日  
菅久「光彩放つ赤の一連 脇正人個展をみて」大分合同新聞 1985年10月24日  
菅久「スバルと人(その8)」芸振 No. 67 1985年11月  
菅久「スペースの埋め方が課題 小米良洋子個展をみて」  
大分合同新聞 1985年12月5日  
菅久「グループ29展をみて」大分合同新聞 1986年1月16日  
菅久「大分大学 別府大学 卒業制作展を見て」大分合同新聞 1986年2月27日  
菅久「スバルと人(その9)」芸振 No. 68 1986年3月  
菅久「牛にあふれる愛情 酒見文雄個展を見て」大分合同新聞 1986年3月27日  
菅久「真価を発見するチャンス 話題を集める斎藤勲遺作展」  
大分合同新聞 1986年5月8日  
菅久「一見平和な絵の中に・・・熊井恭子展をみて」大分合同新聞 1986年5月22日  
菅久「全国公募のコンクールを 近代日本版画展をみて」  
大分合同新聞 1986年6月19日  
菅久「後藤千香子版画展を見て」大分合同新聞 1986年8月17日  
菅久「蒼土会展をみて」大分合同新聞 1986年10月5日  
菅久「グループ29展を見て」大分合同新聞(夕刊) 1986年12月18日  
菅久「成果を問う画学生 大分大学教育学部美術科の卒業制作展」  
大分合同新聞 1987年3月5日  
菅久「波多野義孝展を見て 自由奔放なレタリング」大分合同新聞 1987年4月9日  
菅久「パリ時代の藤雅三<上>黒田と寺院で初対面」  
大分合同新聞(夕刊) 1987年5月21日  
菅久「パリ時代の藤雅三<下>油彩がサロンに入選」  
大分合同新聞(夕刊) 1987年5月28日  
菅久「二紀展へのお誘い 個性派集団の作品125点」大分合同新聞 1987年7月5日  
菅久「仲築間英人展 将来どんな色で開花するか楽しみ」  
大分合同新聞 1987年7月16日  
菅久「非凡を秘めた作品群 白日会大分支部展をみて」  
大分合同新聞 1987年8月13日  
菅久「「日本近代洋画の歩み」展を見て」大分合同新聞 1987年11月26日  
菅久「九州芸術祭総合美術展を見て」大分合同新聞 1988年1月14日  
菅久「思いっきり自己表現 小米良洋子展を見て」大分合同新聞 1988年3月3日  
菅久「静かでモダンな対話室 十時良小品作品展を見て」

大分合同新聞 1988年7月10日  
菅久「二科大分グループ展を見て 再出発の新しい息吹」

大分合同新聞 1988年8月4日  
菅久「巡回展の公開をぜひ 新興美術院大分支部展を見て」

大分合同新聞 1988年8月21日  
菅久「私の提言 こんな大分市立美術館に」大分合同新聞 1988年10月3日

菅久「片多徳郎展を見て」大分合同新聞 1988年11月17日

菅久「山崎芳直個展を見て 新鮮なライト感覚が魅力」

大分合同新聞 1989年2月19日  
菅久「別府大学美学美術史学科の卒業制作展を見て」大分合同新聞 1989年3月2日

菅久「古川栄個展を見て」大分合同新聞 1989年5月22日

菅久「風倉匠展を見て」大分合同新聞 1989年6月8日

菅久「大作労作がぎっしりと 新興美術院大分支部展」

大分合同新聞（夕刊）1989年8月24日  
菅久「日隈純江個展を見て ユニークな女流画家に飛躍を」

大分合同新聞 1989年11月19日  
菅久「秀作の「Energy」 桑原賢治油彩展を見て」大分合同新聞 1989年12月14日

菅久「「戦後美術の胎動」展を見て「スバル」と「新世紀群」

大分合同新聞（夕刊）1990年1月18日  
菅久「見ごたえ十分の力作が並ぶ むさび展を見て」大分合同新聞 1990年2月25日

菅久「重厚なマチエール 酒見文雄個展を見て」大分合同新聞 1990年3月25日

菅久「十時良個展」を見て 現代社会の不安を追求」大分合同新聞 1990年4月19日

菅久「個性的な作品 苑の会展を見て」大分合同新聞 1990年7月1日

菅久「もっと若い層の作品を 白日会大分支部展を見て」

大分合同新聞 1990年7月29日  
菅久「たくましさも表現「りぶの会展」を見て」大分合同新聞 1990年8月19日

菅久「宗高吉展 裸婦の中に美しい光と影」大分合同新聞 1990年10月28日

菅久「大きく成長・・・10周年 日本画友の会展をみて」

大分合同新聞 1990年12月6日  
菅久「グループ29会展を見て 忙中閑ありのゆとりの作品」

大分合同新聞 1990年12月23日  
菅久「大分返還を ソ連所蔵「首藤コレクション」」大分合同新聞 1991年1月1日

菅久「若さのなかにキラリ“大器”「今永清玄展」を見て」

大分合同新聞 1991年1月24日  
菅久「海妻直人展を見て 今後の仕事が気になる一人・・・」

大分合同新聞 1991年3月7日  
菅久「大人の童話 飯尾寿夫作品展をみて」大分合同新聞 1991年7月18日  
菅久「不思議な時代感覚「山川公丈展」を見て」大分合同新聞 1991年8月15日  
菅久「華麗な配色、御手洗賢司展 詩的雰囲気の方へ」  
大分合同新聞 1991年10月20日  
菅久「国民文化祭ちば'91を見て 21世紀の到来を感じさせる会場」  
大分合同新聞 1991年11月28日  
菅久「飯尾寿夫小品展を見て」大分合同新聞 1991年12月12日  
菅久「渡辺恭英展を見て」大分合同新聞 1992年1月9日  
菅久「池辺庸寛展を見て 存在感のある不思議な造形」  
大分合同新聞 1992年2月6日  
菅久「山崎哲一郎展をみて 茶から黒へより“力強い作品群”」  
大分合同新聞 1992年6月18日  
菅久「美術展壁面の拡大を」大分合同新聞 1992年7月17日  
菅久「一服の清涼剤 佐々木良枝展をみて」大分合同新聞 1992年8月6日  
菅久「異質の組み合わせ 木村建作展」大分合同新聞 1992年9月3日  
菅久「宗教画にも似た崇高な薫り 泉地靖雄展を見て」  
大分合同新聞 1992年9月22日  
菅久「文化 小米良洋子展をみて“あかぬけない魅力”感じて」  
大分合同新聞 1992年11月20日  
菅久「文化 技術よりも意欲を 豊光会展を見て」大分合同新聞 1992年12月4日  
菅久「絵を描くことで自己解放を 日本画友の会展を見て」  
大分合同新聞 1992年12月10日  
菅久「文化 県立芸術文化短大の卒業・修了制作展を見て」  
大分合同新聞 1993年2月5日  
菅久「社会派的山水画・・・佐藤昇風景画展をみて」  
大分合同新聞 1993年5月1日  
菅久「文化 秦善泰 喜寿記念個展をみて」大分合同新聞 1993年5月8日  
菅久「文化「土屋金哉展」をみて 大きさと奔放さ」大分合同新聞 1993年8月12日  
菅久「文化 新興美術院大分支部展を見て」大分合同新聞 1993年9月30日  
菅久「和洋折衷の妙味 溝部聡個展を見て」大分合同新聞 1993年11月25日  
菅久「県美展（日洋彫工）の課題 早く美術館の建設を」  
大分合同新聞 1993年12月16日  
菅久「ラ・セゾンアマチュア第一回、第二回受賞者展を見て」  
大分合同新聞 1993年12月17日

- 菅久「文化 画家婦長さんの詩的な世界「下村尚子展」を見て」  
大分合同新聞 1994年1月31日
- 菅久「文化「飯尾寿夫小品展」を見て」大分合同新聞 1994年2月23日
- 菅久「さわやかな東京の風 佐藤瑞玲水彩展をみて」大分合同新聞 1994年3月31日
- 菅久「文化「佐藤溪展」を見て 作者の心が純化された作品群」  
大分合同新聞 1994年5月7日
- 菅久「文化 花束のような風景画 泉地靖雄展を見て」  
大分合同新聞 1994年5月12日
- 菅久「文化「山川公丈展」をみて」大分合同新聞 1994年5月18日
- 菅久「第53回「創元展」大分巡回展を見て」大分合同新聞（夕刊）1994年6月23日
- 菅久「デビッド・スミス展を見て 新鮮で力強い原色の世界」  
大分合同新聞 1994年7月28日
- 菅久「どの作品もほのぼの 日本画あやめ会作品展を見て」  
大分合同新聞 1994年8月4日
- 菅久「文化 現在の路線進めて独自の技法を 大渡尚己展を見て」  
大分合同新聞 1994年8月29日
- 菅久「文化 新興美術院大分支部展を見て 意欲的な大作14点並ぶ」  
大分合同新聞 1994年9月8日
- 菅久「今永清玄展（ミックスの表紙画を描く'94）を見て」  
大分合同新聞 1994年11月24日
- 菅久「文化 新境地の開拓に期待「仲築間英人展」を見て」  
大分合同新聞 1994年12月15日
- 菅久「黒地に金色の表現－宗教的深さも 多邨常展をみて」  
大分合同新聞 1994年12月22日
- 菅久「メセナ賞に価する事業」大分銀行本店ロビー展美術時評集  
1995年1月30日発行
- 菅久「井田孝子展 さえ渡る描写力」大分合同新聞 1995年11月6日
- 菅久「'96大分二紀展」の講評 描写力一段とアップ」  
大分合同新聞（夕刊）1996年8月15日
- 菅久「新興美術院大分支部展を見て 新しい展開、美の深さ追求」  
大分合同新聞 1996年9月19日
- 菅久「繊細な筆致と広い空間 阿南英行新作展を見て」  
大分合同新聞 1996年10月28日
- 菅久「月曜文化 広瀬通秀近作小品展を見て すばらしい色感」  
大分合同新聞 1996年11月18日

菅久「飯尾寿夫展 新しい色感の発現が魅力的」大分合同新聞 1997年4月14日  
菅久「今永善久展 既成の領域はみ出した芸術」大分合同新聞 1997年8月21日  
菅久「伝わる意気込み 創元会大分支部展をみて」大分合同新聞 1998年8月20日  
菅久「山川公丈展 デザイン的な楽しさ」大分合同新聞 1998年9月3日  
菅久「本川敏子水彩画展に寄せて」大分合同新聞 1998年10月8日  
菅久「「豊光会展」から」大分合同新聞 1998年12月3日  
菅久「「現代絵画9人展」に寄せて 魅せる60代の輝き」  
大分合同新聞（夕刊）1998年12月21日  
菅久「大分大、別府大の卒業修了制作展をみて」大分合同新聞 1999年2月18日  
菅久「小野水彩画教室展を見て 欲しい創造性」  
大分合同新聞（夕刊）1999年11月4日  
菅久「首藤宏道個展をみて 一作一作に熱気」  
大分合同新聞（夕刊）1999年11月9日  
菅久「伊藤裕美子・宮本セツ子 2人展を見て」大分合同新聞 2000年2月24日  
菅久「潜在意識の造形化 下村尚子展を見て」大分合同新聞 2000年8月31日  
菅久「新興美術院大分支部展から 自分らしい表現を期待」  
大分合同新聞 2000年9月21日  
菅久「「仲築間英人個展」を見て 空間の美が真髓」  
大分合同新聞（夕刊）2001年9月6日  
菅久「豊光会展を見て 安定した貫録示す」大分合同新聞（夕刊）2001年11月22日  
菅久「山崎哲一郎展を見て」大分合同新聞（夕刊）2002年4月25日  
菅久「大分独立展を見て 力強い、巧みな構成」大分合同新聞 2003年3月20日  
菅久「白日会大分支部展を見て 活発な県内支部展」  
大分合同新聞（夕刊）2003年6月26日  
菅久「首藤宏道展を見て 胸に迫る若いエネルギー」大分合同新聞 2003年9月4日  
菅久「第38回豊光会展 目立つ「個性的な作品」  
大分合同新聞（夕刊）2003年11月27日  
菅久「江藤久美展 意欲満々独自の世界」大分合同新聞（夕刊）2004年7月1日  
菅久「枠を超えた斬新な作品を 第34回県日本画展を審査して」  
大分合同新聞（夕刊）2004年11月25日  
菅久「謎の画家 藤雅三の発掘と浮上を」美術の窓 2005年8月20日  
菅久「作者の心の動き知る14点 八坂健司さん初の個展」  
大分合同新聞 2005年8月22日  
菅久「卑近なものの中にこそ発見 創元会大分支部展」  
大分合同新聞（夕刊）2005年12月1日

菅久「鈴木忠実展 人道主義的作品の数々」大分合同新聞（夕刊）2006年6月22日  
菅久「貫録ある「荒波」 第41回豊光会展」

大分合同新聞（夕刊）2006年11月23日

菅久「石川賢展 大作12点に欧州の風景」大分合同新聞 2007年12月6日

菅久「丹念な25点、下村尚子新作展」大分合同新聞（夕刊）2008年1月24日

菅久「にじみ出る愛情「多邨常遺作展」」大分合同新聞（夕刊）2008年3月27日

菅久「川上英明展 重厚な壁づくりで圧倒」大分合同新聞（夕刊）2008年7月31日

菅久「黄色の画家 大分市美術館で広瀬通秀展 斬新な色面分割手法」

大分合同新聞 2009年1月15日

菅久「郷土在住作家展 第3弾「飯尾寿夫展」作風の変遷たどる116点」

大分合同新聞 2009年6月4日

菅久「豊光会展 無駄な厚塗り払拭」大分合同新聞（夕刊）2009年11月12日

## 2. 関連記事

### [単行書]

大分県芸術文化振興会議「第4回大分県芸術祭 大分県美術百年展作品集」

1968年10月発行

狭間久「大分県文化百年史」大分合同新聞 1969年2月15日発行

大分県立芸術会館「'80大分県美術総合選抜展」1980年1月発行

大分県立芸術会館「'81大分県美術総合選抜展」1981年1月発行

大分県立芸術会館「'82大分県美術総合選抜展」1982年1月発行

大分県立芸術会館「昭和54年度 大分県立芸術会館年報」1980年3月31日発行

大分県立芸術会館「昭和55年度 大分県立芸術会館年報」1981年3月31日発行

大分県立芸術会館「昭和56年度 大分県立芸術会館年報」1982年3月31日発行

大分県美術協会 20周年記念誌「美を拓く大分」1984年発行

広瀬通秀「自由と夢（回想記）」1984年6月発行

二紀会大分県支部「N I K I大分二紀展開催状況及び二紀展入選記録」1989年1月

大分県立芸術会館「大分の作家たち I 現代の美術－「描く」」1989年1月6日発行

大分県立芸術会館「平成2年度大分県立芸術会館年報」1991年3月31日発行

後藤龍二「大分の近代美術 明治・大正・昭和」1992年10月30日発行

大分合同新聞「大分県人名録」1993年5月15日発行

山崎芳直・菅久「大分銀行本店ロビー展美術時評集」1995年1月30日発行

菅久・十時良「大分銀行本店ロビー展美術時評集Ⅱ」2010年6月30日発行

大分県立芸術会館「大分の洋画 20世紀」2000年6月21日発行

大分市美術館「戦後大分の美術 I スバル＜一断面＞展」2003年2月発行

大分県美術協会 40 周年記念誌「大分県美術協会 40 年のあゆみ」2005 年 3 月 31 日発行

### [カタログ・パンフレット]

潮流展' 80 1980 年 潮流展' 81 1981 年

広瀬通秀「戦後大分県教育史覚書⑩県画壇の青春期グループ時代」

教育大分 1971 年 12 月号

広瀬通秀「スバル時代 論議に花が咲く」芸振 No.23 1974 年 6 月

「大分の作家たちⅡ 戦後美術の胎動」大分県立芸術会館

大分合同新聞 1990 年 1 月 5 日

### [雑誌]

「火の戦い」美術の窓 1992 年 2 月号／「払暁」美術の窓 1995 年 12 月号／「万朶」美術の窓 1998 年 12 月号／「花筏」美術の窓 2000 年 12 月号／「夕紅」美術の窓 2002 年 1 月号／「花霞」美術の窓 2002 年 12 月号／「紅嵐」美術の窓 2003 年 12 月号／「紅嵐」「花筏」美術の窓 2004 年 1 月号／「霹靂」美術の窓 2004 年 12 月号／「さくら風神之図」美術の窓 2005 年 12 月号／「もみじ雷神之図」美術の窓 2006 年 12 月号／「別府湾暮色」美術の窓 2007 年 12 月号／「別府湾暮色・扇山火まつり」美術の窓 2009 年 1 月号／「菅久展」美術の窓 2010 年 6 月号

### [新聞記事]

秀郎生「西美展を観る」大分合同新聞 1948 年 8 月

A「結ばれた世代の花 油絵の菅氏夫妻」大分合同新聞 1949 年

M「情熱のグループ スバル會」大分合同新聞 1950 年 1 月 19 日

那賀清彦「ネギ絵画展に寄せる」大分合同新聞 1950 年 1 月

A「情熱のグループ ネギグループ」大分合同新聞 1950 年

早川正「菅久の「静物」」大分合同新聞 1950 年 5 月

「スバル展開く 縣画壇の清新な息吹き」大分合同新聞 1950 年 6 月 1 日

油野誠一「新しい芸術運動ー「スバル展」をみるー」大分合同新聞 1950 年 6 月 7 日

廣瀬通秀 文化と生活「新人群の闘志 第二回ネギ展の収穫」

大分合同新聞 1950 年 8 月 12 日

M「絵画 写真は『ねぎ会』のグループ」大分合同新聞 1950 年

「縣美展入選者きまる 三部門に三百十五点」大分合同新聞 1950 年 10 月

権藤種男「日本画にも近代性 内容の充実した第九回縣美展」

大分合同新聞 1950 年 10 月 28 日

廣瀬通秀「第三回ネギ展感」大分合同新聞 1951 年 3 月 23 日

佐藤義詮「縣美協展を讃える」大分合同新聞 1951年4月26日

G「同人十氏の野心作 スバル展 16日から蓋あけ」

大分合同新聞 1951年5月18日

岩田正「スバル展をみる」大分合同新聞 1951年5月20日

「あふれる新鮮味 96点が入選 県美展十日から」大分合同新聞 1951年11月7日

「おしどり画家も登場 超満員 きょう蓋あけの縣美協展」

大分合同新聞（夕刊）1951年11月11日

「第10回県美協展から 小鳥小屋 菅久」大分合同新聞 1951年11月

荒木剛稔「文化 縣展嚴評」大分合同新聞 1951年11月19日

小松記者「県版・51年ダイジェスト 文化編 美術界」大分合同新聞 1951年12月

「1951年の足跡 収穫は絵画の飛躍」大分合同新聞 1951年12月

「希望の群像 23 互にモデルにもなり合って」朝日新聞 1952年2月1日

S「俳句の封建性脱却へ 大分に新鋭俳誌“石”登場」

大分合同新聞 1952年3月3日

「力作 30余点が揃う スバル展・24日まで」毎日新聞 1952年8月

荒木剛稔「第五回スバル展にぎわう」大分合同新聞 1952年8月

「街の声 大分市王子中学教員 菅久氏」毎日新聞 1952年9月11日

「二紀会入選者」毎日新聞 1952年10月6日

「菅久氏、二紀展に入選」毎日新聞 1952年10月9日

「東京の各美術展巡り 菅久氏に印象を聞く」毎日新聞 1952年10月19日

廣瀬通秀「縣美展洋画をみる 珠玉の名作 岩尾氏の「静物」」

大分合同新聞 1952年11月7日

「独善を破る生氣・縣美展 激しいロマン花の主張」毎日新聞 1952年11月9日

「縣洋画壇の激流を語る」

出席者 浜田九一郎／田中昇／岩尾秀樹／松岡定／菅久／渡辺賢二／合同 是永取

材部長 大分合同新聞 1952年11月12日（座談会、11月9日キムラヤ茶房）

「美術団体⑤ 第二紀会」大分合同新聞 1952年

「スバル絵画研究所新設」大分合同新聞 1953年4月30日

「明日への課題② 美術界 話題まいた落選者展 無気力な県美術協会」

毎日新聞 1953年

「第十三回県美展をみて スバル例会で批評会」合同批評会

出席者 廣瀬通秀／江藤明／荒金透／松岡定／菅久／神田千里／中條正一／小野一郎／岩男順／木村昌斗志／幸米二／荒木剛／木村純一郎

大分合同新聞 1953年11月6日

「糸園和三郎を囲む座談會」

出席者 糸園和三郎／荒木剛／広瀬通秀／荒金透／江藤明／岩尾秀樹／中条正一／幸米二／菅久／木村成敏／矢野平次郎 大分合同新聞 1954年1月19日

「画風は違うが心は一つ 結婚もパレットの縁で」毎日新聞 1954年

「初日からにぎわう 学生油絵コンクール展 上野ヶ丘中学教諭菅久氏談」  
毎日新聞 1954年

S 「学芸「第7回スバル展」」大分合同新聞 1954年5月28日

佐藤義詮「スバル展を見る 見応えのある諸作」大分合同新聞 1954年5月28日

「“スバル”を語る」作品合評

出席者 荒木剛／岩尾秀樹／岩男順／木村昌斗志／広瀬通秀／幸米二  
毎日新聞 1954年5月30日

「福田素描展を観る（上）郷土の若手画家座談會」

出席者 岩尾秀樹／小野一郎／木村成敏／広瀬通秀／菅久／合同 楠本記者  
大分合同新聞 1954年10月14日

「福田素描展を観る（下）郷土の若手画家座談會」

出席者 岩尾秀樹／小野一郎／木村成敏／広瀬通秀／菅久／合同 楠本記者  
大分合同新聞 1954年10月15日

「権藤画伯をしのぶ 流派を超えたよさ 天真らんまんな温かい人」  
大分合同新聞 1954年12月25日

「春の縣美展を語る スバル・新世紀群合同批評會 上」

出席者 スバル：岩尾秀樹／岩男順／江藤明／菅久／広瀬通秀／松岡定 新世紀群：  
木村成敏／熊谷博／吉村益信 大分新聞 1955年5月20日

「春の縣美展を語る スバル・新世紀群合同批評會 下」

出席者 スバル：岩尾秀樹／岩男順／江藤明／菅久／広瀬通秀／松岡定 新世紀群：  
木村成敏／熊谷博／吉村益信 大分新聞 1955年5月22日

「スバル展合評会（上・中・下）」

出席者 浜田九一郎／田中昇／木村重敏／熊谷博 大分合同新聞 1955年6月10日

A 「学芸 スバル展を見る 中堅諸氏に見応え」大分合同新聞 1955年6月12日

「油絵二人展トキハで」大分新聞 1955年9月15日

「菅久、玲子夫妻展開く」毎日新聞 1955年9月15日

広瀬通秀「学芸 菅久、菅玲子の油絵二人展」大分合同新聞 1955年9月18日

田邊亘「美術評 久・玲子二人展 観たまま」毎日新聞 1955年10月4日

「だんらん①絵に結ばれた先生夫妻」大分合同新聞 1955年11月6日

「文部大臣賞に末光氏 県美展各賞入選者決る」大分合同新聞 1955年11月16日

「県美展から 大分合同新聞社賞「もつれあう」菅久」  
大分合同新聞 1955年11月25日

三好銀「縣美展評」大分合同新聞 1955年11月26日

「春季県展を語る 目立つ指導面の不足」

出席者 仲町謙吉／広瀬通秀／田川奨／岩男順／合同 山本文化部長／安東記者

大分合同新聞 1956年5月10日

「二豊文化 春のアンデパンダン展 専門家・愛好家の意見を聞く」

毎日新聞 1956年5月13日

「二豊文化「キュービズム」の再検討 大分美術懇談会例会から」

毎日新聞 1956年7月8日

A「学芸 溢れる内面的力強さ「第九回スバル展」を見て」

大分合同新聞 1956年8月4日

A「学芸 第9回スバル展を見て」大分合同新聞 1956年8月5日

宮野蔵人「第九回スバル展に直言」大分合同新聞 1956年8月5日

「文化 県美術界展望と批判 県内問題も真剣に」西日本新聞 1956年

白水記者「大作がそろそろ『スバル』十周年記念展」大分合同新聞 1957年8月22日

広瀬通秀「スバル展をみて」大分合同新聞 1957年8月22日

「私たちの結婚④菅久 玲子さん」新聞社（不明）1957年10月9日

「県美展を語る・・・」

出席者 岩男順／菅久／小野一郎／広瀬通秀／古川栄／木村茂敏／家近健二／合同

田中報道部次長／小島記者

大分合同新聞 1957年11月15日

「第20回県美展をみる」大分合同新聞 1957年11月16日

「県画壇の歩み（下）答案用紙で案内状」大分合同新聞 1958年5月21日

「県美展きょう作品搬入 菅夫妻「おしどり出品」十年間」

大分合同新聞 1958年5月25日

木村「週間文化だより」新豊州新聞 1958年5月26日

「一点出品の会員展 県美展きのうから開く」毎日新聞 1958年5月28日

古「家庭と娯楽 第21回県美展を見て 全般的には高い水準」

大分合同新聞 1958年5月29日

「新委員決まる 県美術協会総会」毎日新聞 1958年6月3日

「新委員長に宮崎氏 県美協会委員会開く」毎日新聞 1958年6月8日

田中昇「安定感と物足りなさ スバル展を見て」大分合同新聞 1958年8月27日

「本紙連載「谷間の旗」合評会 土屋北彦・菅久両氏を招いて」

新豊州新聞 1958年10月27日

油野誠一「文化 東京美術だより 県出身画家も健在」

大分合同新聞 1958年11月11日

「私の婚約時代④菅久氏 玲子さん」大分合同新聞 1958年12月1日

「独立美術展を語る」座談会 出席者 海老原喜之助／岩田正／浜田九一郎／菅久／  
広瀬通秀／合同文化部長 大分合同新聞 1959年4月21日

「学芸 県美展の展望（下）菅おしどり画伯も出品」

大分合同新聞 1959年5月24日

「県美展をかえりみて」座談会

出席者 宮崎豊／菅久／小野一郎／脇正人／宮崎記者

大分合同新聞 1959年6月1日

「百号の大作など30点 きょうからスバル展」大分合同新聞 1959年8月25日

浜田九一郎「学芸 スバル展をみて 充実した作品ぞろい」

大分合同新聞 1959年8月26日

K「学芸 県美展をみて 予想通りの力作」大分合同新聞 1959年11月

東京支社「学芸 中央展・県関係者の活躍ぶり」大分合同新聞 1959年11月6日

長谷目源太「廃墟をどう描くか 画家の甘さをつく」大分合同新聞 1959年12月2日

「郷土文化のすがた 美術 目立つ中央偏向」大分合同新聞 1960年1月15日

「県美展の展望（上）深味をます武藤氏 宮崎氏「大分港」を出品」

大分合同新聞 1960年4月29日

「文化 県美展をみて」座談会

出席者 宮崎豊／菅久／小野一郎／安藤真／合同田中文化部長

大分合同新聞 1960年5月7日

「大分前衛美術会生まれる」大分合同新聞 1960年6月19日

「新しい美術運動起こす 大分前衛美術会の誕生」大分合同新聞 1960年6月20日

「第三期に踏み出した県画壇 新グループ続々誕生」大分合同新聞 1960年8月8日

「菅久・玲子油絵二人展開く」大分合同新聞 1960年8月30日

「美術の秋・制作熱気高まる 張り切る若人たち」大分合同新聞 1960年9月1日

木村成敏「夫婦の対立と断層－菅久・玲子二人展をみて－」

大分合同新聞 1960年9月3日

「二豊文化 私の個展 菅久・玲子油絵二人展」大分合同新聞 1960年9月

F「東京の展覧会から 二紀展」大分合同新聞 1960年10月22日

「ママの採点①菅玲子さん いまは“まあ九十点”酔っても忘れぬ芸術論」

西日本新聞 1961年2月5日

宮崎豊「文化 春の県美展を見て」大分合同新聞 1961年4月15日

「宮崎氏を再選 県美協委員長」大分合同新聞 1961年4月17日

「県画壇の新グループ 大分二紀会と県版画協会」大分合同新聞 1961年8月24日

「ひろば 美術の秋 おしどり画家をたずねて」毎日新聞 1961年11月5日

羽田野哲子「文化「白い画面の花」菅久」大分合同新聞 1962年4月20日

- 「文化 春の県美展をみて 洋画・写実作品に秀作」大分合同新聞 1962年4月  
「文化 反省期にきたアンデパンダン展 審査展より低調」  
大分合同新聞 1962年4月23日
- 「文化短信号 広瀬通秀・菅久二人展」大分合同新聞 1962年4月25日  
「「白く沈む形」菅久」大分合同新聞 1962年11月1日  
東京支社「文化 独立、自由、二紀展を見て 充実した広瀬、群を抜く糸園」  
大分合同新聞 1962年11月2日
- 「ジュニア県美展 審査始まる」大分合同新聞 1962年11月6日  
「文化 ジュニア県美展審査合評」大分合同新聞 1962年12月19日  
「文化 文化活動に望む 県下・関係者の共同討議」  
大分合同新聞 1963年10月21日
- 「文化 東京 美術だより 待たれる地方画家 新鮮な独立展の広瀬」  
大分合同新聞 1963年10月25日
- 「菅久夫妻の小品展」大分合同新聞 1963年12月17日  
「ことしの県下文化活動をふり返って 一つの飛躍への胎動」  
大分合同新聞 1963年12月23日
- 「県高文連中央美術展を審査して 仲町・菅・野田三氏に聞く」  
大分合同新聞 1964年1月30日
- 「りっぱな作品が多い 県児童生徒版画展の作品審査」  
大分合同新聞 1964年2月9日
- 「県児童生徒版画展を審査して 色刷りの作品が少ない」  
大分合同新聞 1964年3月24日
- 「春季県美展」座談会  
出席者 宮崎豊／仲町謙吉／菅久／神田千里／田川奨／合同 宮瀬香多士  
大分合同新聞 1964年5月8日
- 「溝辺氏が委員長に 県美術協会 事務局長は仲町氏 役員改選」  
毎日新聞 1964年5月12日
- 「新委員長に溝辺氏 県美協三年ぶり役員改選」大分合同新聞 1964年5月11日  
浜田九一郎「「みずえ6人展」を見て」大分合同新聞 1964年7月3日
- 「平和美術展開く」大分合同新聞 1964年7月7日  
「文化 秋の“東京美展”だより＝独立・自由美術・二紀会＝」  
大分合同新聞 1964年11月4日
- 「グループえのくま展始まる」大分合同新聞 1965年3月24日  
首藤万寿生「春季県美展をみて アンケート ㊦ 本来の目的を離れている」  
大分合同新聞 1965年5月8日

「県美協大分支部展」大分合同新聞 1965年6月22日  
「菅久・玲子二人展」大分合同新聞 1965年8月25日  
浜田九一郎「菅久・玲子二人展をみて」大分合同新聞 1965年8月28日  
「名称は“県美術協会”文化三団体統合準備委が発足」  
大分合同新聞 1965年9月1日  
「県美協20年展を語る（上）」  
出席者 溝辺有巢／宮川泰孝／江藤明／後藤白草／大崎聡明／菅久／田川奨／熊井  
淳／合同 宮瀬香多士 大分合同新聞 1965年10月21日  
「県美協20年展を語る（下）」  
出席者 溝辺有巢／宮川泰孝／江藤明／後藤白草／大崎聡明／菅久／田川奨／熊井  
淳／合同 宮瀬香多士 大分合同新聞 1965年10月22日  
「文化短信 二紀展入選者」大分合同新聞 1965年10月24日  
「あすの由布院 町づくりはこうやって」  
出席者 生野祥雲斎／岩田正／後藤勲／川並晋治／大崎聡明／菅久／波多野義孝／  
三重野元／長谷目源太／園田英雄／岩男穎一／合同 石丸一雄  
大分合同新聞 1966年1月13日  
「地元作家の力作ずらり 二紀会 初の福岡展」毎日新聞 1966年1月30日  
「大分県“ふるさと”宇佐神宮 「秘宝展」の見どころ」  
出席者 中野幡能／岩田正／橋本操六／菅久／合同 宮瀬香多士  
大分合同新聞 1966年4月8日  
「春の県美展ふたあけ」大分合同新聞 1966年5月10日  
「文化 県美展をみて 洋画 江藤純平」大分合同新聞 1966年5月13日  
「みずえ6人展」大分合同新聞 1966年6月21日  
進来哲「みずえ6人展をみて」大分合同新聞 1966年6月  
「文化 十周年迎えた県労美展 ほしかった初心者の絵画」  
大分合同新聞 1966年10月29日  
「県美展 きょう開く」大分合同新聞 1966年11月8日  
「文化「県美展」を審査して 宮崎精一氏」大分合同新聞 1966年11月10日  
「春の県美展をみて」  
出席者 宮崎豊／脇正人／小野一郎／脇坂秀樹／合同 宮瀬香多士  
大分合同新聞 1967年5月12日  
「県美協会長に宮崎氏 事務局長は仲町氏 新会則も決まる」  
大分合同新聞 1967年5月15日  
「専門家が同乗、解説も ユトリロ展に鑑賞バス」毎日新聞 1967年5月19日  
田川奨「文化 清潔な“くだもの”の美しさー「みずえ十人展」を見てー」

大分合同新聞 1967年7月2日

Q「笛 絵を買うチャンス」大分合同新聞 1967年7月10日

「“美術館建設に一役” 県美協大分支部展開く」大分合同新聞 1967年7月11日

岩田正「美術館建設の意欲 県美協大分支部展を見て」

大分合同新聞 1967年7月14日

「商工だより 喫茶店開展」大分合同新聞 1967年7月27日

「文化短信 四人展」大分合同新聞 1967年7月31日

「大分県美術百年 グループ時代」大分合同新聞 1967年9月11日

「日赤の看護婦さんの作品展」毎日新聞 1967年10月7日

「文化 東京画信 独立、自由美術、二紀展 活躍する県関係者」

大分合同新聞 1967年11月3日

「文化 ことしの「県労美展」絵画、底辺に広がり」大分合同新聞 1968年3月7日

「バラエティーにとんだ春の県美展」

出席者 宮崎豊／菅久／田川奨／十時良／合同 宮瀬香多士

大分合同新聞 1968年5月23日

「絵画グループ『0』の第八回展 作品に若さと変化」西日本新聞 1968年7月26日

「“明るい色彩の絵を” 大分二紀会展、25日、7年ぶり開幕」

毎日新聞 1968年8月23日

「あすの催し 第一回「大分二紀展」も」大分合同新聞 1968年8月24日

大塚俊英「文化 さわやかなムード—大分二紀グループ展をみて—」

大分合同新聞 1968年8月29日

「文化 画期的な「大分県美術百年展」」大分合同新聞 1968年9月15日

「若返った秋の県美展 活躍目立つ二十代」座談会

出席者 宮崎豊／菅久／大崎聡明／山口九碩／合同 宮瀬香多士

大分合同新聞 1968年11月14日

「若返った秋の県美展 活躍目立つ二十代」大分合同新聞 1968年11月14日

「3つの美術展 県美協日・洋・彫・工部大分支部展」

大分合同新聞 1969年1月16日

江藤明「文化 創象展と県美協大分支部展 二つの美術展を見て」

大分合同新聞 1969年1月19日

「現地に見る文化活動(9) 杵築市」大分合同新聞 1969年3月31日

「現地に見る文化活動(10) 日出町」大分合同新聞 1969年4月7日

「春の県美展が開幕 意欲作・大作がそろそろ」大分合同新聞 1969年5月1日

「文化 春の県美展から 上」大分合同新聞 1969年5月2日

「文化 春の県美展から 中」大分合同新聞 1969年5月3日

「生活に密着した作品ばかり 県自治体職員総合文化祭」

大分合同新聞 1969年5月20日

「大分版 二豊路メモ レジャー」大分合同新聞 1969年7月2日

「第2回自治体職員総合文化祭入賞作品（絵画）」自治労大分 1969年6月5日

「県立美術博物館の建設“署名”に集まる県民の熱意」座談会

出席者 進来哲／菅久／山口九碩／大崎聡明／田川奨／神田千里／合同 宮瀬香多士

大分合同新聞 1969年6月13日

「大分銀行絵画展」大分合同新聞 1969年7月1日

十時良「文化 もっと“感じたもの”を大切に 大分銀行行員絵画展を見て」

大分合同新聞 1969年7月5日

「二紀グループ展はじまる」大分合同新聞 1969年8月26日

「大作、力作ぞろい 大分二紀グループ展」西日本新聞 1969年8月28日

「あすの催し 大分で二つの美術展 大分二紀グループ展」

大分合同新聞 1969年8月30日

波多野義孝「文化 今後も“売らぬ絵”を 大分二紀グループ展」

大分合同新聞 1969年8月30日

「続・大分人脈<2>大分市編 若手に十時、小川ら」西日本新聞 1969年10月8日

「続・大分人脈<22>速見郡編 荒金、松野、菅ら」西日本新聞 1969年11月1日

「県美協大分支部展評 新しい顔ぶれも 収穫だった抽象作品」

大分合同新聞 1970年1月26日

「読者の声 すばらしいろう児の作品「R展」の成果に拍手を送る」

大分合同新聞 1970年1月29日

D「美術展評 ろう者と心の対話 意義深い「R」の会」

大分合同新聞 1970年1月30日

「土曜日の催し R（エール）の会美術展」大分合同新聞 1970年1月30日

「“心の目”で描いた力作 県立豊学校 Rの会が初の展覧会」大分合同新聞 1970年1月31日

「清新な意欲作目立つ 県労美展を審査して」大分合同新聞 1970年3月9日

「県美術界の動向を探る」座談会

出席者 仲町謙吉／菅久／十時良／山崎芳直／江藤明／安藤真／合同 宮瀬香多士

大分合同新聞 1970年5月9日

「春の県美展・奨励賞作品 評 洋画」大分合同新聞 1970年5月22日

B「美術展望 意欲満々の発表形式 第10回大分市版画展」

大分合同新聞 1970年6月18日

「地方文化の遅れ取り戻せ 九州振興会議からの報告」

大分合同新聞 1970年7月17日

「大分二紀グループ展が始まる」大分合同新聞 1970年8月25日

X「美術の秋をリードー大分二紀グループ展ー」大分合同新聞 1970年8月28日

Q「笛「芸振」の創刊」大分合同新聞 1970年9月7日

「120点が並ぶ平和作品展」大分合同新聞 1970年12月10日

「菅2人展とグループ29展」大分合同新聞 1970年12月22日

X「四度目を迎えた五年に一度の展覧会 菅久・玲子絵画二人展」

大分合同新聞（夕刊）1970年12月23日

「四たび“おしどり展”開く 大分の菅さん夫妻」読売新聞 1970年12月24日

「県文化界 この一年 美術」大分合同新聞（夕刊）1970年12月26日

「ほしい“発表の場”世論を盛り上げよう」大分合同新聞 1971年1月1日

「県美協「日・洋・彫・工」大分支部展」大分合同新聞 1971年1月19日

「日曜文化 絵に託す“心の表現”県立ろう学校「Rの会」」

大分合同新聞 1971年1月24日

「Rの会美術展と大分銀行行員絵画展始まる」大分合同新聞 1971年1月26日

「大分市 大作ズラリ ろう学校美術展」朝日新聞 1971年1月26日

「10号線」読売新聞 1971年1月26日

「愉快的仲間⑧ろう学校の油絵グループRの会（大分市）」

朝日新聞 1971年1月28日

Y「美術展評 Rの会美術展 大銀絵画展」大分合同新聞 1971年1月28日

「日曜文化 9日から“労美展”開幕」毎日新聞 1971年3月7日

「美術展評 勤労者創作美術展」大分合同新聞（夕刊）1971年3月11日

「菅久・菅玲子の小品展」大分合同新聞 1971年3月24日

「春の県美展 総評と奨励賞作品紙上展」大分合同新聞（夕刊）1971年6月10日

「宮崎会長を再選 県美協の総会ひらく」大分合同新聞 1971年6月14日

「大分二紀展」大分合同新聞 1971年8月

Z「美術展評 大分二紀展」大分合同新聞 1971年9月2日

O「東京・秋の公募展から 続々と進出する県勢」

大分合同新聞（夕刊）1971年11月4日

「“視覚”のするどさを表現 Rの会が美術展」西日本新聞 1972年2月9日

「Rの会美術展」大分合同新聞 1972年2月9日

「のびのびした作品 県立ろう学校のRの会美術展」大分合同新聞 1972年2月13日

「独創性に富む絵画 県勤労者美展 審査評」大分合同新聞 1972年3月25日

「ふえた具象画 県美展始まる」西日本新聞 1972年5月17日

「春の県美展「日洋彫工展」から」大分合同新聞（夕刊）1972年5月18日

- 「文化祭はじまる 県自治体職員」大分合同新聞 1972年6月28日
- Q「笛 九沖芸術祭と洋画展」大分合同新聞（夕刊）1972年9月18日
- 「大分市在住画家色紙展」大分合同新聞 1973年1月11日
- 「Rの会」美術展」大分合同新聞 1973年1月31日
- 「精いっぱい力作ぞろい 感動呼ぶ県立ろう学校の美術展」  
西日本新聞 1973年1月31日
- 「シャレたセンスね 二紀・福岡展がスタート」西日本新聞 1973年1月31日
- 「耳の不自由を乗り越えて Rの会美術展 素直な気持ちぶっつける」  
大分合同新聞 1973年2月3日
- 「力作の絵、一堂に 障害乗越え美術展」毎日新聞 1973年2月4日
- 「意欲作が多い絵画 県労美展 審査評」大分合同新聞 1973年3月15日
- 「菅久、玲子小品展」大分合同新聞 1973年3月30日
- 「春の県美展開幕 力作195点」大分合同新聞 1973年5月8日
- 「美術展評 春の県美展 意欲作が多い洋画一般」大分合同新聞 1973年5月11日
- 「宮崎一仲町ライン4選＝県美協総会＝」大分合同新聞 1973年5月14日
- 「加藤さんらに奨励賞 自治体職員総合文化祭始まる」  
大分合同新聞 1973年6月27日
- T「美術展評 意欲と熱気が充満 大分二紀グループ展」  
大分合同新聞（夕刊）1973年8月31日
- 東京支社「東京画信 独立展 二紀展 自由美術展」  
大分合同新聞（夕刊）1973年11月7日
- Q「'73大分現代美術の動向展 きびしい作家意識」  
大分合同新聞（夕刊）1973年11月23日
- Q「笛 “動向展”の合評会から」大分合同新聞（夕刊）1973年12月3日
- 「県芸術祭10周年を迎えて」座談会  
出席者 鶴見英之／菅久／中沢とおる／小長久子／平瀬克美／矢野朔雄／合同 宮  
瀬香多士  
大分合同新聞 1974年1月1日
- 「おおいた人国記《39》大分市・教育文化編⑥」西日本新聞 1974年3月20日
- 「この人 菅久さん 言葉のない子らのために 毎年1回絵の展覧会」  
週刊女性大分 1974年4月21日
- 「春の県美展」評 大きく伸び伸びと思いついた実験を」  
大分合同新聞（夕刊）1974年5月16日
- H「美術展評 自由に個性を表現 大分二紀グループ展」  
大分合同新聞（夕刊）1974年8月29日
- 「私の仕事場 洋画家 菅久さん『手』で考える」西日本新聞 1974年11月21日

東京支社「東京画信 独立、二紀、自由美術 活躍する県関係者」  
大分合同新聞（夕刊）1974年11月25日

「県美協の素描展」西日本新聞 1975年1月29日

「県美協大分支部の創立10周年記念展」大分合同新聞 1975年2月8日

「“Rの会”美術展」大分合同新聞 1975年2月26日

「はばたけ！！呉藤君 県立ろう学校を卒業「勤めても絵は勉強」」  
大分合同新聞 1975年3月2日

Q「笛 どうなる県美協」大分合同新聞 1975年6月23日

「ポケット情報 大分二紀グループ展」西日本新聞 1975年9月2日

広瀬通秀「美術展評 敏感な現実への反影 大分二紀グループ展をみて」  
大分合同新聞（夕刊）1975年9月6日

東京支社「東京画信 活躍する県関係者 独立、自由美術、二紀」  
大分合同新聞（夕刊）1975年11月17日

「ろう学校生の力作ずらり 大分市でRの会美術展」大分合同新聞 1976年2月25日

「“Rの会”美術展始まる どの作品も生き生き 映画化への準備進む」  
西日本新聞 1976年2月25日

「グループ紹介 楽しみなロビー展 大分銀行の絵画部」読売新聞 1976年5月

N「美術展評 密度が濃い 大分二紀グループ展」  
大分合同新聞（夕刊）1976年9月3日

東京支社「東京画信 意欲見せる県関係作家」  
大分合同新聞（夕刊）1976年11月8日

「私の青春 菅久 夢の青島生活破った銃声」大分合同新聞 1977年2月6日

「県労美展 審査評 質、量ともに上向く」大分合同新聞（夕刊）1977年2月5日

「美術 活気づく彫刻部門 二紀展九州展 新人に意欲作」  
朝日新聞（夕刊）1977年2月5日

「絵を通じ広い視野を」ろう学校のRの会美術展」大分合同新聞 1977年2月25日

江藤明「美術展評 “地道で重厚”な制作 大分二紀グループ展を見て」  
大分合同新聞 1977年8月29日

東京支社「東京画信 意欲的な県関係者 独立・二紀・自由」  
大分合同新聞 1977年10月29日

「O・G賞に岡崎、露木氏 県美展・日洋彫工展きょう開幕」  
大分合同新聞 1977年11月25日

「県美展いよいよ“本番”日本画、洋画、彫刻、工芸展始まる」  
西日本新聞 1977年11月26日

「県美展「日洋彫工」展評 審査員 宇治山哲平」

大分合同新聞（夕刊）1977年11月26日

「自由な思考を育てる 九回目ろう学校の美術展」大分合同新聞 1978年2月25日

「あの人この人 菅久さん」西日本新聞 1978年3月3日

「ずらりツブぞろいの力作 春季県美展評」大分合同新聞 1978年5月

「心臓障害者を支援する展覧会」大分合同新聞 1978年6月14日

「大作40点を出品 大分二紀グループ展」大分合同新聞 1978年8月28日

首藤三郎「壮観で、個性豊かで 大分二紀グループ展 ‘98大分自由美術展」

大分合同新聞 1978年9月2日

「くらしのページ 作者の主張をつかむ 糸園和三郎展」大分合同新聞 1978年10月

東京支社「東京画信 独立展 自由美術展 二紀展」大分合同新聞 1978年11月1日

「県立ろう学校の油絵展 Rの会 10歳に」大分合同新聞 1979年2月22日

「県立芸術会館の成人大学公開講座（美術）」大分合同新聞 1979年7月23日

「大分二紀グループ展」大分合同新聞 1979年8月29日

十時良「大分二紀グループ展をみて」大分合同新聞 1979年9月1日

東京支社「東京画信 独立展 自由美術展 二紀展」大分合同新聞 1979年11月7日

「文化短信 第一回潮流展」大分合同新聞 1980年1月16日

「力強い作品群 Rの会美術展」大分合同新聞 1980年2月18日

「大分二紀グループ展と自由美術展も」大分合同新聞 1980年8月20日

東京支社「東京画信 独立、自由美術、二紀展を見る」

大分合同新聞（夕刊）1980年11月4日

「教職員の移動 県立学校 退職」大分合同新聞 1981年3月28日

「県美協夏期講習会」大分合同新聞 1981年7月9日

「日曜文化 美術展評 県美協夏期講習会」大分合同新聞 1981年7月19日

「絵画人口の底辺拡大を 緑丘高で県美協の夏期講習」

大分合同新聞 1981年7月31日

「’81大分自由美術展、大分二紀グループ展」大分合同新聞 1981年8月19日

江藤明「大分自由美術展、大分二紀グループ展を見て」

大分合同新聞 1981年8月20日

「募集 スケッチバス会員」大分合同新聞 1981年9月21日

東京支社「東京画信 独立美術 二紀展 自由美術」

大分合同新聞 1981年11月10日

東京支社「東京画信 現代作家精鋭展に菅久氏が6点出品」

大分合同新聞 1981年12月24日

「多彩な労美展 審査評 質の高い大作も」大分合同新聞 1982年2月18日

「大分で初の二紀展 来月4日から16日まで」

大分合同新聞（夕刊）1982年4月14日  
「湯布院の春描く スケッチバスの会」大分合同新聞 1982年4月19日  
S「第35回記念展二紀展 来月4日から県立芸術会館で」  
大分合同新聞 1982年4月22日  
「二紀展に寄せて／座談会」  
出席者 菅久／広田肇一／日名子金一郎／合同狭間文化部長  
大分合同新聞（夕刊）1982年4月29日  
「重厚に 華麗に 鮮烈に「二紀展」始まる」大分合同新聞（夕刊）1982年5月4日  
「新鋭画家の作品 121点ズラリ 二紀展が幕開き」毎日新聞 1982年5月5日  
仲町謙吉「二紀展を見て シャープで見ごたえある作品群」  
大分合同新聞 1982年5月11日  
首藤三郎「二紀展を見て 確かな進境 菅久、安東真氏」  
大分合同新聞 1982年5月13日  
「「二紀展」あす限り 20人小品展へもどうぞ」大分合同新聞 1982年5月15日  
「楽しさいっぱい・・・スケッチ巡り」大分合同新聞 1982年6月7日  
「'82大分二紀グループ展」大分合同新聞 1982年7月14日  
後藤龍二「大分二紀グループ展、りぶの会展をみて」大分合同新聞 1982年8月12日  
「田能村竹田展を見て すばらしい、圧倒された 菅久さん」  
大分合同新聞 1982年10月6日  
東京支社「東京画信 県関係者の活躍を追って」  
大分合同新聞（夕刊）1982年11月9日  
「潮流展に寄せて／座談会」  
出席者 岩尾秀樹／江藤明／神田千里／脇正人／山崎哲一郎／日名子金一郎／合同  
狭間久文化部長  
大分合同新聞 1982年12月5日  
「バラエティーに富む労美展」大分合同新聞 1983年2月13日  
東京支社「東京画信 菅、長野両氏が意欲作を発表」大分合同新聞 1983年2月17日  
「平松学園絵画サークル「スケッチバス」作品展」大分合同新聞 1983年2月18日  
「ひと 頼りにされる“世話役”菅久さん」大分合同新聞 1983年2月23日  
「募集 スケッチバス会員」大分合同新聞 1983年4月4日  
「大分二紀チャリティー小品展」朝日新聞 1983年6月29日  
「大分二紀展始まる」大分合同新聞 1983年8月24日  
松井叔生「'83大分二紀展」をみて」大分合同新聞 1983年8月25日  
東京支社「東京画信 二紀展」大分合同新聞 1983年11月6日  
「県労美展を審査して」大分合同新聞 1984年2月12日  
「平松学園文化サークル・スケッチバス会員作品展」大分合同新聞 1984年2月25日

「'84 大分二紀展」大分合同新聞 1984 年 8 月 22 日  
友添泰典「'84 大分二紀展」評」大分合同新聞 1984 年 8 月 23 日  
「県美展「日洋彫工展」を審査して 朝日晷」  
大分合同新聞（夕刊）1984 年 10 月 18 日  
東京支社「美術シーズン飾った県関係者 二紀展」大分合同新聞 1984 年 11 月 4 日  
「労美展の審査評」大分合同新聞 1985 年 2 月 17 日  
「県美協日・洋・彫・工部大分支部展」大分合同新聞 1985 年 2 月 21 日  
「おかあさんの力作 大分市住吉小 P T A 美術部展」大分合同新聞 1985 年 3 月 26 日  
「文化短信 宮崎県民芸術祭「四県合同美術協会展」の出品作」  
大分合同新聞（夕刊）1985 年 7 月 30 日  
首藤三郎「'85 大分二紀展」をみて」大分合同新聞 1985 年 8 月 22 日  
東京支社「東京画信 秋の公募展③ 二紀展」大分合同新聞 1985 年 11 月 17 日  
「'86 大分二紀展が始まる」大分合同新聞 1986 年 8 月 20 日  
山本貞「'86 大分二紀展を見て ハメをはずした作品も欲しい」  
大分合同新聞 1986 年 8 月 21 日  
東京支社「東京画信 秋の公募展③ 二紀展」大分合同新聞 1986 年 11 月 9 日  
「労美展審査評」大分合同新聞 1986 年 2 月 16 日  
「粒ぞろいの労作 労美展審査評」大分合同新聞 1987 年 2 月 15 日  
「実力作家がそろそろ あすから二紀展」西日本新聞 1987 年 2 月 16 日  
東京支社「東京画信 菅、岩男氏が新作 二紀会員展」  
大分合同新聞 1987 年 5 月 7 日  
「来月 3 日から芸館で 40 周年記念二紀展」大分合同新聞 1987 年 6 月 4 日  
仲町謙吉「第 40 回二紀展を見て 中央展の迫力と充実感」  
大分合同新聞 1987 年 7 月 9 日  
波多野義孝「40 周年記念・二紀展を見て 魅せられた具象の世界」  
大分合同新聞 1987 年 7 月 12 日  
友添泰典「'87 大分二紀展をみて」大分合同新聞（夕刊）1987 年 8 月 20 日  
東京支社「東京画信 4 会場で県関係者活躍 秋の公募展」  
大分合同新聞 1987 年 11 月 5 日  
「菅久展」大分合同新聞 1987 年 12 月 2 日  
仲町謙吉「“充実感”あふれて 菅久氏が久々の個展」  
大分合同新聞 1987 年 12 月 17 日  
「誠実に・粒ぞろい・力量感 県労美展部門別審査評」  
大分合同新聞 1988 年 2 月 14 日  
「菅久さんが出品 第 9 回二紀会員展」大分合同新聞 1988 年 5 月 19 日

秋山泉「大分二紀展を見て 中身濃く ハイレベル」大分合同新聞 1988年8月18日  
東京支社「秋の公募展第3弾 二紀展 独立展 自由美術展 創画展」  
大分合同新聞 1988年11月3日  
「やさしく現代美術 展覧会やフォーラム 6日から芸術会館で」  
大分合同新聞 1988年12月27日  
「大分の作家13人競作 現代の美術・描く展開幕」  
大分合同新聞（夕刊）1989年1月6日  
「13人の抽象画など60点「大分の作家たちⅠ 現代の美術ー描く」展」  
朝日新聞 1989年1月7日  
「現代の美術ー描く」展 出品作家を含むフォーラムから」  
大分合同新聞（夕刊）1989年1月19日  
神田千里「大作のエネルギー「現代の美術ー描く」を見て」  
大分合同新聞 1989年1月22日  
「第32回労美展の審査評」大分合同新聞 1989年2月12日  
「'89大分二紀展」大分合同新聞 1989年8月24日  
江藤明「多様な個性・・・活気十分 大分二紀展を見て」  
大分合同新聞 1989年8月27日  
東京支社「気をはく県関係者 秋の公募展第3弾 二紀展」  
大分合同新聞 1989年11月5日  
加藤康彦「戦後美術の胎動」展を企画して」大分合同新聞 1989年12月14日  
「戦後美術の胎動」展 新春5日から県立芸術会館で」朝日新聞 1989年12月27日  
「戦後美術の胎動」展開幕 新春を飾る力作71点」  
大分合同新聞（夕刊）1990年1月5日  
江藤明「戦後美術の胎動」展に寄せて「人間と創造の場」提供」  
大分合同新聞（夕刊）1990年1月11日  
木村成敏「戦後美術の胎動」展に寄せて 肌のぬくもり感ずる絵を」  
大分合同新聞（夕刊）1990年1月25日  
東京支社「東京画信 二紀会の研究発表展と新人選抜展」  
大分合同新聞 1990年5月3日  
「ギャラリー“大分市の桜”菅久スケッチ展」毎日新聞 1990年5月25日  
「'90大分二紀展」大分合同新聞 1990年8月15日  
佐々木信平「現代感覚あふれる 大分二紀展を見て」大分合同新聞 1990年8月16日  
「菅久展ーコンテパスによる美しい大分風景素描」大分合同新聞 1990年10月30日  
東京支社「東京画信 二紀展」大分合同新聞（夕刊）1990年11月1日  
「菅久展ー円盤が飛ぶ」大分合同新聞 1991年4月6日

江藤明「菅久展を見て」大分合同新聞 1991年5月12日  
「'91大分二紀展」大分合同新聞 1991年8月21日  
「力つけた色感、構成力'91大分二紀展評 松井叔生」  
大分合同新聞 1991年8月22日  
東京支社「東京画信 秋の公募展 県関係者の作品紹介」  
大分合同新聞 1991年11月7日  
広瀬通秀「日曜文化 新潮流展を見て 個性の共鳴と連帯感」  
大分合同新聞 1991年12月15日  
東京支社「東京画信 印象的な菅久の出品作 春季二紀展」  
大分合同新聞 1992年5月7日  
「18日から第45回記念二紀展 大分市芸館で」  
大分合同新聞（夕刊）1992年6月4日  
「日本現代絵画の最高峰 5年ぶり「二紀展」開幕」大分合同新聞 1992年6月18日  
江藤明「「二紀展」を見て 迫力に圧倒される」大分合同新聞 1992年6月25日  
「'92大分二紀展」評 遠藤彰子 密度濃くパワフル」  
大分合同新聞 1992年8月13日  
「'92大分二紀展」大分合同新聞 1992年8月14日  
「美術壁面拡大運動に活用を 大分二紀会が寄金」大分合同新聞 1992年8月23日  
東京支社「東京画信 都美術館で秋の公募展 二紀展」  
大分合同新聞 1992年10月29日  
「大銀100周年を記念 洋画5人展始まる」大分合同新聞 1993年2月2日  
江藤明「文化 県内在住の「洋画5人展」に寄せて 高水準の緊張感」  
大分合同新聞 1993年3月4日  
「大分二紀展の個評 二紀会委員 長宗希佳氏」大分合同新聞 1993年8月26日  
東京支社「文化 東京画信 秋の公募展 県関係者の作品紹介」  
大分合同新聞 1993年11月30日  
「恥ずかしい2、3段掛け 菅久さん＝大分市＝（二紀会会員）」  
大分合同新聞 1994年1月1日  
山崎芳直「多彩なダイナミズム「菅久・小品展」に寄せて」  
大分合同新聞 1994年1月27日  
「'94大分二紀展」大分合同新聞 1994年8月17日  
「意欲的で個性豊か「'94大分二紀展」審査評 小西保文さん」  
大分合同新聞 1994年8月18日  
東京支社「東京画信 秋の公募展 二紀展」大分合同新聞（夕刊）1994年11月10日  
「文化 15周年の「大銀本店ロビー展」記念の時評集も出版」

大分合同新聞 1995年2月23日  
東京支社「東京画信 4つの秋の公募展 県出身者の作品を紹介 二紀展」  
大分合同新聞（夕刊）1995年11月9日  
「仲町会長を再選 県芸術文化振興会議」大分合同新聞 1996年6月20日  
「別府で菅さんと脇坂さんの「洋画2人展」」大分合同新聞 1996年7月7日  
清原保雄「菅久・脇坂秀樹洋画2人展を見て」大分合同新聞 1996年7月7日  
「'96大分二紀展」大分合同新聞 1996年8月14日  
「3人が受賞 大分二紀展」大分合同新聞 1996年8月22日  
東京支社「東京画信 二紀展」大分合同新聞 1996年10月28日  
東京支社「東京画信 秋の公募展の作品 二紀展」大分合同新聞 1997年11月10日  
「個性的で若手が楽しみ<98大分二紀展>＝西嶋俊親さん＝」  
大分合同新聞（夕刊）1998年9月10日  
東京支社「東京画信 4公募展の作品 二紀展」大分合同新聞 1998年11月1日  
狭間久「菅久小品展をみて 幻滅を乗り越えての原風景再現」  
大分合同新聞 1998年11月22日  
「菅久小品展」大分合同新聞 1998年11月28日  
西嶋俊親「99大分二紀展 講評」大分合同新聞（夕刊）1999年8月26日  
渡辺恭英「菅久展を見て 大作5点、まさに壮観」大分合同新聞 2000年1月13日  
「菅久さんの挿絵原画展」大分合同新聞 2000年3月23日  
加藤康彦「大分の洋画20世紀 時代性を強くにじませる」  
大分合同新聞 2000年7月3日  
渡辺恭英「「大分の洋画20世紀」展に寄せて」大分合同新聞 2000年7月13日  
「頼もしい若手の台頭 大分二紀展の講評 小西保文」  
大分合同新聞（夕刊）2000年8月17日  
「今日的な視点で自己主張 大分二紀展の講評 松井叔生」  
大分合同新聞（夕刊）2001年8月30日  
清原保雄「「菅久個展」から 色彩の独自に絵画観」  
大分合同新聞（夕刊）2002年2月28日  
「個性あふれる95点」大分合同新聞（夕刊）2002年5月1日  
「二紀展「見応え十分」レセプション」大分合同新聞 2002年5月2日  
「心を奪う秀逸作 二紀展大分巡回展始まる」大分合同新聞（夕刊）2002年5月2日  
脇坂秀樹「日曜文化 二紀展大分巡回展を見て」大分合同新聞 2002年5月5日  
山本和可子「短歌の目で見ると二紀展」大分合同新聞（夕刊）2002年5月9日  
「具象の新方向探る 大分二紀展の講評 玉川信一」大分合同新聞 2002年9月5日  
帆足朋成「菅久・山崎芳直二人展」大分合同新聞 2003年3月6日

「菅久・山崎芳直二人展」大分銀行創立 110 周年を記念」  
大分合同新聞（夕刊）2003 年 3 月 7 日

立見栄男「2003 大分二紀展」の講評」大分合同新聞（夕刊）2003 年 8 月 21 日

「22 日まで二紀展福岡巡回展」大分合同新聞（夕刊）2004 年 2 月 19 日

「個性あふれる作品 大分二紀展支部役員の講評」  
大分合同新聞（夕刊）2004 年 9 月 2 日

北村真「精鋭そろった「大分二紀展」」大分合同新聞（夕刊）2005 年 8 月 25 日

波多野義孝「菅久小品展を見て」色調に一層のさえ」  
大分合同新聞 2005 年 2 月 27 日

「個性的で高い質 2006 大分二紀展 松尾隆司さんが講評」  
大分合同新聞（夕刊）2006 年 8 月 31 日

清原保雄「デスク日誌 洋画壇の隆盛築いた県出身画家」  
大分合同新聞 2007 年 2 月 26 日

「県内関係者の主な作品 13 日から「二紀展大分巡回展」」  
大分合同新聞（夕刊）2007 年 3 月 8 日

「迫力ある大作 82 点 二紀展巡回展始まる」大分合同新聞（夕刊）2007 年 3 月 13 日

渡辺恭英「意気盛んな地元 19 人 二紀展大分巡回展」  
大分合同新聞（夕刊）2007 年 3 月 15 日

加藤康彦「第 60 回記念二紀展大分巡回展から（下）」  
大分合同新聞（夕刊）2007 年 3 月 10 日

「大分二紀展 手法に年々変化も」大分合同新聞（夕刊）2007 年 9 月 6 日

「県立芸館で「大分二紀展」20 人が絵画・彫刻 34 点を出品」  
大分合同新聞（夕刊）2008 年 9 月 11 日

「13 日まで「2009 大分二紀展」佐々木常務理事が講評」  
大分合同新聞（夕刊）2009 年 9 月 10 日

東京支社「東京画信 二紀展」大分合同新聞 2009 年 10 月 26 日

長谷目源太「11 日まで「郷土在住作家展Ⅳ 菅久展」」  
大分合同新聞（夕刊）2010 年 6 月 3 日

表4 児玉茂弘作品調査

## 【作品リスト】

番号	作品名	制作年	サイズ(cm)	素材・技法	出品歴／他
1	構築B	1958年	162 × 130.3	油彩・キャンバス	第22回大分県美術展(文部大臣賞) 第2回西日本洋画新人秀作展 大分県立芸術会館蔵
2	落城	1959年	162 × 130	油彩・キャンバス	第12回スバル展／第13回二紀展
3	望楼	1973年	162 × 130	油彩・キャンバス	第28回行動美術展
4	冬の日と少年	1973年	116.7 × 91	油彩・キャンバス	第9回大分県美術展(大分県美術協会優賞)
5	曇り日の坂道	1974年	162 × 130	油彩・キャンバス	第29回行動美術展
6	仮寝	1975年	162 × 130	油彩・キャンバス	第30回記念行動美術展
7	燃えるベトナム	1975年	162 × 130	油彩・キャンバス	
8	小鳥と少年	1976年	116.7 × 91	油彩・キャンバス	春季大分県美術展
9	患者の日課	1977年	182 × 227	油彩、銀粉 キャンバス	第32回行動美術展
10	患者の日課Ⅱ	1977年	130 × 162	油彩・キャンバス	第4回行動大分作家展
11	曇り日の患者	1977年	162 × 112	油彩・キャンバス	第13回大分県美術展(大分県美術協会賞)
12	患者との別れ	1978年	182 × 227	油彩、銀粉 キャンバス	第5回行動大分作家展
13	少年と柩	1978年	130 × 162	油彩・キャンバス	第33回行動美術展
14	餓鬼大将'80Z	1980年	162 × 130	油彩・キャンバス	第35回行動美術展
15	みちくさ	1980年	162 × 130	油彩・キャンバス	潮流展'80
16	裏街に働く女たち	1981年	227 × 182	油彩・キャンバス	第36回行動美術展
17	路地1	1982年	182 × 227	油彩・キャンバス	潮流展'82
18	路地4	1982年	162 × 130	油彩・キャンバス	潮流展'82
19	視座83-10	1983年	72.7 × 60.6	油彩・キャンバス	第19回大分県美術展(大分県美術協会賞)
20	街人1	1983年	182 × 227	油彩・キャンバス	第38回行動美術展(奨励賞) 丈六寺蔵
21	視座'84-3季節なき漂流者	1984年	182 × 227	油彩・キャンバス	第39回行動美術展／潮流展'84
22	視座'84-4季節なきふちより	1984年	182 × 227	油彩・キャンバス	第39回行動美術展／潮流展'84
23	視座-風洞による'85-G	1985年	182 × 227	油彩・キャンバス	第40回記念行動美術展
24	視座86-5 A BODY WITH TWO HEADS	1986年	182 × 227	油彩・キャンバス	第41回行動美術展
25	或る街角より'86-5	1986年	182 × 227	油彩・キャンバス	第1回新潮流展
26	街角'87-1	1987年	182 × 227	油彩・キャンバス	第42回行動美術展 大分市美術館蔵
27	作品87-9	1987年	145.5 × 112	油彩・キャンバス	第23回大分県美術展(大分県美術協会賞)
28	街角88-1	1988年	182 × 227	油彩・キャンバス	第43回行動美術展 第3回新潮流展
29	街角89-M	1989年	182 × 227	油彩・キャンバス	第44回行動美術展
30	早春の桂揚小学校より桂川を臨む	1989年	97 × 145	油彩・キャンバス	桂揚小学校蔵
31	川中不動	1990年	53 × 45	油彩・キャンバス	個展(小田急センチュリーホテル) 個人蔵
32	作品908-9ブラックホール	1990年	182 × 227	油彩・キャンバス	第45回行動美術展

33	街角91-915	1991年	72.7 × 60.6	油彩・キャンバス	第27回大分県美術展(大分県美術協会賞)
34	街角91-6	1991年	182 × 227	油彩・キャンバス	第18回行動大分作家展
35	街角91-7	1991年	182 × 227	油彩・キャンバス	第46回行動美術展
36	街角91-8	1991年	182 × 227	油彩・キャンバス	第46回行動美術展(会員推挙)
37	静物	1992年	22 × 27	油彩・キャンバス	個人蔵
38	梅雨あけ	1992年	38 × 45	油彩・キャンバス	個展(ワークアウト)／個人蔵
39	はな	1992年	27 × 22	油彩・キャンバス	個展(ワークアウト)／個人蔵
40	冬野	1994年	24 × 33	油彩・キャンバス	個展(朝倉文夫記念館)／個人蔵
41	神角寺	1994年	50 × 60	油彩・キャンバス	個展(朝倉文夫記念館)／個人蔵
42	源流	1994年	53 × 65	油彩・キャンバス	個展(朝倉文夫記念館)／個人蔵
43	街角'92-7	1992年	194 × 259	油彩・キャンバス	第47回行動美術展
44	街角'93-7	1993年	194 × 259	油彩・キャンバス	第48回行動美術展
45	想'93-6-4 No.2	1993年	182 × 227	油彩・キャンバス	第20回行動大分作家展
46	想'93-6-4 No.5	1993年	162 × 130	油彩・キャンバス	第20回行動大分作家展
47	Winds Way	1994年	182 × 227	油彩・キャンバス	第49回行動美術展
48	Winds Way 2	1994年	182 × 227	油彩・キャンバス	第21回行動大分作家展
49	気化95-7F	1995年	182 × 227	油彩・キャンバス	第50回記念行動美術展
50	気流96-7	1996年	259 × 194	油彩、アクリル、銀粉 キャンバス	第51回行動美術展
51	気流	1994年	144 × 111	油彩・キャンバス	個展(朝倉文夫記念館)
52	BLACK WAVES'97-1	1997年	145.5 × 89.4	油彩、石粉 キャンバス	個展(コトブキヤ画廊)
53	BLACK WAVES'97-3	1997年	60.6 × 72.7	油彩、石粉 キャンバス	個展(コトブキヤ画廊)
54	BLACK WAVES 97-3	1997年	259 × 194	アクリル、墨 キャンバス	第52回行動美術展
55	New Waves-98-7	1998年	194 × 259	油彩・キャンバス	第53回行動美術展
56	New Waves-98-8	1998年	182 × 227	油彩・キャンバス	
57	作品	1998年	130 × 97	油彩、アクリル キャンバス	
58	流域'99-MAY-26	1999年	259 × 194	油彩・キャンバス	第54回行動美術展
59	YOUNG	1999年	72.7 × 60.6	油彩、アクリル キャンバス	個展(JR湯布院駅アートホール)
60	花嫁	1999年	22.7 × 15.8	油彩、アクリル キャンバス	個展(JR湯布院駅アートホール)
61	爆地	1999年	24 × 33	アクリル、紙	個展(JR由布院駅)／個人蔵
62	レクイエム	1999年	32 × 41	油彩、キャンバス	個展(JR由布院駅)／個人蔵
63	婦人像	2000年	72.7 × 60.6	油彩、アクリル、クレ パス・キャンバス	
64	婦人像	2000年	51 × 44	アクリル、ウレタン樹 脂/キャンバス	
65	流域2000-8	2000年	259 × 194	油彩、アクリル・キャン バス	第55回行動美術展
66	構域01-05	2001年	227 × 182	油彩、アクリル、クレ パス・キャンバス	第56回行動美術展
67	構域01-06	2001年	227 × 182	油彩、アクリル、クレ パス・キャンバス	第28回行動大分作家展

68	視界2002-7	2002年	194 × 259	アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	第57回行動美術展
69	時華-2003.7 青へのプロセス	2003年	194 × 259	アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	第58回行動美術展
70	BLACK WAVES 03-2-18	2003年	73 × 91	アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	Action'03(ギャラリー一汲美)
71	青域2004-7	2004年	194 × 259	アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	第59回行動美術展
72	LAND SCAPE	2004年	65.5 × 99.5	アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	
73	木漏れ日	2004年	21.3 × 33.5	アクリル、水彩・キャンバス	
74	泣く女	2004年	39.7 × 28.7	アクリル、水彩・キャンバス	
75	連山	2004年	32 × 41	アクリル、水彩・キャンバス	
76	青域2005-6	2005年	182 × 227	アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	第32回行動大分作家展
77	青域2005-7	2005年	182 × 227	アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	第60回記念行動美術展
78	生域2006-7	2006年	182 × 227	アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	第61回行動美術展
79	街角(ポンペイ想)	2006年	45.5 × 53	油彩・キャンバス	個展(ギャラリー草本)
80	蜂	2006年	21 × 26	油彩・キャンバス	個展(ギャラリー草本)
81	森の夜明け	2006年	27.8 × 38.5	アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	個展(ギャラリー草本)
82	みずすましのいる田	2006年	27.5 × 38	アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	個展(ギャラリー草本)
83	晩春の夢	2006年	31 × 40.5	アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	個展(ギャラリー草本)
84	古都の旅 上海近郊	2006年	61 × 72	油彩、アクリル、ウレタン樹脂、クレヨン、墨・キャンバス	個展(ギャラリー草本) / 個人蔵
85	血痕	2007年	72.7 × 60.6	油彩、キャンバス	
86	森	2007年	72.7 × 60.6	アクリル、キャンバス	
87	Green Plan	2007年	182 × 227	油彩、アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	第34回行動大分作家展
88	生域2007-G	2007年	182 × 227	アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	第62回行動美術展
89	生域-2008	2008年	182 × 227	油彩、アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	第63回行動美術展
90	生域-2008-II	2008年	194 × 259	油彩、アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	第35回行動大分作家展
91	蘇生の森1	2009年	162 × 162	油彩、アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	第36回行動大分作家展
92	蘇生の森2	2009年	162 × 162	油彩、アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	第36回行動大分作家展
93	蘇生の森3	2009年	162 × 130	油彩、アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	第36回行動大分作家展
94	蘇生の森4	2009年	162 × 225	油彩、アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	第36回行動大分作家展
95	生域2009	2009年	182 × 227	油彩、アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	第64回行動美術展
96	蘇生1	2010年	162 × 162	油彩、アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	

97 蘇生2	2010年	130 × 162	油彩、アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	
98 蘇生3	2010年	131 × 162	油彩、アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	
99 蘇生4	2010年	161 × 111	油彩、アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	
100 蘇生5	2010年	91 × 116	油彩、アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	
101 冬樹林	2010年	32 × 41	アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	個展(ぎやらりー草本)／個人蔵
102 久住山	2010年	28 × 38	アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	個展(ぎやらりー草本)／個人蔵
103 森からの風	2010年	59 × 71	アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	個展(ぎやらりー草本)
104 森からの風	2010年	15 × 21	アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	
105 生域2010-緑と青	2010年	182 × 227	アクリル、ウレタン樹脂・キャンバス	第65回行動美術展

【作品図版】



構築B  
1958年  
162×130.3  
油彩、キャンバス  
第22回大分県美術展／文部大臣賞  
第2回西日本洋画新人秀作展  
大分県立芸術会館蔵



落城  
1959年  
162×130  
油彩、キャンバス  
第12回スバル展  
第13回二紀展



望楼  
1973年  
162×130  
油彩、キャンバス  
第28回行動美術展



冬の日と少年  
1973年  
116.7×91  
油彩、キャンバス  
第9回大分県美術展／大分県美術協会優賞



曇り日の坂道  
1974年  
162×130  
油彩、キャンバス  
第29回行動美術展



仮寝  
1975年  
162×130  
油彩、キャンバス  
第30回記念行動美術展



燃えるベトナム  
1975年  
162×130  
油彩、キャンバス



小鳥と少年  
1976年  
116.7×91  
油彩、キャンバス  
春季大分県美術展



患者の日課  
1977年  
182×227  
油彩、銀粉、キャンバス  
第32回行動美術展



患者の日課Ⅱ  
1977年  
130×162  
油彩、キャンバス  
第4回行動大分作家展



曇り日の患者  
1977年  
162×112  
油彩、キャンバス  
第13回大分県美術展  
大分県美術協会賞



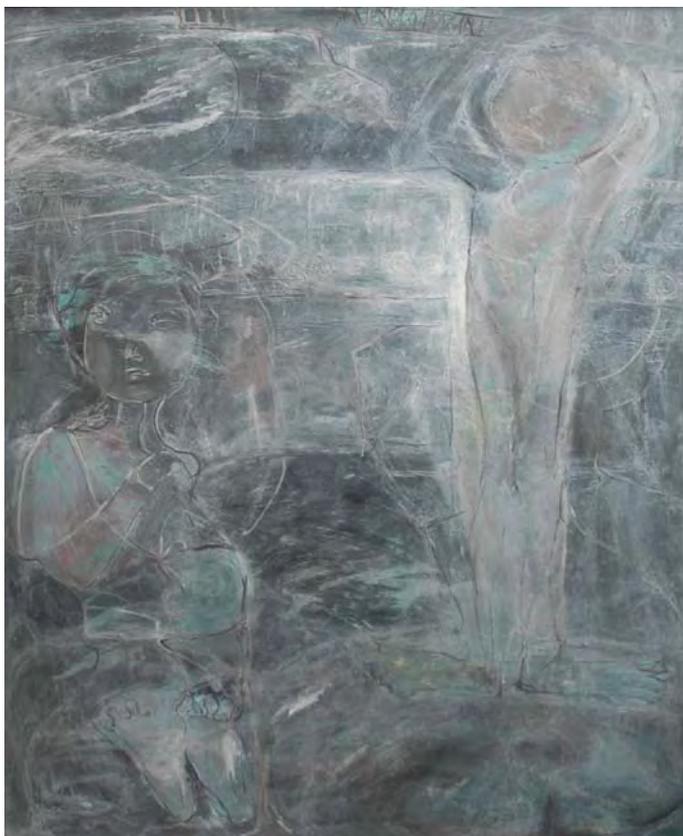
患者との別れ  
1978年  
182×227  
油彩、銀粉、キャンバス  
第5回行動大分作家展



少年と柩  
1978年  
130×162  
油彩、キャンバス  
第33回行動美術展



餓鬼大将'80Z  
1980年  
162×130  
油彩、キャンバス  
第35回行動美術展



みちくさ  
1980年  
162×130  
油彩、キャンバス  
潮流展'80



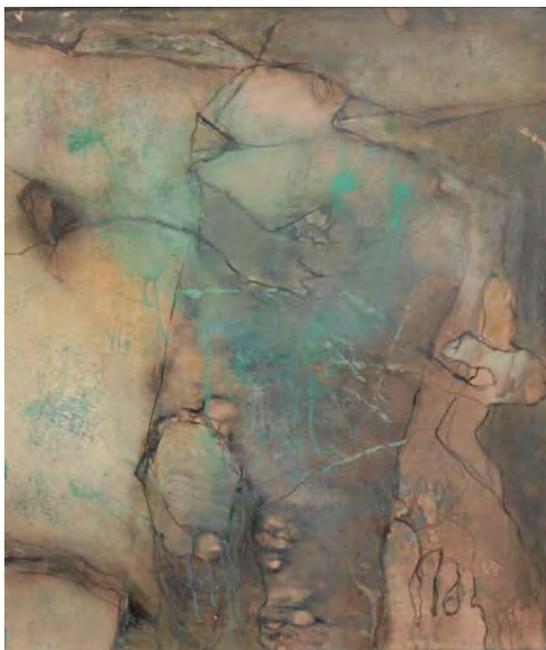
裏街に働く女たち  
1981年  
227×182  
油彩、キャンバス  
第36回行動美術展  
右図、加筆された  
現在の《裏街に働く  
女たち》。



路地1  
1982年  
182×227  
油彩、キャンバス  
潮流展'82



路地4  
1982年  
162×130  
油彩、キャンバス  
潮流展'82



視座83-10  
1983年  
72.7×60.6  
油彩、キャンバス  
第19回大分県美術展  
大分県美術協会賞



街人1  
1983年  
182×227  
油彩、キャンバス  
第38回行動美術展／奨励賞  
会友推挙  
丈六寺蔵



視座'84-3季節なき漂流者  
1984年  
182×227  
油彩、キャンバス  
第39回行動美術展／潮流展'84



視座'84-4季節なきふちより  
1984年  
182×227

油彩、キャンバス  
第39回行動美術展  
潮流展'84



視座-風洞による'85-G  
1985年  
182×227

油彩、キャンバス  
第40回記念行動美術展



視座86-5 A BODY WITH TWO HEADS  
1986年  
182×227

油彩、キャンバス  
第41回行動美術展



或る街角より'86-5  
1986年  
182×227

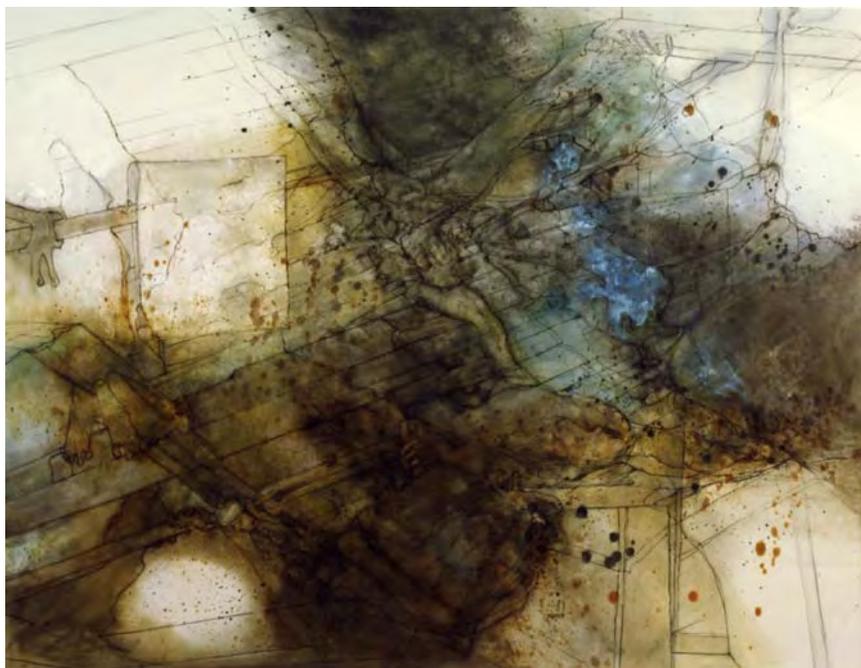
油彩、キャンバス  
第1回新潮流展



街角'87-1  
1987年  
182×227  
油彩、キャンバス  
第42回行動美術展／大分市美術館蔵



作品87-9  
1987年  
145.5×112  
油彩、キャンバス  
第23回大分県美術展  
大分県美術協会賞



街角88-1  
1988年  
182×227  
油彩、キャンバス  
第43回行動美術展  
第3回新潮流展



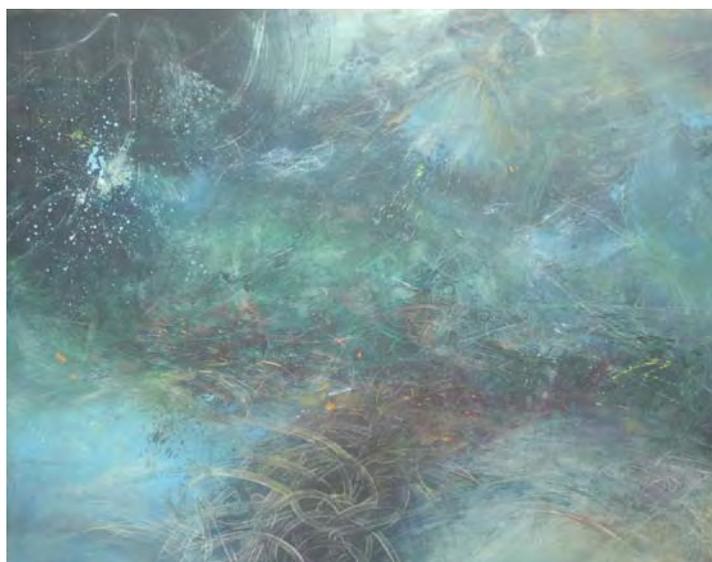
街角89-M  
1989年  
182×227  
油彩、キャンバス  
第44回行動美術展



早春の桂揚小学校より桂川を臨む  
1989年  
97×145  
油彩、キャンバス  
桂揚小学校蔵



川中不動  
1990年  
53×45  
油彩、キャンバス  
個展(小田急センチュリーホテル)／個人蔵



作品908-9ブラックホール  
1990年  
182×227  
油彩、キャンバス  
第45回行動美術展



街角91-915  
1991年  
72.7×60.6  
油彩、キャンバス  
第27回大分県美術展／大分県美術協会賞



街角91-6  
1991年  
182×227  
油彩、キャンバス  
第18回行動大分作家展



街角91-7  
1991年  
182×227  
油彩、キャンバス  
第46回行動美術展／会員推挙



街角91-8  
1991年  
182×227  
油彩、キャンバス  
第46回行動美術展／会員推挙



静物  
1992年  
22×27  
油彩、キャンバス  
個人蔵



梅雨あけ  
1992年  
38×45  
油彩、キャンバス  
個展(ワークアウト)  
個人蔵



はな  
1992年  
27×22  
油彩、キャンバス  
個展(ワークアウト)  
個人蔵



冬野  
1994年  
24×33  
油彩、キャンバス  
個展(朝倉文夫記念館)  
個人蔵



神角寺  
1994年  
50×60  
油彩、キャンバス  
個展(朝倉文夫記念館)  
個人蔵



源流  
1994年  
53×65  
油彩、キャンバス  
個展(朝倉文夫記念館)  
個人蔵



街角'92-7  
1992年  
194×259

油彩、キャンバス  
第47回行動美術展



街角'93-7  
1993年  
194×259

油彩、キャンバス  
第48回行動美術展



想'93-6-4 No.2  
1993年  
182 × 227  
油彩、キャンバス  
第20回行動大分作家展



想'93-6-4 No.5  
1993年  
162 × 130  
油彩、キャンバス  
第20回行動大分作家展



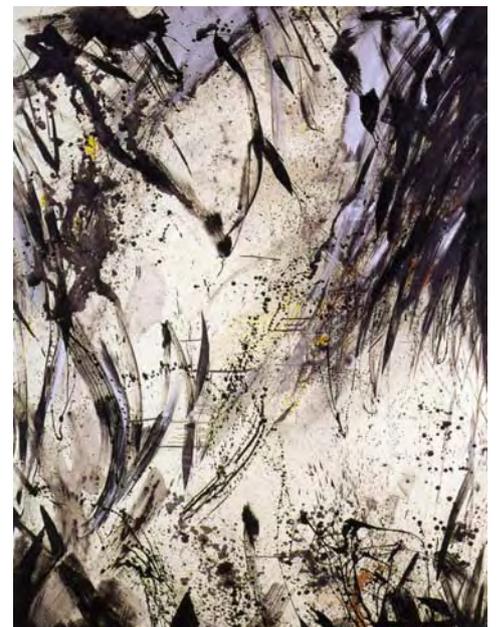
Winds Way  
1994年  
182 × 227  
油彩、キャンバス  
第49回行動美術展



Winds Way 2  
1994年  
182 × 227  
油彩、キャンバス  
第21回行動大分作家展



気化95-7F  
1995年  
182 × 227  
油彩、キャンバス  
第50回記念行動美術展



気流96-7  
1996年  
259 × 194  
油彩、アクリル、  
銀粉、キャンバス  
第51回行動美術展



気流  
1994年  
144×111  
油彩、キャンバス  
個展(朝倉文夫記念館)



BLACK WAVES'97-1  
1997年  
145.5×89.4  
油彩、石粉、キャンバス  
個展(コトブキヤ画廊)



BLACK WAVES'97-3  
1997年  
60.6×72.7  
油彩、石粉、キャンバス  
個展(コトブキヤ画廊)



BLACK WAVES 97-3  
1997年  
259×194  
アクリル、墨、キャンバス  
第52回行動美術展



New Waves-98-7  
1998年  
194×259  
油彩、キャンバス  
第53回行動美術展



New Waves-98-8  
1998年  
182 × 227  
油彩、キャンバス



作品  
1998年  
130 × 97  
油彩、アクリル、キャンバス



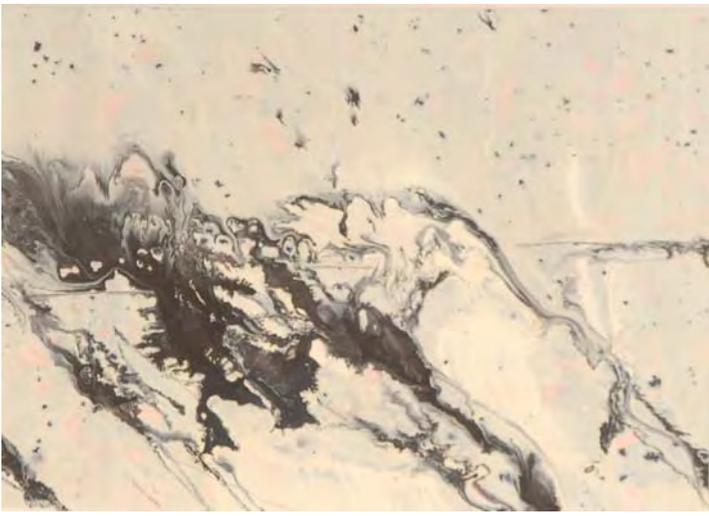
流域'99-MAY-26  
1999年  
259 × 194  
油彩、キャンバス  
第54回行動美術展



YOUNG  
1999年  
72.7 × 60.6  
油彩、アクリル、キャンバス  
個展(JR湯布院駅アートホール)



花嫁  
1999年  
22.7 × 15.8  
油彩、アクリル、キャンバス  
個展(JR湯布院駅アートホール)



爆地  
1999年  
24×33  
アクリル、紙  
個展(JR由布院駅)  
個人蔵



レクイエム  
1999年  
32×41  
油彩、キャンバス  
個展(JR由布院駅)  
個人蔵



婦人像  
2000年  
72.7×60.6  
油彩、アクリル、クレパス、キャンバス



婦人像  
2000年  
51×44  
アクリル、ウレタン樹脂、キャンバス



流域2000-8  
2000年  
259×194  
油彩、アクリル、キャンバス  
第55回行動美術展



構域01-05  
2001年  
227×182  
油彩、アクリル、クレパス、キャンバス  
第56回行動美術展



構域01-06  
2001年  
227×182  
油彩、アクリル、  
クレパス、キャンバス  
第28回行動大分作家展



視界2002-7  
2002年  
194×259  
アクリル、ウレタン樹脂、キャンバス  
第57回行動美術展



時華-2003.7 青へのプロセス  
2003年  
194 × 259  
アクリル、ウレタン樹脂、キャンバス  
第58回行動美術展



BLACK WAVES 03-2-18  
2003年  
73 × 91  
アクリル、ウレタン樹脂、キャンバス  
Action'03(ギャラリー汲美)



青域2004-7  
2004年  
194 × 259  
アクリル、ウレタン樹脂、キャンバス  
第59回行動美術展



LAND SCAPE  
2004年 2010年と児玉がサインした。  
65.5 × 99.5  
アクリル、ウレタン樹脂、キャンバス



木漏れ日  
2004年  
21.3 × 33.5  
アクリル、水彩、キャンバス



泣く女  
2004年  
39.7 × 28.7  
アクリル、水彩、  
キャンバス



連山  
2004年  
32 × 41  
アクリル、水彩、  
キャンバス



青域2005-6  
2005年  
182 × 227  
アクリル、ウレタン樹脂、キャンバス  
第32回行動大分作家展



青域2005-7  
2005年  
182 × 227  
アクリル、ウレタン樹脂、キャンバス  
第60回記念行動美術展



生域2006-7  
2006年  
182 × 227  
アクリル、ウレタン樹脂、キャンバス  
第61回行動美術展



街角(ポンペイ想)  
2006年  
45.5 × 53  
油彩、キャンバス  
個展(ギャラリー  
草本)



蜂  
2006年  
21 × 26  
油彩、キャンバス  
個展(ギャラリー  
草本)



森の夜明け  
2006年  
27.8 × 38.5  
アクリル、ウレタン樹脂、キャンバス  
個展(ギャラリー草本)



みずすましのいる田  
2006年  
27.5 × 38  
アクリル、ウレタン樹脂、キャンバス  
個展(ギャラリー草本)



晩春の夢  
2006年  
31 × 40.5  
アクリル、ウレタン樹脂、キャンバス  
個展(ギャラリー草本)



古都の旅 上海近郊

2006年

61×72

油彩、アクリル、ウレタン樹脂、クレヨン、墨  
キャンバス

個展(ぎやらりー草本)／個人蔵



血痕

2007年

72.7×60.6

油彩、キャンバス



森

2007年

72.7×60.6

アクリル、キャンバス



Green Plan

2007年

182×227

油彩、アクリル、ウレタン樹脂、キャンバス  
第34回行動大分作家展



生域2007-G

2007年

182×227

アクリル、ウレタン樹脂、キャンバス  
第62回行動美術展



生域-2008

2008年

182×227

油彩、アクリル、ウレタン樹脂、キャンバス  
第63回行動美術展

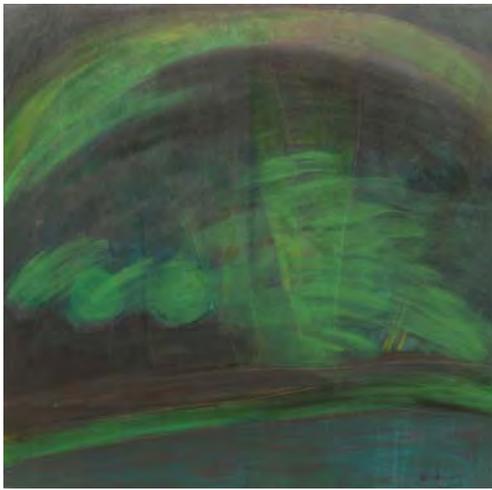


生域-2008-II

2008年

184×259

油彩、アクリル、ウレタン樹脂、キャンバス  
第35回行動大分作家展



蘇生の森1  
2009年  
162×162  
油彩、アクリル、ウレタン樹脂、板  
第36回行動大分作家展



蘇生の森2  
2009年  
162×162  
油彩、アクリル、ウレタン樹脂、板  
第36回行動大分作家展



蘇生の森3  
2009年  
162×130  
油彩、アクリル、ウレタン樹脂、  
キャンバス  
第36回行動大分作家展



蘇生の森4  
2009年  
162×225  
油彩、アクリル、ウレタン樹脂  
キャンバス  
第36回行動大分作家展



生域2009  
2009年  
182×227  
油彩、アクリル、  
ウレタン樹脂、キャンバス  
第64回行動美術展



蘇生1  
2010年  
162×162  
油彩、アクリル、ウレタン樹脂、板



蘇生2  
2010年  
130×162  
油彩、アクリル、ウレタン樹脂、板



蘇生3  
2010年  
131×162  
油彩、アクリル、ウレタン樹脂、キャンバス



蘇生4  
2010年  
161×111  
油彩、アクリル、ウレタン樹脂、  
キャンバス



蘇生5  
2010年  
91×116  
油彩、アクリル、ウレタン樹脂、キャンバス



久住山  
2010年  
28×38  
アクリル、ウレタン樹脂、  
キャンバス  
個展(ぎやらりー草本)



森からの風  
2010年  
15×21  
アクリル、ウレタン樹脂、  
キャンバス  
個展(ぎやらりー草本)



冬樹林  
2010年  
32×41  
アクリル、ウレタン樹脂、  
キャンバス  
個展(ぎやらりー草本)  
個人蔵





生域2010-緑と青  
2010年  
182×227  
アクリル、ウレタン樹脂、キャンバス  
第65回行動美術展

【関連図版】



大分大学校舎前にて  
1953年頃撮影  
前列右、脇坂秀樹、二人目、児玉成弘。  
後列左、十時良。  
大学時代、児玉は、美術と英語の教員免許を取った。



第2回西日本洋画新人秀作展会場(石橋美術館)にて  
1959年3月撮影  
選抜された《構築B》と児玉成弘。



第26回大分県美術展会場(トキハデパート文化ホール)にて  
1960年11月撮影  
右から、古川栄、児玉成弘、菅久。  
児玉は、この年、大分県美術協会会員となった。



市内の居酒屋にて  
1986年頃撮影  
左から、児玉成弘、日名子金一郎、脇坂秀樹、菅久、  
仲町謙吉、神田千里。



スケッチする児玉成弘  
1986年9月3日撮影



向井潤吉アトリエ館にて  
1993年8月撮影  
左から、児玉成弘、高木岩義。



自宅アトリエにて  
1993年10月撮影  
児玉は、自宅アトリエを解放し、さまざまな分野の人々と交流を続けている。

児玉成弘個展開会式(朝倉文夫記念館)にて  
1994年6月5日撮影  
画面中央が、児玉成弘。  
本展では、大作32点、小品21点が展示された。



個展会場入口(朝倉文夫記念館)にて  
1994年6月5日撮影

個展会場(朝倉文夫記念館)  
1994年6月5日撮影



児玉成弘個展開会式(長者の里ふるさと館)にて  
1994年7月24日撮影  
本展は、三重町長者の里ふるさと館のオープニング企画として開催された展覧会。

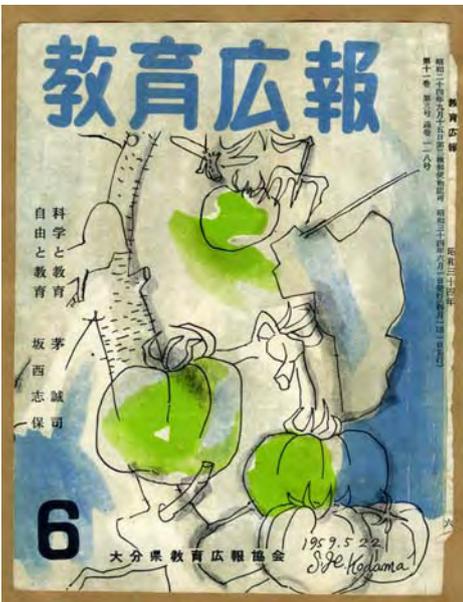
児玉成弘個展開会式出席者たちと  
1994年7月24日撮影  
右から、高木岩義、岡崎健治、渡辺恭英、脇正人、江藤明、児玉成弘、満生和昭、安東隆美。



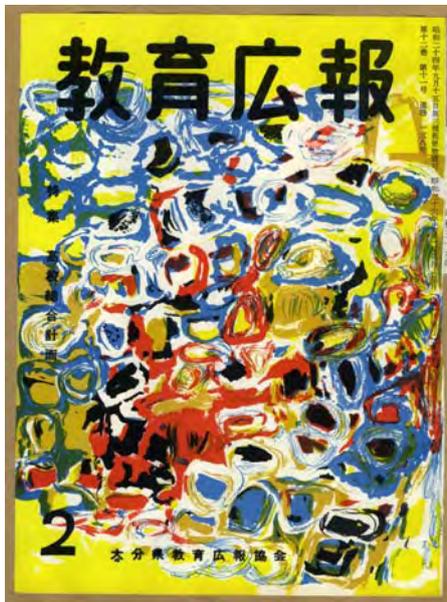
児玉成弘「スケッチ教室」にて  
1994年8月17日撮影  
児玉成弘個展の関連イベントとして、三重町中央公民館  
で開催したスケッチ教室。



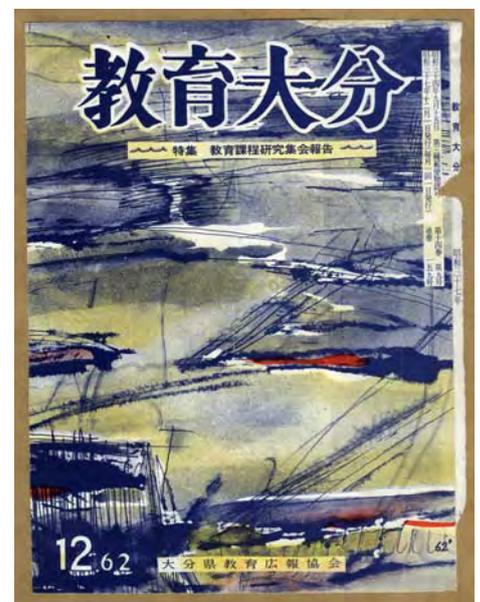
児玉成弘「スケッチ教室」にて  
1994年8月17日撮影  
指導する児玉成弘と受講者たち。  
大好評であった。



教育広報1959年6月号  
表紙「幻想」



教育広報1961年2月号  
表紙「たきび」



教育大分1962年12月号  
表紙「作品V-12」



芸振No.65のためのカット

芸振No.65 1985年7月号



## 表5 児玉成弘略歴

### 1932（昭和7）年

9月27日 児玉政敏、シズ子の三男として、大野郡三重町字久田字山田1599番地（現・豊後大野市）に生まれる。父政敏は教師で、成弘は8人兄妹であった。

### 1948（昭和23）年

3月 新田尋常小学校高等科（二年）を卒業する。

4月 大分県立三重農業高等学校に入学する。同校の名称は、翌年から大分県立三重高等学校と変更された。

### 1951（昭和26）年

3月 大分県立三重高等学校を卒業する。

4月 大分大学学芸学部に入學する。在学中、武藤完一、浜田九一郎、仲町謙吉らの指導を受ける。同大学では、美術科教員免許と英語科教員免許を所得した。

### 1955（昭和30）年

3月 大分大学学芸学部を卒業する。

4月 中学校教諭として採用され、南海部郡共立昭和中学校に赴任する。

### 1957（昭和32）年

8月26日 昭和中学校の事務職員であった甲斐トチ子と結婚する。

### 1958（昭和33）年

10月18日～26日 第22回大分県美術展（トキハデパート文化ホール）に《構築A》F100号、《構築B》F100号を出品し、文部大臣賞を受賞、同会員に推挙される。本作は、県の買い上げ作品となり、大分県立生涯教育センター内に展示され、現在は、大分県立芸術会館の所蔵品として保管されている。

### 1959（昭和34）年

3月1日～29日 第2回西日本洋画新人秀作展（石橋美術館）に《構築B》F100号が選抜出品される。

5月22日 教育広報6月号の表紙「幻想」を描く。

5月26日～31日 第23回大分県美術展（トキハデパート文化ホール）に《夜に泣く子》を出品する。

8月25日～30日 第12回スバル展（トキハギャラリー）に《落城I》F100号、《落城II》F100号を出品する。

10月11日～30日 第13回二紀展（東京都美術館）に《落城》F100号を初出品し、初入選する。

## 1960（昭和35）年

5月3日～8日 第25回記念大分県美術展（トキハデパート文化ホール）に《受難によるNo.8》を出品する。

6月18日 神田千里、菅久、脇正人、江藤明、安藤真、井上佐之助、十時良らとともに、大分市荷揚町画廊酒場で、「われわれは平和を根幹とした、きびしい現実認識のうえに立って創作し、批評の場を組織する」という宣言文を掲げ、大分前衛美術会を設立する。しかし、設立に参加した菅久は、その後、脱退し、展覧会には出品していない。

10月 第14回二紀展（東京都美術館）に《復活》を出品する。

11月8日～13日 第26回大分県美術展（トキハデパート文化ホール）に出品し、大分県美術協会会員に推挙される。

## 1961（昭和36）年

・教育広報2月号の表紙「たきび」を描く。

3月7日～12日 第1回大分前衛美術展（大分県物産観光館）に《作品・N-1》100号、《作品・N-2》100号を出品する。その後、児玉は、前衛という言葉に違和感を覚え、同会を退会した。

## 1962（昭和37）年

4月17日～22日 第29回大分県美術展無鑑査展（トキハデパート文化ホール）に《作品62-4》を出品する。

9月1日～20日 第17回行動美術展（東京都美術館）に《作品一照》を初出品し、初入選する。

・教育大分12月号の表紙「作品V-12」を描く。

## 1963（昭和38）年

・美協No.12に寄稿する。

## 1966（昭和41）年

5月10日～15日 春季大分県美術展（トキハデパート文化ホール）に《晩春》を出品する。

## 1967（昭和42）年

8月 イギリス、フランス、西ドイツ、イタリアを一ヶ月間歴遊する。

## 1968（昭和43）年

・神田千里、廣瀬通秀、岩尾秀樹、脇正人、二宮秀夫、三浦勉と、7人の会を結成する。

6月18日～23日 第1回7人の会展（トキハデパート文化ホール）に《揺れる街》200号、《揺れる街》200号、《泳ぐ海女》150号、《帰るふね》150号、《道案内》150号、《和平への道程》100号及び、数点の小品を出品する。

1969（昭和44）年

7月8日～13日 第2回7人の会展（トキハデパート文化ホール）に《禍A》F100号、《禍B》F100号、《禍C》F100号、《禍D》F100号、《鍛T》F100号、《鍛S》F100号、《臥》F80号、《家族》F100号、《抱擁》F100号、《うさぎとあばらやと蜜蜂》M100号を出品する。

1970（昭和45）年

7月21日～26日 第3回7人の会展（トキハデパート文化ホール）に《生活の谷間》100号、《生活の谷間》100号、《遺物》100号、《遺物》80号、《遺物》50号、《遺物》150号を出品する。

1972（昭和47）年

1月7日～14日 第4回7人の会展（北九州市八幡美術館）に《絶叫》を出品する。

1973（昭和48）年

5月13日 大分県美術協会総会が大分市府内会館で行われ、洋画部委員に選出される。以後、6期12年、同職を務めた。

9月1日～20日 第28回行動美術展（東京都美術館）に《望楼》F100号を出品する。

11月22日～25日 第9回大分県美術展（大分文化会館）に《冬の日と少年》F50号を出品し、大分県美術協会優賞を受賞する。

1974（昭和49）年

6月4日～9日 第1回行動大分作家展（大分文化会館）に《少年と雨の日》他を出品する。

9月1日～20日 第29回行動美術展（東京都美術館）に《曇り日の坂道》F100号を出品する。

1975（昭和50）年

6月2日～8日 第2回行動大分作家展（大分文化会館第2小ホール）に《地鳴り》他、100号4点を出品する。

9月1日～18日 第30回記念行動美術展（東京都美術館）に《仮寝》F100号を出品する。

12月22日～28日 行動大分作家展（晃星堂ギャラリー）に《野やき》を出品する。

1976（昭和51）年

5月7日～11日 第30回記念行動美術展（トキハデパート8階）に《仮寝》が巡回展示される。

6月3日～8日 春季大分県美術展（トキハデパート文化ホール）に《小鳥と少年》を出品する。

7月9日～14日 第3回行動大分作家展（大分文化会館第2小ホール）に《鍵っ子Ⅰ》F100号、《鍵っ子Ⅱ》F100号を出品する。

#### 1977（昭和52）年

6月3日～8日 第4回行動大分作家展（大分文化会館第2小ホール）に《患者の日課Ⅱ》を出品する。

9月1日～18日 第32回行動美術展（東京都美術館）に《患者の日課》F150号を出品する。

11月25日～30日 第13回大分県美術展（大分県立芸術会館）に《曇り日の患者》P100号を出品し、大分県美術協会賞を受賞する。

#### 1978（昭和53）年

5月23日～28日 春季大分県美術展（大分県立芸術会館）に《患者と家族》を出品する。

5月30日～6月4日 第5回行動大分作家展（大分県立芸術会館第3展示室）に《患者との別れ》を出品する。

9月7日～24日 第33回行動美術展（東京都美術館）に《少年と柩》を出品する。

#### 1979（昭和54）年

5月22日～27日 第6回行動大分作家展（大分県立芸術会館第3展示室）に大作4点を出品する。

7月23日～9月14日 洋画10人展パートⅡ（大分銀行本店2階ロビー）に出品する。本展には、その他に、秋月述生・黒川洋孝・菅記昭・檜垣正喜・日名子金一郎・守末利宏・山崎哲一郎・山崎芳直、脇正人が出品している。

#### 1980（昭和55）年

3月25日～30日 大分県美術協会15周年記念特別展（大分県立芸術会館第1～第3展示室）に《患者の夜》を出品する。

6月10日～15日 第7回行動大分作家展（大分県立芸術会館第1展示室）に《裏町に生きる女たち》を出品する。

・第1回全西部行動展に《路地裏》F100号を出品する。

8月5日 潮流の会の結成に参加する。同会は、「大分の地にあたらしいエネルギーの結集体誕生が待たれて久しい。1980年に始まる展望の中で、私どもは個々の表現の自由を尊重し、さらによりゆたかな絵画創造を願って、ここに結集した。私どもは、所属の団体を超えて、生気に満ちた交流と研鑽の場を求め、激しく渦巻く潮流を目指したい。」との宣言文を掲げ、県在住作家27人が集結し、結成した美術グループである。

9月7日～24日 第35回行動美術展（東京都美術館）に《餓鬼大将'80Z》F100号を出品する。

11月10日～16日 潮流小品展（大分市／府内画廊）に《納屋と老婆》F 12号を出品する。

11月11日～16日 潮流展' 80（大分県立芸術会館第1～第3展示室）に《若者たち（1）》F 100号、《若者たち（2）》F 100号、《若者たち（3）》F 80号、《若者たち（4）》F 80号を出品する。《若者たち（1）》は、その後、《みちくさ》とタイトルを変更した。

#### 1981（昭和56）年

2月18日～22日 第24回労美展（大分県立芸術会館）に出品し、彫刻・工芸の部で県知事賞を受賞する。

4月 児玉成弘・二宮秀夫・日金子金一郎・脇正人四人展（大分市・文芸画廊）に《風景》4点を出品する。作品は、すべて0号から6号までの小品であった。

6月16日～21日 第8回行動大分作家展（大分県立芸術会館第3展示室）に《裏町に働く女たち》を出品する。

8月25日～31日 児玉成弘・守末利宏・高木岩義三人展（銀座・中央美術画廊）に《傾山展望》、《祖母山展望》を含む、9点を出品する。

9月2日～18日 第36回行動美術展（東京都美術館）に《裏街に働く女たち》F 150号を出品する。

12月1日～6日 潮流展' 81（大分県立芸術会館第1～第3展示室）に《裏街に生きる女たち1》F 150号、《裏街に生きる女たち2》F 150号、《壁の中の男たち》F 150号、《地底のいかり》F 150号、《鎮こんの図》F 150号、《反戦兵士のいる攻略点》F 150号を出品する。

#### 1982（昭和57）年

7月6日～11日 第9回行動大分作家展（大分県立芸術会館第1展示室）に《街によるⅢ》を出品する。

11月15日～12月18日 児玉成弘展（大分銀行本店2階ロビー）が開催され、《地底の叫び》150号、《少年》、《自転車》他を出品する。

12月7日～12日 潮流展' 82（大分県立芸術会館／第1～第3展示室）に《路地1》F 150号、《路地2》F 150号、《路地3》F 100号、《路地4》F 100号を出品する。

#### 1983（昭和58）年

6月28日～7月3日 第10回行動大分作家展・第2回全西部行動展（大分県立芸術会館第1～第3展示室）に《街人》、《街角（Ⅰ）》を出品する。

9月1日～18日 第38回行動美術展（東京都美術館）に《街人Ⅰ》F 150号を出品し、奨励賞を受賞、会友に推挙される。

10月8日～22日 県内作家による「ギャラリー開設協賛展」（大分市・ぶんどぎギャラリー）に《風景》を出品する。

10月25日～30日 第19回大分県美術展（大分県立芸術会館）に《視座83—10》F 20号を出品し、大分県美術協会賞を受賞する。

11月29日～12月11日 潮流展' 83（大分県立芸術会館第3展示室）に《視座Ⅰ》F 80号、《視座Ⅱ》P 60号を出品する。

12月12日～18日 行動大分小品展（ぶんどぎギャラリー）に出品する。

#### 1984（昭和59）年

5月7日～27日 第3回全西部行動展（北九州市立美術館）に《視座59—2》F 150号を出品する。

5月30日～6月3日 第11回行動大分作家展（大分県立芸術会館／第1展示室）に《視座》F 150号を含む、4点を出品する。

8月7日～19日 ' 84大分県在住作家個展シリーズ（大分県立芸術会館）が開催され、《構築B》F 100号を含む、18点を出品する。本展には、児玉成弘・佐藤京子・菅章・藤内龍彦が参加した。

9月1日～18日 第39回行動美術展（東京都美術館）に《視座' 84—3季節なき漂流者》F 150号、《視座' 84—4季節なきふちより》F 150号を出品する。

12月11日～16日 潮流展' 84（大分県立芸術会館／第1～第3展示室）に《視座' 84—3季節なき漂流者》F 150号、《視座' 84—4季節なきふちより》F 150号、《視座' 84—5季節なき証跡》F 150号を出品する。

#### 1985（昭和60）年

・芸振No.65のための挿絵を制作する。

6月9日 大分県美術協会総会が大分県立芸術会館講堂で行われ、事務局次長に選出される。以後、3期6年、同職を務めた。

7月10日～14日 第12回行動大分作家展（大分県立芸術会館第3展示室）に出品する。

9月8日～25日 第40回記念行動美術展（東京都美術館）に《視座—風洞による' 85—G》F 150号を出品する。

11月11日～17日 秋の小品18人展（ギャラリーまつむら）に出品する。

12月3日～8日 潮流展' 85（大分県立芸術会館／第1～第3展示室）に《視座85—7》F 150号、《視座85—8》F 150号、《視座85—9》F 150号を出品する。

#### 1986（昭和61）年

4月13日 潮流の会が解散する。その後、新しいグループ（新潮流の会）の結成準備会に出席する。

4月27日 新潮流の会の結成総会に出席する。その席で、会則、会員、役員が決められた。

6月25日～29日 第13回行動大分作家展（大分県立芸術会館第3展示室）に《対面者たち》、《視座86—IV》を出品する。

9月1日～15日 第41回行動美術展（東京都美術館）に《視座86—5 A BODY WITH TWO HEADS》F 150号を出品する。

12月4日～7日 第1回新潮流展（トキハ会館／2階）に《或る街角より' 86—5》F 150号、《或る街角より' 86—7》F 150号を出品する。

12月7日 大分合同新聞社が企画した絵画フォーラム「新しい絵画創造」（大分合同新聞社1階ホール）に出席する。

#### 1987（昭和62）年

6月23日～28日 第14回行動大分作家展（大分県立芸術会館第3展示室）に出品する。

9月1日～16日 第42回行動美術展（東京都美術館）に《街角' 87—1》F 150号を出品する。

10月20日～25日 第23回大分県美術展（大分県立芸術会館）に《作品87—9》を出品し、大分県美術協会賞を受賞する。

12月3日～9日 第2回新潮流展（トキハ会館2階）に《作品》、《' 87—11》を出品する。

#### 1988（昭和63）年

6月8日～19日 第42回行動美術展（大分県立芸術会館第1～第3展示室）に《街角' 87—1》F 150号が巡回展示される。

7月26日～31日 第15回行動大分作家展（大分県立芸術会館第3展示室）に《無情88—1》、《無情88—2》、《無情88—3》、《無情88—4》を出品する。

9月1日～16日 第43回行動美術展（東京都美術館）に《街角88—1》F 150号を出品する。

11月15日～27日 第3回新潮流展（大分県立芸術会館第3展示室）に《街角88—1》F 150号、《街角88—2》F 150号を出品する。

#### 1989（平成元）年

1月6日～29日 「大分の作家たち I 現代の美術—「描く」」（大分県立芸術会館）が開催され、《街角87—1》F 150号、《街・人1》F 150号、《街角88—1》F 150号、《街角88—2》F 150号、《街角88—3》F 150号、《街角88—4》F 150号を出品する。

1月14日 「大分の作家たち I 現代の美術—「描く」」の関連イベントとして開催されたフォーラム（大分県立芸術会館第3展示室）に出席する。

6月20日～25日 第16回行動大分作家展（大分県立芸術会館第3展示室）に《作品89—2》を含む、計5点を出品する。

9月1日～16日 第44回行動美術展（東京都美術館）に《街角89—M》F150号を出品する。

11月21日～12月3日 第4回新潮流展（大分県立芸術会館第1展示室）に《街角89—M》150号、《街角89—N》150号を出品する。

#### 1990（平成2）年

7月24日～29日 第17回行動大分作家展（大分県立芸術会館第3展示室）に出品する。

9月1日～16日 第45回行動美術展（東京都美術館）に《作品908—9ブラックホール》F150号を出品する。

9月11日～30日 児玉成弘個展（小田急センチュリーホテル1階ギャラリー）が開催され、ふるさと風物シリーズ《熊野磨崖仏》10号、《川中不動》、《根子岳・雪》他を出品する。

12月3日～2月1日 90児玉成弘個展「On The Earthシリーズ」（大分銀行本店2階ロビー）が開催され、《人質》150号、《人質の風景》150号、《街角》150号、《街角》150号、《街角》150号、《視座》150号、《創生》150号を出品する。

12月11日～16日 第5回新潮流展（大分県立芸術会館第2、第3展示室）に《作品908—9ブラックホール》F150号、《ブラックホール》F150号を出品する。

#### 1991（平成3）年

5月 行動大分小品展（ギャラリー ラ・セゾン）に《街》を出品する。

6月25日～30日 第18回行動大分作家展（大分県立芸術会館第3展示室）に出品する。

9月1日～16日 第46回行動美術展（東京都美術館）に《街角91—7》F150号、《街角91—8》F150号を出品し、会員に推挙される。

10月1日～6日 第27回大分県美術展（大分県立芸術会館）に《街角91—915》を出品し、大分県美術協会賞を受賞する。

11月6日 第26回大分市民美術展覧会に特別出品し、大分市から感謝状を贈られる。

12月10日～15日 第6回新潮流展（大分県立芸術会館第2、第3展示室）に《街角91—7》F150号他を出品する。

#### 1992（平成4）年

6月9日～14日 第19回行動大分作家展（大分県立芸術会館第3展示室）に《街かど（2）》他を出品する。

7月 児玉成弘小品展（茶房ワークアウト）が開催され、近作16点を出品する。

9月1日～16日 第47回行動美術展（東京都美術館）に《街角’92—7》F 200号を出品する。

12月8日～13日 第7回新潮流展（大分県立芸術会館第2、第3展示室）に《街角91—7》150号、《街角92—7》200号を出品する。

#### 1993（平成5）年

2月7日～14日 行動20周年記念小品展（ギャラリー ラ・セゾン）に出品する。

4月3日～13日 児玉成弘個展（藍ギャラリー）が開催され、《街角’87—1》F 150号、《傾山》他を出品する。

4月6日～11日 第47回行動美術展（大分県立芸術会館第1～第3展示室）に《街角’92—7》F 200号が巡回展示される。

5月1日～6日 日韓露美術作家交流展（韓国・仁川市）に出品する。

6月8日～13日 第20回行動大分作家展（大分県立芸術会館第2展示室）に《想》を出品する。

9月1日～16日 第48回行動美術展（東京都美術館）に《街角’93—7》F 200号を出品する。

12月14日～19日 第8回新潮流展（大分県立芸術会館第2、第3展示室）に《街角—’93—7》F 150号他を出品する。

#### 1994（平成6）年

4月10日～5月15日 第21回行動大分作家展（大分県立芸術会館第3展示室）に《WINDS WAY》他を出品する。

6月5日～7月3日 児玉成弘個展（朝倉文夫記念館）が開催され、《街角’93—7》F 200号を含む、大作32点、小品21点を出品する。

7月24日～8月21日 児玉成弘個展（長者の里ふるさと館）が開催され、《街角’93—7》F 200号を含む、大作31点、小品21点を出品する。

8月2日～7日 日・韓現代絵画交流展（大分県立芸術会館第2展示室）に出品する。

8月17日 児玉成弘個展（長者の里ふるさと館）の関連イベントとして開催されたスケッチ教室を三重町中央公民館で行う。

9月1日～16日 第49回行動美術展（東京都美術館）に《Winds Way》F 150号を出品する。

11月22日～27日 第9回新潮流展（大分県立芸術会館第3展示室）に《Winds Way》F 150号他を出品する。

#### 1995（平成7）年

5月2日～5日 ’95日韓展（韓国・ソウル現代美術館）に出品する。

6月20日～25日 第22回行動大分作家展（大分県立芸術会館第3展示室）に《Work95—5》、《Work95—6》を出品する。

9月1日～16日 第50回記念行動美術展（東京都美術館）に《気化95—7F》F200号を出品する。

11月23日～26日 第10回記念新潮流展（大分県立芸術会館第2、第3展示室）に《作品95—6》F20号他を出品する。

#### 1996（平成8）年

1月30日～2月4日 新潮流福岡展（福岡市美術館B室）に出品する。

2月17日～25日 「第50回行動記念展誘致 行動大分バザール小品展」（コトブキヤ・ギャラリー）に出品する。

4月24日～5月6日 第50回記念行動美術展（大分県立芸術会館第1～第3展示室）に《気化95—7F》F200号が巡回展示される。

6月24日～30日 第23回行動大分作家展（レインボービル7階）に《作品'96—6》F80号、《作品'96—7》F20号を出品する。

9月1日～16日 第51回行動美術展（東京都美術館）に《気流96—7》F200号を出品する。

#### 1997（平成9）年

2月17日～23日 児玉成弘個展（コトブキヤ画廊）が開催され、《BLACK WAVES》他を出品する。

7月15日～20日 第24回行動大分作家展（大分県立芸術会館／第3展示室）に《BLACK WAVES97—3—1》F200号、《Black Waves97—3—2》F200号を出品する。

9月1日～15日 第52回行動美術展（東京都美術館）に《BLACK WAVES97—3》F200号を出品する。

#### 1998（平成10）年

4月 児玉成弘個展（トキハ別府店5階ギャラリー）が開催され、20号から15号の《原生林》、《源流》、《溪谷》他を出品する。

4月28日～5月10日 第25回記念行動大分作家展（大分県立芸術会館第3展示室）に《流域1》200号、《流域2》150号を出品する。

9月1日～16日 第53回行動美術展（東京都美術館）に《New Waves—98—7》F200号を出品する。

12月21日～30日 25周年記念行動大分小品展（大分市・赤レンガ館）に《森・水シリーズ1》、《森・水シリーズ2》を出品する。

12月7日～2月5日 20周年記念現代絵画9人展（大分銀行本店2階ロビー）が開催され、《街角89—M》を出品する。本展には、その他に、飯尾寿夫、江藤明、

十時良、松野良治、御手洗賢司、守末利宏、山崎芳直、渡辺恭英が出品している。

#### 1999（平成11）年

1月5日～31日 児玉成弘油絵展（自宅ギャラリー）を開催する。

5月 日本大分三人書画展（呉昌碩記念館）が開催され、作品33点を出品する。  
本展には、西村春斎、詫間夢鳳が出品している。

6月8日～13日 第26回行動大分作家展（大分県立芸術会館第3展示室）に《流域—1》、《流域—2》、《流域—3》、《流域—4》を出品する。

9月1日～16日 第54回行動美術展（東京都美術館）に《流域’99—MAY—26》F 200号を出品する。

11月30日～12月27日 児玉成弘展（JR由布院駅アートホール）が開催され、《街角’87—1》F 150号を含む、大作11点と小品16点を出品する。

#### 2000（平成12）年

6月13日～18日 第27回行動大分作家展（大分県立芸術会館第3展示室）に《異化21c—5》F 150号、《異化21c—6》F 200号、《異化21c—7》F 200号を出品する。

6月21日～7月23日 大分の洋画20世紀（大分県立芸術会館）が開催され、《構築B》F 100号が展示される。

9月1日～16日 第55回行動美術展（東京都美術館）に《流域2000—8》F 200号を出品する。

#### 2001（平成13）年

6月19日～24日 第28回行動大分作家展（大分県立芸術会館第3展示室）に《構域》F 150号、《構域》F 150号を出品する。

9月1日～16日 第56回行動美術展（東京都美術館）に《構域01—05》F 150号を出品する。

#### 2002（平成14）年

6月10日～16日 行動大分作家協会小品展に《視界2002—1》S M、《視界2002—2》F 3号を出品する。

7月2日～7日 第29回行動大分作家展（大分県立芸術会館第3展示室）に《作品2002—5》F 200号、《作品2002—6》F 200号、《作品2002—7》F 200号を出品する。

9月1日～16日 第57回行動美術展（東京都美術館）に《視界2002—7》F 200号を出品する。

#### 2003（平成15）年

3月3日～8日 Action’03（東京・ギャラリー汲美）に《BLACK WAVES 03—2—

18》F 30号を出品する。

6月24日～29日 第30回行動大分作家展（大分県立芸術会館第3展示室）に《時華2003 3522》210×1000を出品する。

9月1日～16日 第58回行動美術展（東京都美術館）に《時華—2003. 7青へのプロセス》F 200号を出品する。

#### 2004（平成16）年

6月22日～27日 第31回行動大分作家展（大分県立芸術会館第1展示室）に《時華2004—6青へのプロセス》、《時華2003—7青へのプロセス》を出品する。

9月1日～16日 第59回行動美術展（東京都美術館）に《青城2004—7》F 200号を出品する。

#### 2005（平成17）年

7月26日～31日 第32回行動大分作家展（大分県立芸術会館第3展示室）に《青城2004—7》F 200号、《青城2005—7》F 150号を出品する。

9月1日～16日 第60回記念行動美術展（東京都美術館）に《青城2005—7》F 150号を出品する。

9月21日～11月7日 「戦後大分の美術Ⅱ 大分前衛美術会／7人の会」展（大分市美術館）が開催され、《街角1987—1》F 150号、《街角1991—7》F 150号、《視界2002—7》F 200号を出品する。

10月1日 「戦後大分の美術Ⅱ 大分前衛美術会／7人の会」展（大分市美術館）の関連イベントとして開催されたリレー講演会をハイビジョンホールで行う。

12月6日～11日 第20回記念新潮流展'05（大分県立芸術会館第1～第3展示室）に《レクイエム》F 20号を特別出品する。

#### 2006（平成18）年

3月20日 大分市美術館に《街角1987—1》F 150号を寄贈する。

6月27日～7月2日 第33回行動大分作家展（大分県立芸術会館第3展示室）に《生域2006—6》F 150号、《生域2006—7》F 150号を出品する。

9月1日～16日 第61回行動美術展（東京都美術館）に《生域2006—7》F 150号を出品する。

9月13日～24日 児玉成弘個展（ぎやらりー草本）が開催され、《古都の旅 上海近郊》を含む、0号から20号までの小品約50点を出品する。

#### 2007（平成19）年

7月3日～8日 第34回行動大分作家展（大分県立芸術会館第3展示室）に《Green Plan》F 150号、《Green Plan》F 200号を出品する。

9月19日～10月1日 第62回行動美術展（国立新美術館）に《生域2007—G》F 150号を出品する。

2008（平成20）年

5月12日～18日 第35回行動大分小品展（コトブキヤ・ギャラリー）に出品する。

6月24日～29日 第35回行動大分作家展（大分県立芸術会館第3展示室）に《生域—2008》F 150号他を出品する。

9月17日～29日 第63回行動美術展（国立新美術館）に《生域—2008》F 150号を出品する。

2009（平成21）年

6月23日～28日 第36回行動大分作家展（大分県立芸術会館第1展示室）に《蘇生の森1》S 100号、《蘇生の森2》S 100号、《蘇生の森3》F 100号、《蘇生の森4》M200号を出品する。

9月16日～28日 第64回行動美術展（国立新美術館）に《生域2009》F 150号を出品する。

2010（平成22）年

1月30日～3月26日 児玉成弘展（みらいしんきん府内中央支店）が開催され、油彩2点を出品する。

4月15日～25日 「森からの風 児玉成弘小品展」（ギャラリー草本）が開催され、《大野川河口》0号を含む、油彩40点を出品する。

6月17日～7月8日 「郷土在住作家展Ⅳ 児玉成弘展」（大分市美術館）が開催され、初期の《構築B》F 100号、近作の《生域2009》F 150号などの代表作及び関連資料を出品する。

9月15日～27日 第65回行動美術展（国立新美術館）に《生域2010—緑と青》F 150号を出品する。

現在：行動美術協会会員

前行動大分作家協会会長

大分市在住

## 表6 児玉成弘関連文献

### 1. 自筆文献

#### [逐次刊行物]

- 児玉成弘「幻想」教育広報 大分県教育広報協会 1959年6月号
- 児玉成弘「芸術の使命」大分合同新聞 1959年
- 児玉成弘「たきび」教育広報 大分県教育広報協会 1961年2月号
- 児玉成弘「作品V-12」教育大分 大分県教育広報協会 1962年12月号
- 児玉成弘「文化 春の風景④ 街と港」大分合同新聞 1963年2月17日
- 児玉成弘「絵画と思想」美協 大分県美術協会事務局 1963年3月15日号
- 児玉成弘「スケッチ帳から」大分合同新聞（夕刊）1977年8月6日
- 児玉成弘「スケッチ帳から」大分合同新聞（夕刊）1980年12月25日
- 児玉成弘「守末利宏展 感動と追想感を呼ぶ」大分合同新聞 1984年9月11日
- 児玉成弘「行動大分作家展 11年のあゆみと今後の展望」  
行動大分作家協会 1985年3月
- 児玉成弘「ブランコに乗る少女」  
芸振 No. 65 大分県芸術文化振興会議会報 1985年7月号
- 児玉成弘「山香の里に中央文化を 二宮美術館に寄せて」  
大分合同新聞（夕刊）1985年12月19日
- 児玉成弘「堀研個展に寄せて 繊細な色調」大分合同新聞 1987年8月6日
- 児玉成弘「こちら楽しみ女流新人画家 園田ゆかり展をみて」  
大分合同新聞 1992年5月7日
- 児玉成弘「「高木岩義展」に寄せて 見ごたえのある鮮度の高さ」  
大分合同新聞 1992年7月16日
- 児玉成弘「行動大分作家協会創立20周年の歩み」行動大分作家協会 1993年3月
- 児玉成弘「文化「渡辺英樹展」をみて 現代のニーズを敏感に表現」  
大分合同新聞 1994年5月19日
- 児玉成弘「行動美術の新人とベテラン4人が発表会」  
大分合同新聞 1996年2月12日
- 児玉成弘「第50回記念「行動展」大分巡回展に寄せて」  
大分合同新聞（夕刊）1996年4月18日
- 児玉成弘「伊藤裕美子展 緊張感と画肌の輝き」  
大分合同新聞（夕刊）1997年3月20日
- 児玉成弘「首藤盛子、池辺法子2人展から」大分合同新聞（夕刊）1997年4月24日
- 児玉成弘「文化 神路祇隆展を見て 宇宙のリズムを感受」

- 大分合同新聞（夕刊）1997年7月
- 児玉成弘「油絵「四人展」をみて」大分合同新聞 1998年6月25日
- 児玉成弘「汐月頭 初の大作展 純粹絵画での今日性に迫る」  
大分合同新聞 1999年3月4日
- 児玉成弘「文化 高木岩義個展を見て」大分合同新聞 1999年10月28日
- 児玉成弘「汐月頭個展「廃船、流木による実験展」に寄せて」  
大分合同新聞 2000年3月30日
- 児玉成弘「鹿出玲次・首藤盛子兄妹展を見て ほほ笑ましく、2回目」  
大分合同新聞 2000年10月5日
- 児玉成弘「油絵4人展 新時代への希望とメッセージを託す」  
大分合同新聞 2000年12月3日
- 児玉成弘「女性4人の油絵展 新鮮な輝きとあふれる個性」  
大分合同新聞（夕刊）2001年10月18日
- 児玉成弘「第32回行動大分作家展 現代アートの実験場 若手新人加わり層厚く」  
大分合同新聞（夕刊）2005年7月28日
- 児玉成弘「「7人の会」作家群像」大分市美術館 2005年9月
- 児玉成弘「鹿出の杜の二人展（首藤盛子、池辺法子）～地域、仲間に支えられて～」  
首藤盛子、池辺法子二人展パンフレット 2005年9月吉日
- 児玉成弘「嶋田純子・三浦和代の「ふたり展」」大分合同新聞 2005年11月14日
- 児玉成弘「池辺法子ドンゴロス展 時代のロマン感じる20点」  
大分合同新聞 2007年6月
- 児玉成弘「嶋田純子初の大作個展 さんぜんと輝く心象風景」  
大分合同新聞 2008年5月
- 児玉成弘「ヨーロッパ絵画名作展「生のあり方」語る傑作」  
大分合同新聞（夕刊）2008年7月10日
- 児玉成弘「やなせたかしの芸術に触れて 他者を生かす自己犠牲」  
大分合同新聞（夕刊）2009年7月30日

## 2. 関連記事

### [単行書]

- 狭間久「大分県文化百年史」大分合同新聞 1969年2月15日発行
- 大分県美術協会 20周年記念誌「美を拓く大分」1984年発行
- 後藤龍二「大分の近代美術 明治・大正・昭和」1992年10月30日発行
- 大分合同新聞「大分県人名録」1993年5月15日発行
- 山崎芳直・菅久「大分銀行本店ロビー展美術時評集」1995年1月30日発行

大分県立芸術会館「大分の洋画 20世紀」2000年6月21日発行

新潮流の会「新潮流の会 15年の記録」2001年3月発行

大分市美術館「戦後大分の美術Ⅰ スバル<一断面>展」2003年2月発行

大分県美術協会 40周年記念誌「大分県美術協会 40年のあゆみ」2005年3月31日発行

大分市美術館「戦後大分の美術Ⅱ 大分前衛美術会/7人の会」2005年9月発行

### [カタログ・パンフレット]

第1回7人の会 1968年/第2回7人の会 1969年/第3回7人の会 1970年/第4回7人の会 1972年

潮流展'80 1980年/潮流展'81 1981年/潮流展'82 1982年/潮流展'83 1983年  
潮流展'84 1984年/潮流展'85 1985年

第1回新潮流展 1986年/第2回新潮流展 1987年/第3回新潮流展 1988年/第4回新潮流展 1989年/第5回新潮流展 1990年/第6回新潮流展 1991年/第7回新潮流展 1992年/第8回新潮流展 1993年/第9回新潮流展 1994年/第10回記念新潮流展 1995年

行動大分作家協会「行動大分 十一年小史」1985年3月

行動大分作家協会「行動大分 20年小史」1993年3月

行動大分作家協会「'25 行動大分記念小史」1998年4月20日

行動大分作家協会「35 行動大分記念小史」2008年

由布院駅アートホール等企画運営会議「ゆふいんアート情報/表紙」1999年9月号

### [新聞記事]

「文部大臣賞 児玉氏に 県美展の受賞者決定」毎日新聞 1958年10月19日

「文化 紙上県美展 文部大臣賞「構築B」児玉成弘(佐伯市)」

毎日新聞 1958年10月

K「文化 県美展を見て 野心作の少ない日本画」大分合同新聞 1958年10月23日

「県美展をかえりみて」座談会 出席者 宮崎豊/菅久/小野一郎/脇正人/宮崎記者  
大分合同新聞 1959年6月1日

「百号の大作など30点 きょうからスバル展」大分合同新聞 1959年8月25日

浜田九一郎「学芸 スバル展をみて 充実した作品ぞろい」

大分合同新聞 1959年8月

東京支社「中央展・県関係者の活躍ぶり 二紀」大分合同新聞 1959年11月6日

長谷目源太「学芸 廃墟をどう描くか 画家の甘さをつく」

大分合同新聞 1959年12月2日

神田千里「学芸 廃墟からの前進=長谷目源太に答えて=」

大分合同新聞 1959年12月9日  
「ことしの県文化界回顧（中） 新しい世代の台頭」

大分合同新聞 1959年12月28日  
「文化 県美展をみて」 座談会 出席者 宮崎豊／菅久／小野一郎／安藤真／合同  
田中文化部長 大分合同新聞 1960年5月7日

「大分前衛美術会生まれる」大分合同新聞 1960年6月19日  
「新しい美術運動起こす 大分前衛美術会の誕生」大分合同新聞 1960年6月20日  
「第三期に踏み出した県画壇 新グループ続々誕生」大分合同新聞 1960年8月8日

F 「東京の展覧会から 二紀展」大分合同新聞 1960年10月22日  
「文化 春の県美展をみて 洋画・写実作品に秀作」大分合同新聞 1962年4月  
長谷目源太「春季県美展をみて アンケート ㊤ みずみずしさが欲しい」  
大分合同新聞 1965年5月7日

「文化 県美展をみて 洋画 江藤純平氏」大分合同新聞 1966年5月13日  
Q 「笛 「七人の会」発足」大分合同新聞 1967年12月25日  
「バラエティーにとんだ春の県美展」 出席者 宮崎豊／菅久／田川奨／十時良／合  
同 宮瀬香多士 大分合同新聞 1968年5月23日

「火花散らす「七人の会展」ずらり意欲作70点」西日本新聞 1968年6月14日  
Q 「笛 二つの展覧会」大分合同新聞 1968年6月17日  
「「七人の会」美術展始まる “百号の大作”ばかりずらり」  
大分合同新聞 1968年6月18日

「文化 第一回展を開いた「七人の会」互いの“勝負の場”に」  
大分合同新聞 1968年6月21日

宇治山哲平、河野彰「文化「七人の会」展を見て」大分合同新聞 1968年6月21日  
「ことしの県文化界<上>注目を集めた七人の会展」  
大分合同新聞 1968年12月28日

「「七人の会展」始まる」大分合同新聞 1969年7月8日  
「展覧会 7人の会展」朝日新聞（夕刊）1969年7月9日  
「文化 確立してきた個性「七人の会展」合評会から」  
大分合同新聞 1969年7月12日

「あすの催し「7人の会展」は最終日」大分合同新聞（夕刊）1969年7月12日  
「続・大分人脈<2>大分市編 若手に十時、小川ら」西日本新聞 1969年10月8日

P 「美術展評 招待者をむかえて「七人の会」展」  
大分合同新聞（夕刊）1970年7月24日

「県美展きょう第3弾」大分合同新聞 1973年11月22日  
「県美展「日洋彫工」展審査評 井出宣通」大分合同新聞（夕刊）1973年11月23日

「行動大分作家展」大分合同新聞 1974年6月5日  
Y「美術展評 第一回行動大分作家展 なみなみならぬ意欲作が一堂に」  
大分合同新聞（夕刊）1974年6月8日  
東京支社「東京画信 行動美術展」大分合同新聞（夕刊）1974年9月27日  
「行動大分作家展」大分合同新聞 1975年6月  
T「美術展評 近年になく充実 行動大分作家展」  
大分合同新聞（夕刊）1975年6月6日  
「会長選出、結論せず 県美協総会」大分合同新聞 1975年6月16日  
東京支社「東京画信 二科展と行動美術展 県出身者の作品から」  
大分合同新聞（夕刊）1975年10月3日  
「行動大分作家展始まる」大分合同新聞（夕刊）1975年12月23日  
「壮観！多彩な108点 大分市 行動美術展オープン」大分合同新聞 1976年5月  
「行動美術展きょうふたあけ」大分合同新聞 1976年5月7日  
「県下では初公開 行動美術展30周年記念展から」大分合同新聞 1976年5月  
「行動美術展で気をはく県関係者」大分合同新聞（夕刊）1976年5月8日  
「春の県美展 合評」大分合同新聞 1976年6月4日  
「行動大分作家展」大分合同新聞 1976年7月10日  
東京支社「東京画信 活躍する県関係作家」大分合同新聞（夕刊）1976年9月13日  
「行動大分作家展」大分合同新聞 1977年6月  
山崎芳直「行動大分作家展 あふれる創造の喜び」大分合同新聞 1977年6月6日  
東京支社「東京画信 商業美術で特選の玉田氏（臼杵）」  
大分合同新聞（夕刊）1977年9月17日  
「O・G賞に岡崎、露木氏 県美展・日洋彫工展きょう開幕」  
大分合同新聞 1977年11月25日  
「県美展いよいよ“本番” 日本画、洋画、彫刻、工芸展始まる」  
西日本新聞 1977年11月26日  
「県美展「日洋彫工」展評 審査員 宇治山哲平」  
大分合同新聞（夕刊）1977年11月26日  
「ずらりツブぞろいの力作 春季県美展評」大分合同新聞 1978年5月  
「力作、大作ずらり 行動大分作家展始まる」大分合同新聞 1978年5月  
菅久「異色のグループ行動大分作家展」大分合同新聞（夕刊）1978年6月3日  
T「笛 講評だった行動展」大分合同新聞 1978年6月6日  
東京支社「東京画信 行動展」大分合同新聞 1978年10月4日  
山崎芳直「見ごたえある行動大分作家展 秋の本展へ力強い一歩」  
大分合同新聞 1979年5月26日

T 「笛 講評だった行動展」大分合同新聞 1979年6月

「文化短信 第一回潮流展」大分合同新聞 1980年1月16日

東京支社「東京画信 美術の秋 活躍する県出身者 行動展」

大分合同新聞 1980年9月

首藤三郎「潮流展'80」を見る 今を生きる姿勢」

大分合同新聞 1980年11月18日

「出品、最高の451点 きょうから労美展」大分合同新聞 1981年2月18日

「美術展評 ほっとした親しみ 四人展」大分合同新聞 1981年4月3日

「全体として意欲的 行動大分作家展 田中氏に聞く」

大分合同新聞 1981年6月19日

東京支社「初の「三人展」児玉成弘・守末利宏・高木岩義」

大分合同新聞 1981年9月15日

東京支社「東京画信 秋の公募展・・・県関係者の活躍を追う 行動展」大分合同新聞 1981年9月22日

「より豊かな創造を求めて 潮流展'81」 出席者 宇治山哲平／岩尾秀樹／神田千里  
／合同 宮崎寛一郎文化部長 大分合同新聞（夕刊）1981年12月3日

「行動大分作家展」大分合同新聞 1982年7月10日

山崎芳直「行動大分作家展をみて 熱気を秘めた会場」

大分合同新聞 1982年7月11日

「児玉成弘個展」大分合同新聞 1982年11月23日

神田千里「児玉成弘個展に寄せて」大分合同新聞 1982年12月2日

「潮流展に寄せて／座談会」 出席者 岩尾秀樹／江藤明／神田千里／脇正人／山崎哲  
一郎／日名子金一郎／合同 狭間久文化部長 大分合同新聞 1982年12月5日

「中堅、新鋭20人が出品「潮流展'82」開く」

大分合同新聞（夕刊）1982年12月7日

宇治山哲平「「潮流展'82」をみて 好感が持てる堅実さ」

大分合同新聞 1982年12月9日

「キラリ大作100点 全西部行動展ふたあけ」

大分合同新聞（夕刊）1983年6月28日

「第2回全西部行動展 招待作家の個評」大分合同新聞（夕刊）1983年6月30日

東京支社「東京画信 秋の公募展第一陣 行動展」大分合同新聞 1983年10月4日

「県美展「日洋彫工展」審査評 針生一郎」大分合同新聞（夕刊）1983年10月27日

「「潮流展'83」の合評会」大分合同新聞（夕刊）1983年12月1日

首藤三郎「「潮流展'83」をみて」大分合同新聞（夕刊）1983年12月8日

風倉匠「「潮流展'83」をみて」大分合同新聞（夕刊）1983年12月8日

「行動大分小品展」大分合同新聞 1983年12月15日  
「第十一回行動大分作家展」大分合同新聞 1984年5月31日  
菅久「日曜文化 行動大分作家展を見て ふと新野獣派を見た」  
大分合同新聞 1984年6月3日  
「県在住作家シリーズ'84 来月7日から芸館で」大分合同新聞 1984年7月10日  
東京支社「東京画信 美術の秋・県関係者の活躍 行動展」  
大分合同新聞 1984年10月4日  
「5周年の潮流展 座談会」 出席者：山崎芳直／渡辺恭英／飯尾寿夫  
大分合同新聞 1984年12月9日  
「「潮流展'84」オープン 27人が意欲作130点」  
大分合同新聞（夕刊）1984年12月11日  
「潮流展'84をみて 久間清喜－広瀬通秀 洗練された緊張感も」  
大分合同新聞 1984年12月13日  
「行動大分作家展も」大分合同新聞 1985年7月  
広田肇一「日曜文化 行動大分作家展をみて」大分合同新聞 1985年7月14日  
東京支社「県関係者活躍の跡 東京画信・秋の公募展① 行動美術展」  
大分合同新聞 1985年10月3日  
「秋の小品18人展」大分合同新聞 1985年11月13日  
「潮流展'85を考える 座談会」大分合同新聞 1985年12月1日  
「気鋭の105点 潮流展開幕」大分合同新聞 1985年12月3日  
「「潮流展'85」をみて 副島三喜男」大分合同新聞（夕刊）1985年12月5日  
「潮流展が解散」大分合同新聞（夕刊）1986年4月17日  
「新しい絵画創造へ 12月に第1回展 「新潮流の会」が発足」  
大分合同新聞 1986年5月1日  
「県立芸館で2つの展覧会始まる」大分合同新聞 1986年6月26日  
「日曜文化 行動大分作家展をみて 大門清次」大分合同新聞 1986年6月29日  
東京支社「東京画信 秋の公募展① 行動展」大分合同新聞 1986年9月18日  
脇正人「第1回新潮流展に寄せて」大分合同新聞 1986年12月  
「初の「新潮流展」開幕 中堅16人が大作展示」大分合同新聞 1986年12月4日  
「平面の限界を破れ 新潮流展の印象と個評 安永幸一氏」  
大分合同新聞 1986年12月7日  
「絵画フォーラム「新しい絵画創造」」大分合同新聞 1986年12月11日  
「第十四回行動大分作家大分展」大分合同新聞 1987年6月25日  
大門清次「著しい進境をみせる 行動大分作家展を見て」  
大分合同新聞 1987年6月25日

「文化短信 新潮流の会総会」大分合同新聞 1987年7月2日  
東京支社「秋の公募展県関係者の活躍① 光る児玉の「街角87・・・」  
大分合同新聞 1987年9月20日  
「県美展・日洋彫工展を審査して 日向あき子」  
大分合同新聞（夕刊）1987年10月22日  
「新潮流展始まる 気迫こもった45点」大分合同新聞 1987年12月3日  
Q「第二回新潮流展を見て」大分合同新聞 1987年12月6日  
満生和昭「新潮流展を見て」大分合同新聞（夕刊）1987年12月10日  
「協会長を再選 新潮流の会総会」大分合同新聞 1988年3月10日  
「第42回行動展 来月8日から」大分合同新聞 1988年5月26日  
加藤康彦「第42回行動展へのお誘い 気鋭作家の作品129点」  
大分合同新聞 1988年6月5日  
「第42回行動展」を招いた大分行動作家協会代表＜児玉成弘さん＞  
大分合同新聞 1988年6月10日  
脇正人「第42回行動展を見て“清新な抽象”“重厚な具象”」  
大分合同新聞 1988年6月12日  
「来年1月6日から「大分の作家たち」芸館の企画展」  
大分合同新聞 1988年6月30日  
大門清次「変わろうとする気持ちが・・・行動大分作家展の講評」  
大分合同新聞 1988年7月28日  
「第十五回行動大分作家展」大分合同新聞 1988年7月29日  
東京支社「秋の公募展 第一陣 行動展」大分合同新聞 1988年9月22日  
神田千里「今一つの意義を 新潮流展の方向」大分合同新聞 1988年11月6日  
「個性あふれる作品群「新潮流展」始まる」大分合同新聞 1988年11月  
「新潮流展の合評会から」大分合同新聞（夕刊）1988年11月24日  
N「ノート「新潮流展」に思う」大分合同新聞（夕刊）1988年11月24日  
「やさしく現代美術 展覧会やフォーラム 6日から芸術会館で」  
大分合同新聞 1988年12月27日  
「大分の作家13人競作 現代の美術・描く展開幕」  
大分合同新聞（夕刊）1989年1月6日  
「13人の抽象画など60点「大分の作家たちⅠ 現代の美術ー描く」展」  
朝日新聞 1989年1月7日  
「現代の美術ー描く」展 出品作家を含むフォーラムから」  
大分合同新聞（夕刊）1989年1月19日  
神田千里「大作のエネルギー「現代の美術ー描く」を見て」

大分合同新聞 1989年1月22日

「行動大分作家展」大分合同新聞 1989年6月22日

大門清次「行動大分作家展を見て 年々強まる“競争”の度合い」

大分合同新聞 1989年6月22日

「人 児玉成弘さん」大分合同新聞 1989年6月

東京支社「東京画信 秋の公募展第一陣 行動展」大分合同新聞 1989年9月21日

岩尾秀樹「日曜文化 新潮流展の現状と今後」大分合同新聞 1989年11月19日

「21人の作家「新潮流展」一意欲作ズラリ47点」大分合同新聞 1989年11月

「“内輪”からの脱皮を「新潮流展」合評会から」大分合同新聞 1989年11月

「第十七回行動大分作家展’90」大分合同新聞 1990年7月25日

「「行動大分作家展」を見て 落ち着いた雰囲気」大分合同新聞 1990年7月26日

「児玉成弘油彩展」毎日新聞 1990年9月12日

東京支社「秋の公募展 行動展」大分合同新聞（夕刊）1990年9月20日

脇正人「児玉成弘油彩展（ふるさと風物シリーズ）を見て」

大分合同新聞 1990年9月28日

「90児玉成弘油絵展」毎日新聞 1990年12月6日

「90児玉成弘油絵展「On the Earthシリーズ」」大分合同新聞 1990年12月6日

「11日から新潮流の会展 21人が大作60点」

大分合同新聞（夕刊）1990年12月6日

「第5回新潮流展」大分合同新聞 1990年12月7日

「個性豊かな51点「新潮流展」が始まる」大分合同新聞 1990年12月

神田千里「児玉成弘展 壮大な気構え」大分合同新聞 1990年12月20日

「行動大分小品展」大分合同新聞 1991年5月16日

「第十八回行動大分作家展’91」大分合同新聞 1991年6月26日

「変わろうとする努力 行動大分作家展’91評」大分合同新聞 1991年6月27日

「OG賞秋好、日名子さん きょうから県美展の日洋彫工展」

大分合同新聞 1991年10月3日

東京支社「東京画信 秋の公募展 行動展」大分合同新聞 1991年10月20日

加藤康彦「日曜文化「新潮流展の会第6回展」に寄せて」

大分合同新聞 1991年12月8日

広瀬通秀「日曜文化 新潮流展を見て 個性の共鳴と連帯感」

大分合同新聞 1991年12月15日

「4新人を迎え会員は25人に 新潮流の会」大分合同新聞 1992年5月7日

「「行動大分作家展」始まる」大分合同新聞（夕刊）1992年6月11日

大門清次「「行動大分作家展」を見て 新人増え全体に元気さ」

大分合同新聞（夕刊）1992年6月11日  
「児玉成弘小品展」大分合同新聞 1992年6月23日  
「文化 韓国の絵画に出会える！！美術作家の交流実現へ」  
大分合同新聞（夕刊）1992年7月2日  
東京支社「東京画信 県出身者の作品を紹介 行動展」  
大分合同新聞 1992年9月19日  
首藤三郎「たのしみな新潮流展」大分合同新聞 1992年11月26日  
「第7回新潮流展が開幕」大分合同新聞 1992年12月  
満生和昭「新潮流展を見て」大分合同新聞（夕刊）1992年12月10日  
「活動20周年の記念小品展 行動大分作家協会」大分合同新聞 1993年2月9日  
「韓国、ロシアと絵画で交流 大分の美術作家23人」  
大分合同新聞 1993年3月11日  
「第47回行動展 来月6日から県立芸館で 5年ぶりに大分で」  
大分合同新聞（夕刊）1993年3月11日  
「ひと 創立20周年を迎えた行動大分作家協会の代表＜児玉成弘さん＞」  
大分合同新聞 1993年4月5日  
「児玉成弘個展」大分合同新聞 1993年4月6日  
「146点の大作群 大分市で「行動展」開幕」大分合同新聞（夕刊）1993年4月6日  
脇正人「文化 第47回行動展をみて あくなきチャレンジ」  
大分合同新聞 1993年4月8日  
満生和昭「児玉成弘個展を見て」大分合同新聞 1993年4月8日  
江藤明「文化 第47回行動展をみて」大分合同新聞 1993年4月10日  
「第20回・行動大分作家展」大分合同新聞 1993年6月10日  
「行動大分20回展 大門清次さんが辛口“個評”」大分合同新聞 1993年6月10日  
東京支社「東京画信 秋の公募展 県関係者の作品紹介 行動展」  
大分合同新聞 1993年9月16日  
「来月14日から新潮流展」大分合同新聞 1993年11月18日  
宮崎寛一郎「第8回新潮流展に寄せて」大分合同新聞 1993年12月9日  
「「新潮流展」始まる 大作ズラリ 高い完成度」大分合同新聞 1993年12月14日  
山木朝彦「文化 第8回新潮流展を見て」大分合同新聞（夕刊）1993年12月16日  
「チャレンジ精神豊かに 行動大分作家展」大分合同新聞 1994年4月  
「文化 個性化ますます 行動大分作家展評 大門清次さんに聞く」  
大分合同新聞 1994年5月12日  
「朝倉文夫ホールで児玉さんの絵画展」大分合同新聞 1994年6月  
菅章「文化 児玉成弘展をみて あくなき探究の道程」

大分合同新聞 1994年6月21日

「初の長者の里美術展開く」大分合同新聞（夕刊）1994年7月27日

東京支社「東京画信 芸術の秋たけなわ」大分合同新聞 1994年9月29日

神田千里「「新潮流展」の展望」大分合同新聞 1994年11月17日

「「新潮流展」始まる」大分合同新聞 1994年11月22日

加藤康彦「そつのなさにいらだち 新潮流展に思う」

大分合同新聞 1994年11月24日

大門清次「文化「行動大分作家展」評 他県にない個性」大分合同新聞 1995年6月

「行動展」大分合同新聞 1995年9月

岩尾秀樹「第10回記念新潮流展に寄せて」大分合同新聞（夕刊）1995年11月16日

「迫力十分の50点「新潮流展」が始まる」大分合同新聞（夕刊）1995年11月23日

長谷目源太「日曜文化 この10年と新潮流展と」大分合同新聞 1995年11月26日

「初の福岡で「反響大」大分合同新聞 1996年2月

菅章「第10回記念「新潮流展・福岡展」を見て」大分合同新聞 1996年2月4日

「ひと 第50回記念「行動展」を招致する<児玉成弘さん>」

大分合同新聞 1996年4月19日

満生和昭「第50回記念「行動展」を見て 見ごたえある会場」

大分合同新聞 1996年4月28日

脇正人「第50回記念「行動展」を見て 目立った実験作」

大分合同新聞（夕刊）1996年5月2日

「若手作家の作品を順番に展示 大銀古国府支店」大分合同新聞 1996年6月1日

「第23回・行動大分作家展」大分合同新聞 1996年6月

「行動大分作家展 大門清次氏が“辛口”の講評」大分合同新聞 1996年6月27日

東京支社「東京画信 行動展」大分合同新聞 1996年9月23日

「児玉成弘個展」大分合同新聞 1997年2月

満生和昭「児玉成弘個展を見て 黒を塗り込めたカオスの世界」

大分合同新聞 1997年2月23日

「第24回行動大分作家協会展」大分合同新聞 1997年7月17日

「第24回行動大分作家展の講評 阿部平臣、大門清次氏」

大分合同新聞（夕刊）1997年7月

「文化 行動展」大分合同新聞（夕刊）1997年9月18日

「児玉成弘油絵展」大分合同新聞 1998年4月

Y「文化 児玉成弘個展から 渾身の心象風景」大分合同新聞 1998年4月2日

「行動大分が25回記念展 28日から県芸館で」大分合同新聞 1998年4月20日

東京支社「東京画信 二科展・行動展・主体展・院展 県関係者の作品紹介」

大分合同新聞 1998年10月29日  
大分銀本店ロビー展運営委員「現代絵画9人展」に寄せて」  
大分合同新聞（夕刊）1998年12月21日  
「25周年記念行動大分小品展」大分合同新聞 1998年12月24日  
脇坂秀樹「月曜文化 児玉成弘新春油絵展と大分市美術館の開館に寄せて」  
大分合同新聞 1999年1月18日  
狭間久「日曜文化 民間交流に大きな成果 上海で県人3人書画展～上～」  
大分合同新聞 1999年5月16日  
狭間久「民間交流に大きな成果 上海で県人3人書画展～下～」  
大分合同新聞 1999年5月17日  
渡辺恭英「第26回「行動大分作家展」エネルギッシュな作品群」  
大分合同新聞（夕刊）1999年6月10日  
東京支社「東京画信 行動展」大分合同新聞 1999年9月  
「児玉成弘展」朝日新聞 1999年12月  
清原保雄「社会を告発する鋭さ 児玉成弘さん個展」  
大分合同新聞 1999年12月12日  
清原保雄「文化 磁力いっぱい行動大分作家展」  
大分合同新聞（夕刊）2000年6月15日  
「地区全体が芸術 上野の森フェスタ始まる」大分合同新聞 2000年11月4日  
「芸術のつながりを形に 益金でベンチ」大分合同新聞 2001年3月13日  
清原保雄「展評 行動大分作家展 エネルギッシュで充実感」  
大分合同新聞（夕刊）2001年6月21日  
東京支社「東京画信 汐月さん、行動美術賞 行動展」  
大分合同新聞 2001年9月24日  
菅章「行動大分作家展“集団の壁”破る胎動期待」大分合同新聞 2002年7月4日  
「論説 上野の森、永久に フェスティバルと観察会」  
大分合同新聞 2002年11月2日  
田中稔之「行動大分作家展の講評 東京でも目立つ県作家」  
大分合同新聞（夕刊）2003年6月26日  
十時良「行動大分作家展を見て“熱き心”伝える」大分合同新聞 2004年6月  
菅章「大分前衛美術会／7人の会ーその見どころ」  
大分合同新聞（夕刊）2005年9月15日  
「パイオニアみなぎる情熱 前衛美術会／7人の会」  
大分合同新聞（夕刊）2005年9月21日  
「エネルギッシュ 県画壇をリード 大分前衛美術会／7人の会」

- 大分合同新聞 2005年9月26日  
「戦後大分の美術Ⅱ」展リレー講演会 児玉成弘さん
- 大分合同新聞 2005年10月17日  
脇正人「行動大分作家展 感じる「情熱と努力」」
- 大分合同新聞（夕刊）2006年6月29日  
「児玉成弘個展 淡い色彩、レトロ感増幅」大分合同新聞（夕刊）2006年9月21日  
「8日まで「行動展」県立芸術会館で 意欲ひしひし15人の「挑戦」」
- 大分合同新聞 2007年7月5日  
小川善規「行動大分作家展 圧巻、競い合う「叫び」」
- 大分合同新聞（夕刊）2008年6月26日  
東京支社「東京画信 国立新美術館で行動展」
- 大分合同新聞（夕刊）2008年10月2日  
「上野の森フェスタ“先駆者”の児玉成弘さん 自宅ギャラリー10周年」
- 大分合同新聞 2008年10月25日  
「充実と進化「行動大分の女性たち展」」大分合同新聞（夕刊）2009年3月5日
- 佐藤直司「行動大分作家展 気迫と緊張感 意欲作ズラリ」
- 大分合同新聞（夕刊）2009年6月25日  
東京支社「東京画信 小野進が初入選 国立新美術館で「行動展」」
- 大分合同新聞（夕刊）2009年10月8日  
「心地よい“森からの風”洋画家・児玉成弘さん作品展」
- 大分合同新聞（夕刊）2010年4月15日  
「児玉成弘さんの半世紀振り返る 郷土在住作家展Ⅳ」
- 大分合同新聞（夕刊）2010年6月17日  
清原保雄「伝わる自然の息遣い 児玉成弘展」
- 大分合同新聞（夕刊）2010年6月24日  
合田習一「知性、感性に伝達する作品群 行動大分作家展」
- 大分合同新聞（夕刊）2010年6月24日